

佛國刑法講義

後卷



6551
2



特 719
6551
2

後第壹號

刑法會議筆記



八年正月十日

刑法會議

乙丑氏
龍田

刑法會議筆記

八年十二月十日

先達テ中ノ講義ニテ刑法中ノ大体ハ粗解得
セリ故ニ格別ノ詳悉ヲ要セサレ氏先ツ刑法
書ノ正條ヲ逐々順序ヲ立テ各犯罪上ニ就テ
其刑ノ權衡ヲ比較シ講セラレニ丁ヲ要ス
通常ノ人民ニ對シタル犯罪カ又ハ國ノ安寧
ニ關スル犯罪カ何レヲ先キニ講スヘキヤ
國ノ安寧ニ關スル罪ヲ以テ先キニ講セラレ
ニ丁ヲ乞フ
通常ノ犯罪ノ内ニハ常人ノ身上ニ關スル丁
ト財産ニ關スル丁トノ差別アリ之レハ暫ク
置テ論セサルナリ

第七十五條ヨリ講スヘシ

此條中ニ佛蘭西一對シ兵器ヲ弄スル佛蘭西人ハ死刑ニ処スヘシトアリ

此犯罪ニ付テハ政事ノ罪ト為スヘキカ又ハ通常ノ罪ト為スヘキカノ判別ヲ為スコト肝要ナリ

政事ノ罪ト為ス時ハ死刑ニアラス通常ノ罪ト為ス時ハ死刑ナリ

千八百四十八年ノ布告ヲ以テ政事ノ罪ニ死刑ヲ廢セル丁ハ國民一般皆知ル処ナリ

然シ本條中ニ之ヲ死刑ニ処スルハ如何ナル犯罪ノ種類ニ属スルト云フ丁ノ明文ナシ

故ニ此犯罪ヲ以テ政事ノ罪ト為スヘキヤ否

ヤノ監定ヲ為ス丁ハ全ク裁判官ノ意見ニ一任シタルモノナリ

然シ此裁判官ニ於テ或ハ其監定ノ見解ヲ異ニスル丁アリ

故ニ現今ノ實際ニ於テハ此條ノ主意ヲ以テ或ハ通常ノ罪ニ用ヒ或ヒハ政事ノ罪ニ用ユ

ル等ノ區々ナル丁アリ

例ハ「ポルド」ノ裁判官ハ政事ノ罪ト為セトモ巴里ノ裁判官ハ政事ノ罪ニアラスト為

ス等ノ差異ヲ生スル丁アリ

其差異アル時ハ或ハ死刑ト言渡シタル者ヨリ大審院へ上告シ破棄ヲ求ムルナリ

審院ニテハ改事ノ罪ト為ス等ノ差異ヲ生ス
ルナリ

又大審院ニテモ或ヒハ最初ノ取調ニテハ改
事ノ罪ト為シタルモノヲ最後ニ至リ通常ノ
罪ト為ス等ノ差異ヲ生スルナリ

故ニ此一條ヲ以テ兩様ニ用ユルナリ

一体改事ノ罪ハ死刑ニ処セス通常ノ罪ハ死
刑ニ処スルノ差異アリ故ニ之レハ別段ニ差
別ヲ立テ其布告ヲ為ス可キナリ

第七十五條ノ主意ニ從ヒ之レヲ論ズルトモ
此條中ノ意味ニテハ内乱ヲ起シタルモノハ
為メニ設ケタルカ又ハ外國ノ荷擔シテ佛國
ニ鬭争ヲ起シタル者ノ為メニ設ケタルカ其

主意分明ナラサルナリ然レハ全ク佛國
人ニテ外國ノ荷擔ヲ為シタル者ノ為メニ設
ケタル法ナリ

之レハ國亂ノ為メニ設ケル法ノ様ニ見ユル
ナリ

然ラハ外國ノ兵ノ荷擔シテ佛國ノ鬭争ヲ起
シタルモノナリ

之レハ改事ノ罪ト為スヘキカ如シト虽氏決
シテ改事ノ罪ニアラス通常ノ罪ナリ

何トナレハ改事ノ罪ノ性質ヲ概言スレハ國
ノ改体ヲ一變セントシテ一揆等ヲ起スモノ
ヲ言フナリ

然レ氏第七十五條以下ノ罪ハ自國ノ者ノ外

國人同様ニ為リ武器又ハ臺場等ヲ敵國へ渡
 サントスル所業ヲ為シタルナリ
 之レハ最モ兇惡ノ甚シキモノナリ然レモ純
 然タル政事ノ罪ニアラス
 此条ニ於テ最モ肝要ニ着目スハキハ政事ノ
 罪カ又ハ通常ノ罪カヲ判別シ之ニ仍テ死刑
 ニ処スルカ又ハ流刑ニ処スルカ裁決スヘキ
 ナリ
 又此裁決ノミナラス尚ホ別ニ肝要ト為ス処
 ノ主意ノ存スルナリ
 其政事ノ罪カ通常ノ罪カノ區別ニ仍テハ酌
 量輕減スル場合ニ於テ大ヒニ差異ヲ生スル
 ナリ

例ハ政事ノ罪ハ城寨中ノ流刑ヨリ輕減シ
 テ單一ノ流刑又之ヲ輕減シテ囚獄ノ刑ニ為
 スナレモ通常ノ罪ハ死刑ヨリ輕減シテ無期
 ノ徒刑又之ヲ輕減シテ有期ノ徒刑ト為ス如
 シ最初ノ判別ニヨリ大ヒニ差異ヲ生スルナ
 リ
 教師ノ說ニテハ先ツ此條ノ本旨ハ通常ノ罪
 ト為シ置キ若シ政事ノ罪ノ者アリ其情狀此
 本旨ト同一ナル時ハ矢張同罪ノ中ニ入レテ
 論スヘト為スナリ
 以前ヨリ此条ハ政事ノ罪ト為シタルモノニ
 アラス故ニ全ク自國人ノ外國人へ荷擔シタ
 ル罪ナリ其國內ニテ叛逆ノ罪ヲ犯シタルモ

ノハ即チ第九十一条以下ニアリ
以前ハ國事犯ニモ通常ノ罪同様死刑アリ故
ニ此条アリト雖モ別ニ差障ル丁ナシ然シ現
今國事犯ニ於テ死刑ヲ廢シタル上ハ國事犯
ト為スヘキカ通常ノ罪ト為スヘキカヲ判別
スヘキナリ
然シ現今ノ裁判官ニテハ之レハ全ク政事ノ
罪ニアラスト為スナリ
一体國事犯ニ於テ死刑ヲ廢シタル時此条ハ
何レニ屬スヘキカヲ彙ト極ムヘキナリ
又之ヲ酌量輕減スヘキ時ハ如何ト云フコト
ヲモ極ム可キナリ
已ニ其極メナキ上ハ此条ヲ先ツ通常ノ罪ト

為シ之ヲ裁判スヘキナリ
國事犯ト為シテ當然ノモノハ第八十七條以
下ノ罪ナリ

第八十六條ハ其犯罪ノ事柄ハ極重キモノナレ
トモ矢張通常ノ罪ト見做スナリ

此條ハ皇帝ノ生命及ヒ身体ニ對シタル暴行
云々トアリ
之レハ其事柄ハ極重キコトナレ氏通常ノ罪
ト為スナリ

此後條ニ至テハ閔刑ヲ以テ即チ城寨中ノ流
刑ト為スコトアリ然ルニ此条ニテ死刑ト為
スハ如何ナルコトナレヤ
後條ノ場合ハ全ク政事ノ罪ト為スナリ

此條ト後条ノ場合トニ於テ其罪ノ性質ハ如何ナル區別アリヤ

一体故殺謀殺ハ常人ニ對シテモ死刑ナリ又皇帝ニ對シテモ死刑ナリ

然ルニ此條中ノ本旨ハ皇嗣ヲ紊リ其皇族ヲシテ帝位ニ即カシメン丁ヲ妨ケンカ為メニ犯シタル罪ヲ云フ即チ之レハ政事ノ罪ト為スナリ

之レハ他ノ罪ヲ犯カサント為ル為メニ牽連シタル罪ニアラス全ク皇族ヲ除キ他ニ退ケンカ為メニ犯シタルモノナリ

第八十六条中ニハ皇帝ノ生命及セ身体ニ對シ云々トアリ之レハ通常ノ罪トハ云フ可ラ

ス即チ國事犯ト為スハキニアラスヤ

通常ト雖モ人ヲ殺セハ即チ謀殺故殺鬪殺等何レモ其人殺シノ次第ニ寄り死刑ト為スノ別アリ

故ニ此條ノ本旨ハ皇帝ニ對シテ犯シタルモノト雖モ其之ヲ殺シタル所以ハ固ヨリ通常ノ罪ト為スナリ然レ氏只其皇帝ナルヲ以テ常人ヨリ一等重ク為シタルモノナリ

故ニ之レハ謀殺ト故殺トヲ論セス一般ニ死刑ト為スナリ

教師ノ説ハ矢張國事犯ト為スナリ然レ氏此條ノ本旨ニ就テ論スレハ通常ノ罪ト見做スハキモノナリ

國帝モ人ナリ國民モ人ナリ均シク其人ナルヲ以テ通常ノ罪トナシ之レヲ論スル時ハ死刑ト為スニモ当然ノ區別アルヘキナリ然レ之ヲ重ク為スハ畢竟國事犯ト為ス故ナルヘキナラスヤ

此條ヲ以テ通常ノ罪ト為セハ即チ謀殺故殺鬪殺トノ區別ヲ分ツヘキナリ然レモ全ク皇帝ナル故ヲ以テ其區別ヲ論セス死刑ト為シ即チ尊屬ノ親ヲ殺シタルト同様ノ刑ト為スナリ
一體ハ國事犯ニ相違ナシ然レ是迄ハ碩學者ノ論モ多クハ通常ノ罪ノ部類ハ入ルコト、為セリ

皇帝ヲ殺シタル時ハ已ニ然リ而シテ其身体ハ對シ暴行ノミヲ為シタル罪ハ如何

此條中ニ於テ生命ニ對スルトハ之レヲ殺スルヲ云フ身体ニ對スル暴行トハ其皇帝ヲ奪ヒ去リ他國ニ幽閉シ隱シ置クヲ云フナリ尤モ是亦皇帝ハ對シ其害ヲ掛ケタルモノニ付矢張死刑ノ部類ハ入レルナリ

此法律ニ寄ル時ハ生命ヲ害スルト身体ニ暴行ヲ為シタルノミトノ差別ナク均シク死刑ト為スハ少シク不適當ニハアラスヤ

之ハ皇帝ノ自由ヲ妨クルノ害ヲ為シタルモノニ付矢張死刑ト為スナリ

然ラハ親ニ對シタル罪ヨリ重ク為スノ理ナ

ラスヤ

然リ固ヨリ重ク為セリ子ヨリ親ヲ幽閉セシ
ムル時ハ之ヲ重クシテ死刑トハ為サ、ルナ
リ

皇帝ヲ幽閉シタルモノハ其原因ニ均ハラズ
重ク為スナリ然ラハ固ヨリ通常ノ罪トハ為
シガタシ畢竟國事犯ト為スヘキ故ナリ

通常ノ罪ト為サス國事犯ト為ス時ハ千八百
六十七年ノ改正ニ拠テ死刑トハ為サ、ル筈
ナルヘキニアラスヤ

一 此刑法ハ千八百五十三年ニ於テ一旦改
正セリ其時ハ第三世「ナポレヲ」ニ帝ノ時代ナ
リ

故ニ國事犯ニ於テ死刑ヲ廢シタル場合ヲ推
及シ皇帝ヘ對シタル罪ト虽氏同様死刑ヲ廢
スヘシトノ議論アレ氏司法卿ヲ始メ何レモ
皇帝ノ生命ニ関スル罪ニ付其死刑ヲ廢セン
ト云フモノナク終ニ其終ニ為リタルモノナ
リ

畢竟「ナポレヲ」ノ存在中ニテ其威權ヲ憚リ
之ヲ并駁スルモノナキ故ナリ尤モ其時ノ議
論ニニツアリ

一 ツハ 國事犯中ニテ取除ケノ法ト為スヘ
シト云セ

一 ツハ 一 體ノ刑法中ニテ通常ノ罪トモ又
國事犯トモ為サス全ク別種類ナル取除ケノ

法ト為スヘシト云フノ議論アリタリ然レ氏
國事犯中ニテ取除ケノ法ト為スヘキトノ論
多シ故ニ現今ノ如ク取極メタルモノナリ
一体ハ刑法中ニテ全ク別種類ノ取除ケノ法
ト為ス方ヨロシ

第八十七條以下ヲ國事犯ト云ヒタルハ即チ
同條中ニハ真ニ國事犯ノ性質ヲ具セサル故
ナリ尤モ國事犯中ニテモ尚自ラ區別アルハ
キニ付其主意ヲ掲ケタルモノナリ
故ニ第九十一條以下ノ國事犯トハ自ラ別種
ナル所ナリ

若シ「ボアソナード」ヲシテ法律ヲ編集セシム
ル時ハ第八十六條ノ書法ハ改ムヘキナリ

何トナレハ皇帝ノ生命ヲ害スル罪ト其身体
ノミニ對シタル罪トヲ同一ト為スハ苛酷ニ
失スナリ

生命ヲ害スルト身体ノ自由ヲ害スルトハ均
シク其害ヲ掛ケタルモノナレ氏其自由ヲ害
スル為メ幽閉等ヲ為シタルハ又再々其元ト
ハ復シ帝位ニ即カシムルコトヲ得ヘキナリ
故ニ其害ヲ掛ケタルハ固ヨリ其惡事ナル
ハ言ヲ待タサレ氏其生命ヲ害スルニ比スレ
ハ自ラ輕重ノ差別アリ故ニ之レヲ均シク同
一ト為スハ不適當ナリ

一体皇帝ノ位ヲ奪ハシ為メナルコトヲ以テ
論スレハ之ヲ幽閉スルノ害ヲ掛クルヨリ直

テニ殺シテ其生命ヲ害スル時ハ其惡事ヲ遂
ケ易キ記ケナリ然ルニ之ヲ殺サ、ルハ畢竟
幾部分カノ惡事ヲ減セントスルノ素心ヨリ
出テタルモノナリ
又皇帝ヲ殺スト殺サ、ルトニ仍テ其國ヲ害
スルノ輕重ヲ論スレハ例ハ皇帝ヲ殺セハ
其國ノ兵卒一時ニ其及逆者ニ降參シ直テニ
國體ヲ一變スヘシト虽氏之ヲ殺サ、ル時ハ
何レモ他日ノ恢復ヲ計リ再々其皇帝ヲシテ
位ニ即キ維持セシムル丁ヲ得ヘキナリ
故ニ皇帝ヲ殺スト殺サ、ルトニ於テハ國ノ
害ヲ為スコトニ於テモ自ラ輕重ノ差別アル
ヘキナリ

第二項ハ皇族ノ生命云々トアリ之レモ謀殺
ト故殺トノ差別ナク重ク論シタルモノナリ
故ニ矢張政事ノ罪ト為スヘシ何トナレハ謀
殺故殺トノ差別ナク且ツ皇帝同様ナル皇族
ノ生命ニ関スル丁ナレハナリ
尤モ此項ハ生命ノミニ對シタル暴行ヲ云フ
ナリ其身體ニ對シタル暴行ハ即チ第三項ニ
アリ
第三項ハ皇族ノ身體ニ對シタル暴行云々ト
アリ
此暴行ト虽モ常人ニ對シタル罪又ハ尊族ノ
親ニ對シタル罪ト異ナリ故ニ之ヲ死刑トハ
為サ、レ氏通常ニ比スレハ重ク流刑ト為ス

ナリ

此項ニ就テハ種々注目スヘキナリ

即チ此皇族ト云フ内ニハ男子ト女子トアリ

故ニ通常ノ身体ヲ害シ自由ヲ奪フコトノミ

ナラス女子ニ對シテ猥褻ノ所行ヲ為シタル

モノモ此暴行中ニ入ルヘキナリ

故ニ此項ノ身体ニ對シタル暴行トハ皇族中

ノ女子ニ對シタル猥褻ノ所行ヲ為シタルコ

トヲモ兼テ云フヘキナリ

皇族ト云フハ皇帝ノ親戚中ニテ自ラ親疎ノ

區別アルヤ又ハ皇族中ニテモ此法律ヲ用ユ

ヘキモノハ何々ノ皇族ト云フ制限アリマ

仙國第三世帝ノ時ハ皇族中ニテ其年限ヲ立

テタリ

即チ皇帝ノ後弟ノ續キノ者ニ對シタル暴行

ハ此条ニ仍テ処スルコト、為セリ

尤モ其外ノ皇族ト雖モ民事上ニ於テハ相續

スヘキモノ、部類ニハ入レルヘキナレ氏刑

法ニテ此条ヲ用ユルハ後弟ト為セリ之レ

ヲ詳説スレハ即チ宗系ノ親尊屬ノ親。卑族ノ

親。兄弟。姉妹。後弟。追ヲ云フナリ

尤モ後弟ノ内ニハ或ハ此條ヲ用ヒサルモノ

アリ即チ「イタリヤ」一嫁シタル後弟ハ之レニ

入レサルナリ

政府ノ勅書ヲ以テ其身分ヲ極メタルモノハ

即チ皇帝ノ後見ヲ受クヘキ形ナリ故ニ替

姻ヲ為ス等何レモ皇帝ノ免許ヲ得サレハ之
ヲ為ス能ハサルナリ

同法省

同法省

後第二號

刑法講義

八年十二月十五日

八年十二月十五日

第七十六條

過日説キタル如ク第一項ハ決シテ政事ノ罪ニアラス通常ノ罪ト為ス可キナリ
何故ナレハ其國內限リニテ争亂ヲ起シ皇帝ヲ亡ボシ其國政ヲ一變セントスルノ罪ニアラス全ク皇帝ハ勿論國家ヲ保セテ一切外國ニ渡サント為シ專ラ外國ノ為メニ陰謀ヲ企テタルモノナレハナリ
故ニ現今ノ刑法ヲ以テ論スル氏死刑ト為スヘキ罪ノ十之九アル可キモノナリ
即チ此項ニアル如ク外國政府又ハ其官吏ニ

種々ノ方略ヲ得セシムル為メノ陰謀ヲ以テ
應援シ自國ノ戦争ヲ起サシメントスルモノ
ナリ
故ニ之ハ全ク國內限リノトニアラス外國ニ
頼テ其陰謀ヲ行ヒタルトナリ
第一項ハ「ダンタチ」ノトナリ故ニ假令ヒ
去々トアリ之ハ行ハントシテ為シ遂ケサル
トナリ然シ此項ノ文意ニテハ其為シ遂ケタ
ルト遂ケサルトノ區別ナシ
又現ニ敵對ヲ為スニ至ラサルト云々アリ之
ハ其本心ヨリ悔悟シテ為サ、ルカ又ハ已レ
ノ意外ノ景況ニ寄り為サ、ルカノ二ツノ差
別アル可キナリ

其已レノ意外ノ景況ニ寄り為サ、ルトハ即
チ其陰謀ヲ外國ニテ採リ用ヒサル時ノトナ
リ
故ニ若シ本心ヨリ悔悟シテ之ヲ中止シ自國
ノ害ヲ為サ、ル時ハ放免スヘキナリ尤幾部
分カノ害ヲ為セシ時ハ即チ其レ文ケノ罪ヲ
以テ罰スヘキナリ
第七十六條ニ比スレハ第七十七條ヲ以テ重
シト為ス
第七十六條ハ外國ノ勸誘シタルトナリ
第七十七條ハ自國ノ害ヲ為シタルトナリ即
チ武器船舶ヲ渡シ又ハ兵卒食料ヲ給与シタ
ルトナリ

故ニ前条第七十六ハ次条第七十七ヨリ輕シ然レ氏其輕キ罪ヲ死刑ト為セル故ニ次条ノ重キ罪ハ勿論死刑ト為サ、ル可カラサル記ナリ
道理上ヨリ之ヲ論スレハ前条ハ無期ノ徒刑ト為シ次条ヲ死刑ト為シテ相当ナリ
前条ハ外國政府ヲ勸誘シ自國へ敵對ス、キヲ為サシメント企テタル迄ニテ未メ其事跡ニ殺セサルヲナリ
次条ハ全ク其事跡ニ殺シ已ニ敵兵ノ進撃ヲ容易ナラシムル為メ其應援ヲ為シタルヲナリ
故ニ次条ノ方ハ其公益ヲ害スルヲ大セナリ

第七十八條

此條ハ前条ニ記セル所ノ罪ヲ犯スヘキ意志ナリ徒ラニ外國へ交接シ文通ヲ為シタルヨリ遂ニ佛國ノ兵備ノ害ト為リタルヲナリ故ニ之ハ政事ノ罪ト為シテ囚獄ノ刑ニ處スルナリ尤決シテ前二條ノ如キ意思アル者ニアラス
然レ氏其者ハ等閑ヨリシテ公益ヲ害セシ記ニ付其公益ヲ害シタル丈ケテ罪ニ前條ヨリ少シク寛ニ処スルナリ
故ニ心中ノ道德ニ於テハ害スルヲナク只公益ヲ害スルノミナリ
此条ノ末文ニ間諜ノ所為ヲ為シタル云々其

重キ刑ニ処スヘキ規則ニ相觸ル丁無カル可
シトアリ

故ニ一体ハ囚獄ノ刑ニ處ス可シト重モ若シ
間諜ノ所為アル時ハ重キ刑ニ處スヘキナリ
此規則ト云フハ海陸軍ノ刑法ヲ云フナリ
間諜ノ所為ヲ為シタル者ハ戰爭中ハ死刑ナ
リ尤平時ハ少シ輕ク為スナリ

第七十六條第七十七條第七十八條ニ於テハ
内外人民ノ差別ナク此三条ニ記シタル刑ヲ
以テ處スヘキナリ

第七十九條ニ於テハ佛國人ニ限ルヘキナリ
外國人ニ於テハ佛國ト他ノ敵國ト戰爭アル
時佛國ノ臺場及ヒ武器等ヲ以テ其敵國ニ渡

サントスル氏到底為シ能ハサル譯ナリ

第七十五條ノ原文ニハ總テノ佛國人ト記セ
リ

第七十六條ノ原文ニハ何人ヲ限ラスト云フ
字アリ故ニ其區別アルヘキナリ

尤佛國人タルノ分限ヲ失ヒタル者ハ第七十
五條ノ者ノ内ニハ入レサルナリ

第七十九條

此條ハ何人ニ限ラス佛國ノ與國ニ對シ前
二條ノ所為ヲ為シタル時ノ了ヲ云ナリ

此與國ト云フハ平時各約ヲ結ヒタル各國ト
云フニアラス其戰爭ノ時ニ於テ互ニ同盟シ
タル國ヲ云フ即チゼハステホーヒノ戰爭ノ

時佛國ト「トルコ」英國ト同盟ヲ為セシ等ノ了ナリ

第八十條

此條モ大抵第七十六條ト同様ナレ氏少シ違ヒアリ
同條ハ外國へ向テ佛國トノ戦争ヲ勸誘スル為メノ企ナリ此條ハ否ラス
佛國ヨリ遠征等外國へ出兵スルノ商議ノ密事ヲ外國ノ官吏へ漏洩シタル了ナリ
例ハ外國へ對シ戦フへキカ和スへキカ又ハ戦フ時ハ如何スへシト云フ了佛國ニテ高議スル所ノ密事ヲ以テ外國ノ官吏へ内通スル了ナリ

此條中ニ官吏又ハ其他云々トアリ其他トハ其職掌又ハ身分ニ寄リ密事ノ商議ニ關係シ「エンセイ」不明了命セラレタルモノヲ云フナリ

例ハ外國へ對シタル談判アル時ナレハ其談判ニ關係シ通弁ヲ為ス者等ヲ云フ即チ佛國ト獨乙ト戦争ヲ起シ佛國ノ官吏ニ其談判ヲ委任シタル時ハ通弁ノ者ヲ用ユ可シ故ニ其通弁ノ者ハ官吏ニアラサレ氏其能力ニ寄リ職掌ヲ以テ一時其密事ニ關係スへキナリ尤之ハ政府ヨリ公然命セラレテ關係スル了アリ又公然ノ命ニアラスシテ關係スル了アリ

其他ト云フハ全ク一時ノ雇ヒタル者ナリ此
條ノ原文ニハ只官吏ト云フ丁ノミニアラス
長官。官吏。又ハ其他ノ者トノ三ツノ區別アリ
然レ之ハ其區別ヲ為スニ及ハス
教師ノ説ハ何人ニテモ其商議ニ關係シテ密
事ヲ漏洩シタモノト云ヘハ自ラ其意味廣ク
然ルヘキト為スナリ

「ホシクヨネール。ビユ。フリック」トハ長官ト云フ丁
ナリ然レ何レノ者ヲ長官ト為スヘキノ分界
ニ於テ不分明ナリ

「アジヤント」トハ外國公使及領事官ヲ云フナリ
其以下ニ於テ「プレポ」ト云フ原語アリ之
ハ其地總テ其密事ニ關係シタル者ヲ云フナ

リ
此次條ニ於テハ三ツノ區別ヲ立ツヘキナリ
第八十一條

第一佛國ニテ「ホシクヨネール。ビユ。フリック」
長官ト云フハ公ケニ權利ヲ有シ総テ已レノ
名ヲ以テ事務ヲ処置シ得ル者ヲ云

第二「アジヤント」官吏ト云フハ外國公使領事官
及ヒ開港場ノ縣令ニテ海軍ノ海兵ヲ募ル丁
ヲ兼任スル者ヲ云

第三「プレポ」ト云フハ公ケナル官吏ニア
ラス然レ政府ヨリ月給ヲ受ケ委任セラレ其
職掌上ニ於テ圖面ヲ預リ其事ニ關係セル者
ナリ

例一ハ火災アリ其圖面ヲ甲ノ地ヨリ乙ノ地
一持運フヘキ場合ニ於テ一時關係スル者ハ
委任ヲ受ケテ預リタルト云フ可カラズ故ニ
此部類ヘハ入レサルナリ

尤其圖面ヲ預ルヘキ職掌ニアラスシテ之ニ
關係シタル者ノ了ハ即チ次條ニアリ

一此條ニアル所ノ罪ヲ犯シタル者ハ通常
ノ刑ニ處セス海陸軍律ノ刑法中ニ組込置キ
相当ナル譯ニアラスヤ

此圖面ノ了ハ軍人ニ屬セス然テ文官ニテ預
ルヘキモノナリ故ニ通常ノ刑ヲ以テ罰スル
ナリ

若シ軍人ニテ此罪ヲ犯シタル時ハ矢張此刑

法ヲ用ユヘキヤ

軍人ト雖モ固ヨリ此刑法ヲ用ユ可シ畢竟之
ヨリ以上ニ重ク罰スヘキ刑ナケレハナリ然
シ此刑ヲ用ユルト雖モ軍事裁判所ニテ処分
スヘキナリ

第二項ハ國面ヲ中立國又ハ与國ヘ渡シタル
時ノ了ナリ

之ハ敵國ヘ渡シタル時ヨリ其害少ク即チ其
罪モ輕シ故ニ囚獄ノ刑ニ処スルナリ

一此項ニテ死刑ニ処スルノ罪ヲモ千八百
四十八年ニ於テ國事犯ノ死刑ヲ廢シタル時
同シク廢スヘキナレ氏其害少キ分第二項ヲ
云ハ國事犯ノ部類ヘ入レ其害大ナル分第一

項ヲ云ハ通常ノ罪ト為シタルモノナリ即チ
其第一項ト第二項トノ差違アル所ナリ
教師ノ説ハ第一項ノ死刑ヲ政事ノ罪ト為サ
ス故ニ其順序ヲ以テ論スレハ第二項ノ囚獄
ノ刑ヲモ無期ノ徒刑カ有期ノ徒刑ト為スヘ
キナリ

第八十三條ニ敵國ノ間謀云々トアリ之ハ当
然死刑ニ処スヘキモノナリ故ニ以前ハ國事
犯ト為セトモ現今ハ通常ノ罪ヲ以テ論シ矢
張死刑ト為スナリ

若シ今日始メテ此刑法ヲ制定スルハ政事
ノ罪ト通常ノ罪トノ差別ヲ判然分ツナルヘ
シ

今日此改正ヲ為スハ全ク通常ノ罪ト為ス
ヘキナリ

次ノ項モ同シク然ルヤ

第二項ハ與國ヘ渡シタル罪ニテ輕キモノナ
リ

故ニ教師ノ考ニハ囚獄ノ刑ト為サス有期ノ
徒刑ト為スヘキナリ

真ノ政事ノ罪トハ第八十七條ノ政府ヲ覆ヘ
シ云々ノ場合ヲ云フヘキナリ

一体政事ノ罪ハ如何ナルモノトナレハ先ツ
政權ハ如何ナルモノト云フヲ推究スヘキナ
リ政權トハ即チ政府ノ權ナリ故ニ政府ヘ對
シ其權ヲ奪ハレトスル者ヲ政事ノ罪ト云フ

ナリ

然ルニ第二項ハ政府ハ對スルノ罪ニアラス
故ニ一概ニ政事ノ罪トハ為シ難シ

第二項ノ場合ハ平時ニアラス戰爭中ノナ
ルヤ

平時ノ了ハ第二項ニアリ

兼テ條約ヲ結ビタル國ハ總テ与國ト云フハ
キヤ

與國ト云フニ付テハ注意スヘキナリ現今ハ
佛國ニ於テ与國ト稱スルモノナシ与國トハ
例ハ英國ト佛國トノ間ニ於テ若シ他ノ外
國ト戰爭ノ時ハ互ニ其國ヲ加勢スヘキト未
来ノ約条ヲ為セル了ナリ故ニ平時ハ与國ト

稱スルモノハ無シ

例ハ今日ハ日本ト佛國トノ間ニ於テハ固
ヨリ敵國アラサルハ言ヲ須タス又中立國ニ
モアラス然ルニ我官吏ヨリ佛國人ハ圖面ヲ
渡シタルキハ何レノ法律ニ據リ之ヲ罰スヘ
キ譯ナルヤ

戰爭ナキ平時ニ於テハ与國ト稱スルモノ無
ク各國ハ皆何レモ中立國ナリ故ニ若シ今日
日本ニテ佛國ハ圖面ヲ渡シタル者アルキハ
中立國ハ渡シタル罪ノ部類ハ入レテ論スヘ
キナリ

若シ條約ヲ結ハサル外國ハ渡シタルキハ如
何

矢張中立國へ渡シタル罪ノ部類へ入レテ論
スヘキナリ
以前ハ英國ノ同盟ヲ為スハ必シモ戦争ノ時
ニ限ラス平常ヨリ之ヲ為セシナリ何故ナ
レハ歐洲中ニテ屢々戦争アリシ時世ニ於テ
ハ互ニ之ヲ防ク為メ豫メ其同盟ヲ為シタル
モノナリ
然シ方今ハ絶テ之ヲ為ス國ナシ近世ニ至テ
ハ「ゼ」ハステポールノ戦争ノ時ニ方リテ歐洲
中ニテ各國相互ニ同盟ヲ為セシナリ
其以後ハ只獨乙ト佛國トノ戦争ノ時獨乙ト
魯國ト同盟ヲ為シタルナリ此同盟ヲ
為シタルナリト雖モ其戦争鎮静後ニ至リ其模
様ヲ聞及ヒタル迄ノナリ

後第三号

刑法會議筆記

八年十二月廿日

司法部

刑部

十二月二十日

第八十二條

前條ニ於テハ臺場、棧場、港口等ノ圖面ヲ預ルヘキ委任ヲ受タル政府ノ官吏ニテ之ヲ敵國又ハ外國ヘ渡シタル罪ヲ犯セシ者ナリ

本條ニ於テハ其委任ヲ受ケタル者ニアラスシテ其罪ヲ犯セシ者ナリ然レ氏之ヲ同一ノ罪ト為セリ尤或場合ニ於テハ其凶ニテ輕重ノ差別アルナリ

第一項ハ有心即チ詐偽暴行等ニ仍テ其圖面ヲ得タル上之ヲ渡シタル場合ナリ故ニ前條ト同シ刑ヲ以テ處スルナリ

第二項ハ有心即チ惡心ヲ以テ渡シタル罪ニ
アラズ仍テ流刑トナスナリ
之ハ固ヨリ詐偽暴行ニ仍リ其圖面ヲ得タル
者ニアラズ例ハ火災ヲ避ケンカ为メ之ヲ
轉運スルノ際ニ方リ自家へ持込ミ盜ニ置キ
タル時等ノコトナリ
故ニ第一項ノ詐偽暴行ニ仍リ之ヲ得テ敵國
へ渡シタル時ハ死刑ト为セトモ第二項ノ場
合ニ於テハ一等ヲ減シテテホ_レタ_リシヨ_ン
トナスナリ
又第二項ノ罪ヲ以テ敵國ニアラス申立國又
ハ英國へ渡シタル時ハ二年ヨリ五年ニ至ル
ノ禁錮ノ刑ニ處ス

此場合ニ於テハ一等ヲ減シ政事ノ罪ト同シ
ク為シタルモノナリ然レ之ヲ至ク政事ノ罪
ト見做スヘカラス
教師ノ説ニテハ此場合罪ヲ輕クノル为メ政
事ノ罪ヲ以テ處スル所ノ刑ヲ用ヒタルモノ
トナスラ然ルヘシト考ヘリ

第八十三條

本條ハ敵國ノ間諜又ハ探索ノ为メ兵卒等ノ
来リタル者ヲ匿シ置タル罪ナリ之ハ死刑ニ
處ス然レ至ク敵國ノ者タルコトヲ知リ殊更
ニ匿シ置タル時ニ限ルヘキナリ故ニ尋常ノ
通行人ヲ宿泊セシメタル等ノコトハ此部類
へ入レテ論セサルナリ

第八十四條

本條ハ自國ノ政府ニテハ固ヨリ戦争スヘキ意
アルニアラス然ルヲ自國人ヨリ外國政府ヘ
向ヒ種々敵對ノ所行ヲ為シ夫レカ為メ遂ニ
其外國政府ヨリ自國政府ヘ戦書ヲ送ラレシ
ムルニ至ルヘキコトヲ醸シ成シタル者ノ罪
ナリ

之ハ固ヨリ常スニテハ外國政府ヘ向ヒ此変
事ヲ醸シ成スコト能ハサレトモ例ハハ他國
スノ日本政府ヘ雇ハレ造兵司ヘ奉職申日本
政府ノ待遇ヲ怨ミタルカ為メ其造兵司ノ損
害ヲ起サンコトヲ計リ種々ノ所行ヲ為シタ
リ仍テ日本政府ニ於テハ其所行ヲ以テ他國

政府ヨリ為サシメタルコト一見做シ遂ニ戦
書ヲ送ルニ至リタル等ノコトヲ云フナリ
尤其戦書ヲ他國政府ヘ送ラシムルニ至ルノ
所行ハ容易ニ為シ得ヘキコトニアラス仍テ
其罪ヲ犯シタル者ハ追放ノ刑ト為スナリ
其罪ヲ追放ノ刑ト為スハ少シク輕キニ失セ
サルヤ

本條ノ主意ハ前ノ數條ト連ヒ少シ差別ア加
ヘキコトナリ
前數條ハ内國ノ秘密ヲ外國ヘ示シ其圖面ヲ
渡シタル等ノコトニテ在ク叛逆ノ事迹ヲ顯
シタルモノアリ反令叛逆ノ本意ニテラサル
トモ已ニ其事迹ヲ顯ハスニ至ルハ畢竟豫メ

謀リ為シタルヤモ知ル可カラス故ニ其罪ノ
惡事タル本條ノ罪ト同日ニ論スヘキモノニ
アラス仍テ此場合ニ於テハ前條ト連ヒ差別
アル所以ナリ
例ハハ他國入ノ日亦近海ニテ海賊ヲ為ス者
アリ此海賊ハ日本政府ニテ嚴ニ禁止防衛ス
ル所ナリ故ニ他國入ノ此海賊ヲ為シタル罪
ヲ責シカ為メ日本政府ヨリ他國政府ニ戰書
ヲ送リタル時等ノコト杯ヲ以テ亦條中ノ部
類ニ入レルヘキナリ
故ニ前數條ノ圖面ヲ敵國ニ渡シタル罪ニ比
スレハ其自國ニ對シタル所ノ惡意ニ於テ自
ラ輕重ノ差別ナルヘキナリ

本條ノ罪ヲ犯セシ場合ハ容易ニアルヘキコ
トニアラス
本條ニアル所ノ如キ罪ハ之ヲ全ク改事ノ罪
ト為スヘキカ
否ラス此罪ト雖モ斷然改事ノ罪トハ為シ難
シ何故ナレバ若シ之ヲ以テ千八百四十八年
前ニ於テ死刑ト定メタルモノナリト雖モ同
年中改事ノ罪ノ死刑ヲ廢シタルコト、其ニ
此死刑ヲモ廢スヘシトハ為サルコト、考
ヘリ
第八十三條ノ罪ハ死刑ナリ故ニ酌量輕減ス
ル時ハ徒刑ト為スヘキナリ
亦條ノ罪ハ流刑ナリ故ニ酌量輕減スル時ハ

囚獄ノ刑ト為スヘキ順序ナリ
然シ本條ノ罪ニ就キ其刑ニ處シタル類例ハ
實地ニ裁判セシ所ノ裁判書ヲ所持セルニ仍
リ之ヲ以テ詳細ニ取調タル上尚参考ニ供ス
ヘキナリ

第八十五條

本條モ矢張前條ト同シク自國政府ノ許サ、
ル事故ヲ釀シ成シタルコトナリ
自國政府ヨリ許サ、ル所ノ種々ノ所行ヲ為
シ夫レカ為ノ外國人ヨリ自國人ヲ惡ミ嫌フ
ノ基ト為ルヘキコトヲ釀シ成シタル場合ヲ
云フナリ
例ハハ自國人ヨリ日本入ノ商店ヲ乱暴シ仍

テ日本入ヨリ其恨ミシ受ケ乃チ又同シク自
國人ノ商店ヘ乱暴ノ報復ヲ為サシムルニ至
リタル等ノ場合ヲ云フナリ

本條ニハ外國ニ對シ云々又ハ外國ヲシテ云
々トアリ故ニ外國ノ人民ヨリ自國人ヘ報
復ヲ為スニアラス外國政府ヨリ自國人ヘ報
復シ為スコトハ解シ得ヘキニ似タリ之ハ在
ク其人民同志ノコトハ見做スヘキヤ

外國政府ノミナラス外國人限自國人トノ
關係ノ事柄ト為シ廣ク見做スヘキナリ
原語ニハ何人ニテモ政府ノ許サ、ル所行ヲ
以テ自國人ヲシテ其報復ヲ受ケシムル云々
トアルノミニテ外國ノ政府ト云ヒ又ハ人民

ト云フノ明文ナシ故ニ外國人民ヨリ他國人民
氏へ對シ報復スルコトハ言フ須クスシテ明
了ナリ

本條ノ罪ニ於テハ改事ノ罪ト為スヘキカ通
常ノ罪ト為スヘキカノ區別ハ辨知シ置クヘ
キコトナリ

之ハ日本ニテモ酌量輕減ノ順序ニ於テ最
後ニ至ルハ要ノコトナリ故ニ判然ト其區別
ヲ立テ制定アラシムコトヲ要スルナリ

第八十六條

本條ニ就テハ曾テ說キタルコトアリ
第一項ノ皇帝ノ生命身體ニ對シタル暴行ハ
親殺ノ刑ヲ以テ罰シ通常ノ入殺ノ罪ニ比ス

レバ一層重ク處スルコト、為セリ

身體ニ對シタル暴行ト云フハ全ク其生命ヲ
害スルニ至ラサルコトナルヘシ然ラバ之シ
其生命ヲ害シタルモノト同様ニ死刑ト為ス
ハ其刑ニ於テ重キニ失スル誤ケニハ當ラサ
ルヤ

身體ニ對シタル暴行ト云フハ刺ハハ鬪傷ノ
ミノ暴行ニテ最初ヨリ皇帝ノ生命ヲ害スル
ノ素意ナシトモ即チ本條ノ主意ニ基キ其
生命ヲ害シタル者ト同様ノ部類へ入レテ親
殺ノ刑ニ處スヘキナリ
然シ教師ノ說ニテハ生命ニ對スルト身體ニ
對スルトハ固ヨリ其罪ノ輕重ニ於テ判然異

ナルモノナリ然ルニ之ヲ同様ニ罰スルハ法律上ニ於テ不適當ナリ
一 体刑律ハ道德ヲ害スルト公益ヲ害スルトノ權衡ヲ以テ測定スヘキモノナリ
曾テ説キタル如ク其罪ノ極度ニ至ラサル者ハ其極度ノ刑ヲ加フル時ハ入ラシテ竟ニ極度ノ罪ヲ犯スニ至ラシムルノ大害ヲ生スルモノナリ
其罪ノ極度ニ至ラサル時ハ或ハ半途ニシテ之ヲ中止シ即チ道德ト公益トシ大ニ害スルニ至ラサルモノナリ
外國ニテモ女帝アルカ又ハ英國ノ如キ女王ノ身体ニ對シタル暴行ト云フ時ハ尚別種ナ

ル暴行即チ猥褻ノ所行モアルヘキコトナリ且外國ノ共和政事ニ為リタル後ハ亦共和ノ大統領ニ對シタル暴行ニ就テノ布告ナシ然ラハ夜令大統領ニ對シタル暴行ト云モ此法律上ノ刑ヲ以テ罰スヘシトハ為シ難ク矢張通常ノ刑ヲ以テ罰スヘキナリ
皇族ノ生命ニ對シタル暴行ハ皇帝ヨリ少シ輕ク死刑ト為シ即チ通常ノ死刑ヲ用ヒ親殺ノ死刑ヲ以テ罰セサルナリ
親殺ノ死刑ヲ以テ罰スルト云フハ只其面部ニ黒布ヲ覆ヒ跣足ニテ刑場ヘ引出スヲ以テ重シト為スノミニアラス尚法律上ニ於テ格別重刑ト為スヘキ所ノ主意アリ

何トナレハ他ノ通常ノ入殺ハ謀殺故殺鬪殺ノ區別ヲ以テ死刑ニ處スルト處セサルトノ差違アリ然ルニ親殺ニ於テハ其區別ニ拘ハラズ總テ一様ナリ死刑ヲ以テ罰スルナリ故ニ其區別ナキヲ以テ格別ノ重刑トスル所ノ主意ト為スヘキナリ

教師ノ案スルニ皇族ノ生命ニ對シタル罪ヲ死刑ト為スノ主意ニ於テハ通常ノ刑ト同様ニ謀殺故殺等ノ區別ヲ立ツヘキナリ仍テ必ス謀殺ニテラサレハ此條ノ如ク死刑ヲ以テ罰スヘキト為サレナリ

然ラハ通常ノ入殺ト同様ニ處スヘキ訳ケナリヤ

親殺ノ刑ヲ以テ罰スルト記シタル時ハ謀殺故殺鬪殺ノ區別ナシト為スヘシトノ主意アルコトヲ推知スヘキナリ

然シ只死刑トノ記シタル時ハ通常ノ罪ト同様其區別ヲ立テ罰スヘキナリ

其區別ヲ立ツヘシト云フコトニ就テハ何歟

確説ノアルコトナルヤ本項中ノ文意ニテハ矢張其區別ナク總テ死刑ト為スヘキ様ニ見ユルナリ

宜ヘナリ本項ノ書法ニ於テ不備ナル所アル故ナリ

一體親殺ノ刑ト同様ニ謀殺故殺等ノ區別ヲ為サレルノ文意ヲ明ラカニ示サス至ク通常

ノ死刑トシテ其區別ヲ立ツハシト為ス時ハ殊更ニ亦各一掲出スルニ及ハサルコトナリ然シ之ヲ掲出セリト虫モ固ヨリ其區別ヲ立テスシテ可ナルモノトハ見做シ難シ

第一項ノ親殺ノ刑ヲ以テ罰スルト云フ時ハ面部ハ黒布ヲ覆ヒ洗足ニテ刑場へ引出スハ勿論謀殺故殺等ノ區別ナキノミナラス仮令皇帝ヨリ挑激シタルニ依リ罪ヲ犯シタル時ト虫モ之ヲ赦宥スルコトナレト云フ主意ヲモ含蓄セルモノナリ

譬ハ一親ヨリ其子ヲ挑激シタルニ依リ其子ノ親ヲ殺シタルトモ之ヲ赦宥セサル如ク皇帝ハ對シタル時ニ於テモ之ヲ赦宥スルコト

ナシト云フ主意ハ此親ヲ殺スル者ノ刑ヲ以テト一文詞中ニ於テ明了ニ推知スヘキコトナリ

親ヲ殺スル者ノ刑ヲ以テト云フ一文詞中ニハ即チ五ツノ最重ナル主意ヲ示スノ意味アリ

第一 面部ハ黒布ヲ覆フコト

第二 洗足ニテ刑場へ引出スコト

第三 刑場ニ於テ使吏ヨリ其罪状書ヲ讀渡スコト

第四 謀殺故殺鬪殺ノ區別ナク死刑ト為スコト

第五 挑激ニ依リ犯シタル暴行ノ罪ト虫モ

之ヲ赦宥セサルコト

此五ツノ最重ナル主意ハ親ヲ弑スル者ノ刑ヲ以テト云フ一文詞中ニ於テ分明ニ含蓄スルモノナリ

故ニ親ヲ弑スル者ノ刑ト書シタルハ只其面部ハ黒布ヲ覆ヒ跣足ニテ刑場ニ引出スヘキ外貌上ノ特異ナルコトヲ示ス為メノ目的ノミニアラズ謀殺故殺等ノ區別ヲキト赦宥セサル等トノ主意シモ併セテ示シタルモノナリ故ニ只死刑ヲ以テ罰スルト云ヒタル時ニ其區別ヲキト赦宥セサルトノ最重ナル主意ヲ含蓄セサルコトヲ辨知シ得ヘキナリ仍テ前ニ説キタル如ク第一項ニ親殺ノ刑ヲ

以テ罰スルト書シタル主意ト第二項ニ死刑ヲ以テ罰スルト書シタル主意トノ間ニ於テ其差別ヲ為シタルモノナリ

然レトモ疑問アル如ク通常ノ死刑ト為シ謀殺故殺等ノ區別ヲ立ツヘキカ又ハ別種ノ死刑ト為シ其區別ヲ立テテサルヘキカノコトハ亦条中ノ文意ノミニテハ教師ニ於テモ疑フ抱カサル可カラサルナリ仍テ最初之ヲ制定シタル立法官ノ本意ノ如何ハ固ヨリ知ル可カラス然レ法律書等ハ成ヘキ丈ケ後人ノ疑フ存セサル様明了ナル文詞ヲ以テ書法ヲ正シク編成スヘキモノナリ

後第四編

刑法會議筆記

九年一月十日

司
法
會

刑法會議筆記

九年一月十日

第八十六條

本條ノ第一項第二項ハ已ニ説キ了タリ
八年十月十日講義

然レ尚概約シテ之ヲ再説スヘシ

第一項ノ場合ニ於テハ尊屬ノ親ヲ弑スルノ刑
ヲ以テ罰スヘシトアリ

第二項ノ場合ニ於テハ死刑ヲ以テ罰ス可シトアリ

此等ノ罪ヲ二項ニ分ツト處モ均シク一ノ死刑
ナリ此一ノ死刑中ニ於テ之ヲ差別スル所以ノ
モ、ハ其取扱即外貌ノ景況ニ就テ差別アル

通常ノ犯罪
ナレハ人ヨリ挑
激セラレ人ヲ殺
シ又ハ殺傷シタ
ル時ニ依テ赦宥
ノ罪トス佛刑法
才三百三十一條
看者之ヲ察セヨ

コトヲ示シタル而已ニアラス其差別セサル可
カラサル法律上ノ原因ニ基キタルモノナリ
法律上ノ原因ニテハ只其死刑ヲ行フ時ノ外貌
ノ景況ノ異ナルコトヲ示ス而已ニアラス其外
ニ於テ自ラ異ナルコトアルヲ示サンカ为メ斯
ノ如ク二項ニ分チタルモノナリ

尊属ノ親ヲ弑シタル者即親殺シテ罰スル場合
ニ於テハ謀殺故殺闕殺ノ區別ナク然テ死刑ト
为スナリ仮令親ヨリ挑激ヲ受ケ其子之ヲ弑ス
ル時ト虽モ赦宥スルコトナシ之レハ則親ヲ弑
シタル罪ノ嚴刑ナル所以ナリ
若シ第一項ノ場合ニ於テ尊属ノ親ヲ弑シタ
ル罪ヲ以テ云フコトヲ以テ死刑外貌即黒布

ラ面部へ覆ヒ既足ニテ刑場へ引出スコト而已ノ
差別ヲ示ス为メナリトシテ之ヲ論スル時ハ其
他ノ原因ニ於テハ総テ一般ノ死刑ト同様ノモ
ノト为サ、ル可カラス然ラハ若シ或ヒハ皇帝
ヨリ挑激シタルニ仍リ之ヲ弑シタル時ハ故殺
ト为スヘクシテ固ヨリ死刑ニ処セラレ、コト
ナキ者ナリ

親殺ノ死刑ヲ以テ罰スルト云フ時ハ外貌ノ法
式ノ異ナルコトヲ示ス而已ニアラス謀殺故殺
等ノ區別ナキコト、挑激ニ仍リ犯シタル罪ニ
テモ決シテ赦宥スルコトナシト云フノ嚴刑ナ
ル原因ヲ含蓄スルモノナリ
故ニ第二項ハ固ヨリ第一項ノ如ク外貌ノ法式ノ

異ナルコトヲ示シタルノミニアラス其原因ヲモ
自ラ異ル所アルコトヲ説クナリ
仍テ其外貌ノ法式而已ナラス原因ニ於テモ異ナ
ル所アリトシテ此法律ヲ解スル時ハ即第一項
第二項ハ自ラ其異ナル所以アルコト、為サ、
ル可カラサルナリ

第一項ハ謀殺故殺等ノ區別ナキト挑激セラレ
タル時ト雖モ赦宥スルコトナキノ原則ナリ
第二項ハ謀殺故殺圍殺ノ區別アル而已ナラス
挑激セラレタルガ為メニ之ヲ殺シタル時ハ其
情状ニ審法律上ニ於テ当然ノ赦宥ヲ受クヘキ
原則ナリ

然シ第一項ノ如ク赦宥スルコトナシト雖モ尊
属ノ親ヲ殺シタル時ニ於テ其年齢ニ仍リ赦
宥ヲ受クヘキ者ハ皇帝ヘ對シタル暴行ト雖
モ同シク其赦宥ヲ受クヘキナリ即チ十六歳以
下ノ幼者ニテ其罪ヲ犯シタル時ヲ云フナリ
第三百二十一條ニ於テ他人ヨリ挑激セラレタ
ルニ仍リテ其他人ヲ殺ス等ノ罪ヲ犯シタル時
ハ赦宥ス可シトアリ
第三百二十三條ニ尊属ノ親ヲ殺シタル罪ハ之
ヲ赦宥スヘカラストナリ
然シ第六十六條ニ十六歳以下ニシテ其罪犯ノ
無意ニ出テシ云々トアリ
又第六十七條ニ若シ其犯人故意ヲ以罪ヲ犯セ
シ云々トアリ

即十六歳以下ノ幼者ニテ通常ノ重罪ヲ犯セシ
時ハ仮令故意ナリトモ其減等ヲ受クヘシ
故ニ第六十六條ト第六十七條トニ因ルトキハ
幼者ノ故ヲ以テ赦宥又ハ輕減ヲ受クヘキコト
ハ皇帝ノ生命ニ對シタル場合ヘモ推及シテ通
シ用ユヘキナリ
畢竟幼者ニ就テハ全ク其犯罪ノ責メヲ重モニ
歸セスシテ論シタルモノナリ
十六歳以下ノ幼者ニ於テ故意ヲ以テ通常ノ者
ノ死刑ニ当ルヘキ罪ヲ犯シタル時ハ二十年ノ
禁錮ニ処スヘキナリ
懲治刑ニテ二十年间ノ禁錮ニ処スルハ此場合
ノ罪ノミニ限レルナリ

十六歳以下ノ幼者一人ニテ皇帝ノ生命ニ對ス
ル暴行ノ罪ヲ犯スヘキコトハ万々ナキコトナ
リ然レ外ニ教令セシ者アリテ之ヲ犯サシメタ
ルコトアルモ斗リカタシ其時ハ仮令幼者ニテ
現ニ之ヲ犯シタリトモ其幼者ナルノ故ヲ以テ
減等ヲ受クヘキナリ
然レ其教令セシ者ハ即チ全ク尊属ノ親ヲ殺シ
タル刑ヲ以テ罰スヘキナリ
第三項ハ皇帝ノ親族即チ皇族ノ生命ニ對シ
タルニアラス只其身体ノミニ對スル暴行ニ就
テ説クモノナリ
之ハ皇族ノ身体ヘ對シ創傷シ又ハ投擲等ヲ為
スカ或ヒハ之ヲ擁シテ他ノ地ヘ拘留シタル等ノ

コトヲ云フ

尤皇族ト云モ然テノ皇族ニ對シタル罪ヲ悉ク
此法律ノ如ク為スヘシト云フニアラス

皇帝ト云モ其皇族中ニ親疎ノ差別アルヘキナ
リ故ニ然テノ皇族ニ對シタル暴行ハ悉ク本項
ノ主意ニ仍リ処スヘキニアラス故ニ弟何等親
近ハ皇族ト為スヘキコトヲ兼テ布告ヲ以テ之
アリ其布告中ノ皇族ニ限り此法律ノ主意ニテ
罰スルナリ

ナボレラシ第三世ノ時ハ甥姪迄ヲ皇族ト為シ
タリ然レシ之ヲ悉ク皇族ト為サス即「イタリ」又
ハ他ノ国ニ居リタル者アリ此者ハ皇族中ヘ加
ヘサルナリ

皇族ノ身体ニ對スル暴行ノ罪ハ前項ノ生命ニ
對スル罪ヨリモ少シ輕ク為シ政事ノ罪ノ刑ニ
因リ城寨中ノ流刑ニ処スルナリ

城寨中ノ流刑ハ流刑中ニテ重キ刑ナリ

流刑中ニ單一ノ流刑ト城寨中ノ流刑トノ二ツ
アリ此城寨中ノ流刑ハ即チ其重キ方ナリ

第四項ト第五項ニ於テハ余程其罪ヲ輕ク為シ
輕罪ニ処スルナリ

之ハ榮誉ヲ汚シタル不敬ノ罪ナリ

第四項中ニ於テ公然ト云フ語ニ注意スヘキナ
リ

不敬中ニテモ必ス公然ト之ヲ受ケタル時ニ限
ルヘキナリ

皇帝又ハ皇族ニテモ自分一己ニテ不敬ヲ受ケ
タリト云フトモ他ニ之ヲ親シク見聞セシ者ア
ラサル時ハ本項ノ刑ニ処スルヲ得サルナリ
不敬ノ罪ト云フハ仮令通常ノ者ニ對シタル時
トモ公然ト他人ノ目前ニテ言語ヲ以テ毀スル
カ又ハ新聞紙等ヲ以テ誹謗スルニアラサレハ不
敬ノ罪ト爲シテ処スルヲ得サルナリ
故ニ本項ノ主意ハ即通常ノ者ニ對シタル不敬
ノ罪ヲ処スルノ原則ニ因リタルモノナリ之ハ出
然ノコト一考ヘリ
仮令或人ヨリ自分ニ對シ不敬ヲ加ヘ毀毀スル
トモ只相對而已ノ場合ニ於テハ自分ノ害ト爲
ルヘキコトナシ然シ他人ノ目前ニテ之ヲ爲シ

タル時ハ其他人ニテ其謔毀ヲ信シ遂ニ自分ノ
榮譽ヲ損スルノ害アル故ナリ
例ヘハ或人ヨリ自分ニ對シ汝ハ惡人ナリ又ハ
斯ノ如キ不良ノ所業アリト云トモ他人ノ傍者
傍聴スル者ナキ時ハ只其自身一人ニテ怒ル而
己ニテ其榮譽上ニ於テハ害スルコトナシ然シ
他人ノ目前又ハ新聞紙等ニテ其謔毀シ又之ヲ
廣告スル時ハ他ノ衆人ニテ自分ヲ以テ不良ノ人
物ナリト見做シ一般ノ信用ヲ失フノ害アリ故
ニ之ヲ罰スル詎ナリ
第一項ノ暴行ト云フ内ニテ創傷ヲ加ヘタル時
ハ勿論ナル可ケレ氏只其身体ヲ推シ倒シタル
位ニテモ矢張暴行ト云フヘキヤ

疵傷ヲ加ヘルト加ヘサルトニ拘ハラス推シ倒
シ又ハ打擲シ及ヒ口息ヲ吹キ掛ケタル位ニテ
モ暴行ト云ヒ得ヘキナリ

第三項ニ於テハ已ニ説カル、如ク皇族ヲ擁シテ
他ノ地へ拘留シタルコト等ヲモ暴行ト云フ時
ハ第二項ノ暴行ト云フ語トハ自ラ差違アルヘキコト
ナルヤ

一 体暴行ト云字ハ犯カガシトセシト逃ヒアタ
ンターハ已ニ事ヲ成シ遂ニタルコトナリ才ニ項
第三項氏其字ハ同シ

已レノ身ヲ防衛スル為メ皇族へ創傷ヲ加ヘタ
ル等ノ所行ヲ為セシ時ハ矢張之ヲ暴行ト云フヘ
キヤ如何

之ハ親ニ對シタル暴行ノ時ト同様ナルヘシ故ニ
赦宥スルコトナシト虽モ其時ノ情状ニ仍リ
減等スヘキナリ此明文ナシト虽モ道理上ニ
於テ斯ノ如ク為サ、ル可カラサルハ疑ヲ容レ
サルコトナリ

一 体国人ハ總テ已レノ身ヲ以其皇帝へ妻子タ
ルモノ故ニ皇帝又ハ国家ノ為メニハ已レノ身
ヲ死ニ致シテ從事シ以忠ヲ尽スヘキトノ諺アリ
然レトモ皇帝ヨリ只一己ノ私忿ヲ以暴ニ闘毆ヲ
為シタル時ニ方リ之ヲ防衛セントシテ遂ニ暴行ノ
所為ニ陥リタル場合ニ於テハ必ス此法律ニ因リ之ヲ
罰セサルトモ不可ナルコトナシト為スナリ
暴行ト云フハ其害ヲ加フルノ多少ニ拘ハラサル

ルコトナレ氏実地ニ於テハ市街ノ雜沓中ニテ
皇帝ヲ推シ除ケタル位ノコトハ之ヲ罰セサル
ナリ

然レ通常ハ其暴行ヲ以害ヲ加ヘタル多少ニ寄
何日間ノ不能力ヲ起シタル時ハ如何スヘキト
為シ夫々ノ區別アリト虽モ皇帝ニ對シタル暴
行ニ於テハ其區別ノ定限ナシ故ニ其害ヲ加
フルノ多サニ拘ハラズ本項ノ刑ヲ以罰スヘシ
ト為セシモノナリ

教師ノ說ハ皇帝ヲ推シ倒シタル位ニテモ暴行
ト為シ得ヘシト為スナリ之ハ畢竟本項ノ法
律ニ仍リ論シタルモノナリ

然レ實地ニ於テハ斯ノ如キモノヲ以暴行ト云
ヒ之ヲ罰スル場合ハナキコトナリ

一体人ヲ推シ倒シタル等ハ固ヨリ人ヲ譴毀ス
ルヨリハ其罪ヲ以重シト為スナリ何トナレハ
幼者杯ニテハ只推シ倒サレタル而已ニテ或ヒ
ハ死ニ至ルヘキコトアル故ナリ

已ニ譴毀ヲ以不敬ヲ為シタル等ノ次第ヲ説キ
タリ故ニ又其罪ニ就テハ如何ナル刑ヲ以罰ス
スヘキヤノコトヲ説クヘシ

皇帝ニ對スルト皇族ニ對スルトノ不敬ノ罪ニ
就テハ皇帝ヲ重シト為シ皇族ヲ輕シト為ス之
ハ固ヨリ当然ノコトナリ

其刑ハ懲治ノ刑即輕罪ナリ
皇帝ト皇族トハ對シタル不敬ニ就テニツノ差

違アリ

皇帝へ對シタル不敬ハ禁錮ノ年限長ク罰金ノ高多シ故ニ禁錮ト罰金トヲ以ニツノ差違ト為スナレ氏尚外ニ一ツノ差違アリ都合三ツ差違ト為スヘキナリ

第一ノ差違ハ即チ

皇帝へ對タルノ不敬ノ罪ハ禁錮ノ六ヶ月ヨリ五年迄ト為ス

皇族へ對シタル不敬ノ罪ハ禁錮ノ一ヶ月ヨリ三年迄ト為ス

第二ノ差違ハ即チ

皇帝へ對シタル時ハ罰金ハ五百フランクヨリ一万フランク迄ト為ス

皇族へ對シタル時ハ同シク罰金ハ百フランクヨリ五千フランク迄ト為ス

第三ノ差違ハ即チ

法律上ニテ定メアルモノナレ氏其場合ノ情状ニ仍リ道理ヲ以取捨スヘキコトナリ

皇帝へ對シタル不敬ノ時ハ第四十二條ノ如ク民権属藉ノ權ノ全部又一部ヲ禁スルコトアリ

然シ之ハ必ス禁セサル可カラスト云フニアラス其時ノ情状ニ仍リ之ヲ禁スルコトヲ得ヘシト定メタルモノナリ

第四十二條ノ法律ハ裁判官ノ監定ヲ以テ其不敬ヲ為シタル時ノ情状ニ仍リ之ヲ禁スルヲ得

ヘキコトナリ

本項ニ於テ注意スヘキコトアリ即民権属籍ノ権ノ禁ハ其年限ヲ何年間ト定ムヘキコトナリ

例ヘハ五年ノ禁錮ニ処シタル時ハ民権属籍ノ権ヲ禁スルハ矢張五年ト為スヘキナリ

三年ノ禁錮ニ処シタル時ハ之ヲ二年半トカ又ハ三年ト為スヘキナリ

若シ二年ノ禁錮ニ処シタル者ニ就テ之ヲ五年ト為シタル時ハ法律ニ背キタル訳ケヲ以大審院へ上告シ其破棄ヲ求ムルヲ得ヘキナリ

然レ盗罪ヲ犯シタルモノニ就テハ本刑ノ年限ニ拘ハラス之ヲ禁スルノ年限ヲ五年ト為シ言

渡スコトヲ得ヘキナリ

民権属籍ノ権ノ禁ヲ言渡スニハ何レノ日ヲ以テ始ト為シ起算スヘキトナレハ其二年又ハ三年ノ禁錮ノ終リタル日ヨリ起算シテ之ヲ二年又ハ三年ト為スナリ

本條ニ於テ其期限ヲ起算スルコトニ付詳明ノ定メナシ仍テ其二年又ハ三年ノ刑期中ニ於テ之ヲ禁スヘシト為スニ似タレ氏其刑期中之ヲ禁スル時ハ其効ナシ故ニ其刑期ヲ終リタル日ヨリ起算スルヲ以其効アルヘシト為スナリ

然ルニ盗罪等ニ於テハ禁錮ノ刑期中ヨリ之ヲ禁スルコトアリ故ニ五年ノ禁錮ト為シタル時ハ十年ノ間之ヲ禁スヘキナリ

盜罪等ノ外ノ罪ノ刑ニ就テ其刑期ノ終リタル日ヨリ起算スヘシトノ正条アルモノハ其禁錮後ニ至テ更ニ之ヲ禁セラルヘキナリ
通常ハ大抵之ヲ禁スルハ五年ヨリ少ナカラス十年ヨリ多カラストノ定メニ付二年ノ其錮ノ者ハ之ヲ五年ノ期限ト爲シ五年ノ禁錮ノ者ハ之ヲ十年ノ期限ト爲スヘキナリ
盜罪等ノ外ノ罪ニ於テハ禁錮ノ刑期中ヨリ此禁ヲ受ケサル時ハ及令其刑期中ト雖モ親族會議等ニ自分ノ代人ヲ出スコトヲ得ヘシ然レ其刑期中ヨリ此禁ヲ受ケタルモノハ之ヲ出スコトヲ得ス

兵隊ノ撰擧等ニ就テハ固ヨリ禁錮中ニテ自ラ

出ツルヲ得サルハ言ヲ煩タサルコトナリ
千八百六十三年ニ於テ刑法ニ改正アリ其改正以前ハ民権屬籍ノ權ノ禁ニ就テ其期限ニ定メアリタレトモ之ヲ何レノ日ヨリ起算スヘシト云フコトノ定メナシ故ニ其刑期ノ始メヨリ之ヲ起算スルコト、爲セリ
然レ其改正以後ハ大抵刑期ノ終リタル日ヨリ起算スルコト、爲セリ仍テ其以前ニ比スレハ重ク処スルノ主意ニ引付ケタルモノナリ且其後ハ此禁ノ期限ヲ長ク爲セシナリ
一併刑期ノ終リタル日ヨリ起算スヘシト爲シタル上ハ此禁ノ期限ヲ長ク爲スニ及ハサレトモ之ハ少シ嚴酷ニ爲シタルモノナリ

第八十六條ニ於テ説キタルコトハ全ク皇帝ト皇族トニ對シタル暴行及ヒ不敬トニ就テ罰スヘキ刑ヲ説クモノナリ

第八十七條ハ政府ヲ覆サント為ス等ノコトナリ故ニ眞ノ国事犯ト云フヘキモノナリ就テハ第八十九條ノ末項ニ於テ第四十二條ニ記シタル權利ノ全部又ハ一部ヲ行フノ禁ヲ受クヘシトアリ然ルニ之ヲ何レノ日ヨリ起算スヘシト云フコトヲ説カサルナリ

故ニ日本ニ於テ民権屬籍ノ權ヲ禁スルノ方法ヲ用ヒ之ヲ制定セシトスル時ハ此起算ノ日ヲ明細ニ掲ケ置キ且如何ナル場合ニ於テハ斯ノ如ク為スヘキト云フコトヲ明細ニ掲ケ一條ニ纏

メ置クヘキナリ

若シ然ラサレハ其如何ナル場合ト云フコトヲ一々監定スル為メ裁判官ニ於テ最モ煩ハシキトヲ生スヘキナリ

故ニ之ヲ一條ノ原則ト為シ其起算ノ日ヲ定メ置クヘキナリ

其犯罪ノ次第ニ仍リ之ヲ禁スヘキモノハ其本刑ノ正条中へ何年間又ハ何月間之ヲ禁スルト云フコトヲ一々附記シ置クヘキナリ

尤千八百六十三年ノ改正ニ於テモ其本刑ニ付之ヲ禁スルノ差別ヲ立テ、各条へ附記シ置キタルモノナレ氏其各条中區々ノ昏法ニテ宜シカラス故ニ其原則ト為スヘキ一條ヲ別ニ掲ケ置

クヘキヲ可ナリト為ス

其刑期ノ終リタル日ヨリト云フコトナキ時ハ
刑ノ言渡ノ確定ノ日ヨリト為スヘキナリ

第二十三条ニ有期ノ刑ノ期限ハ其刑ノ言渡ノ
確定ノ日ヨリ起算スヘシトアリ然ルニ民権属

籍ノ權ヲ禁スルコトハ其刑期ノ終リタル日ヨリ
ト為スハ即之ニ及体セルモノナリ

禁錮ノ刑ノ終リタル日ヨリト為シ其刑期中民
権属籍ノ權ノ禁ヲ受ケサル時ハ其自分ハ禁錮

セラルトモ代人ヲ以親族ノ会後等へ出スコト
ヲ得ヘキナレ氏之ヲ刑期ノ始メヨリ禁セラレタル

者ハ代人ヲ出スコトヲ得ス仍テ此禁ヲ起算
ニ仍テハ大ヒニ差違ヲ生スヘキナリ之ハ何レノ

方ヘ一覽スルヲ可ナリト為スマ

刑期ノ了リタル日ヨリト為ス時ハ其禁錮中ハ
代人ヲシテ親族会談へ參セシムルヲ得ヘキナ

リ然シ實際ニ於テハ已ニ禁錮セラレタル者ハ
自ラ丈夫ケノ權利ヲ失ヒタルモノニ付民権属

籍ノ權ノ禁ヲ受クルノ有無ニ就テ格別ノ差違
アルコトナシ

尤禁錮ノ刑期ノ始ヨリ起算スル時ハ之ヲ禁ス
ル期限ヲ長ク為サハル可カラス又刑期ノ終タ

ル日ヨリ起算スル時ハ禁錮ノ入牢中ハ親族会
談等へ代人ヲ出スノ權ヲ持ツト虽モ其出牢後

ハ却テ其權ヲ失フ訳ケニテ前後齟齬スルノ
不都合ヲ生スヘキナリ

故ニ禁錮中ハ勿論其刑期ノ終リタル日ヨリ尚
何年間ハ此權ヲ禁スルト云フコトヲ以原則ト
為スヘキナリ

後第五号

刑法會議筆記

九年一月廿五日

刑法會議

刑法會議

刑法會議筆記 九年一月廿五日

第八十七條

本條ハ千八百五十三年ニ改正セリ

故ニ第八十六條ノ國事犯ト通常ノ罪トヲ混淆シタルモノナリ

皇帝ノ生命及ヒ身体ヘ對シタル暴行ハ重ク為シ皇族ノ生命ニ對シタル暴行ハ通常ノ死刑ト為スナリ

故ニ之ハ通常ノ罪ト國事犯トヲ混淆シタルモノナリ

第八十七條ハ醇粹ノ國事犯ト云フヘキモノナリ

國事犯トハ何トナレハ政府ヲ覆ヘシ政体ヲ一変セントスルコトヲ謀ルモノナリ例ヘハ共和政事ノ時ナレハ王政ト為サントシ王政ノ時ナレハ共和政事ト為サントスル等ノコトナリ

又ハ皇帝ノ即位ノ順序ヲ紊タシ帝權ヲ拒ミ政府ヲ覆ヘサントノ目的ノ意アル者ナリ本條ヲ改正セシ千八百五十三年ノ項ハ三世ナボレラ^レン在世中ノコトナリ故ニ之ハ其王家ノ為メニ用フヘキ法律ナリ

然シ千八百七十年ヨリ王政ヲ一変シテ共和政事ト為リタル後ハ未タ共和政事ノ大統領ニ對シタル暴行ノ罪ニ付テノ法律ナシ故ニ此本條ノ法律ヲ尽ク用フヘシト為ヘカラス然シ只本條ノ上文中ノ政府ヲ覆ヘサントスル云々ノコトハ矢張共和政事ヲ覆ヘシ王家ヲ回復セントスルノ犯罪人アル時ニ方テハ通シ用フヘキナリ

此次條ニ皇嗣ノ順序ヲ紊タリ又帝權ヲ拒ミ云々ノコトハ現今共和政事ノ時世ニ通シ用フヘキモノニアラス
故ニ本條ニ於テハ只上文ノミノコトヲ適用スヘシ

然ラハ若シ共和政事ノ大統領ニ對シタル暴行ノ犯罪人アリタル時ハ第六十六條ノ皇帝ノ生命ニ對シタル暴行ハ尊屬ノ親ヲ弑シタ

ル刑ヲ以テ罰スルトノコトヲモ通シテ用フ
ルヲ得サルナリ
同條ハ皇帝ヲ保護スル為メノ法律ニシテ大
統領ヲ保護スル為メノ法律ニアラス
大統領ヲ殺シタル時ハ謀殺改殺等凡人ニ對
スル罪ト同シク夫々ノ區別ヲ以テ罰スヘキ
ナリ

又ハ他ノ一罪ヲ犯サンカ為メ人ヲ殺シタル
時ナリトモ固ヨリ通常ノ罪ナレハ總テ通常
ノ死刑ト為スヘキナリ

第八十七條ノ政府ヲ覆ヘシ云々等ノ國事犯
ヲ犯シタルモノハ流刑ヲ以テ罰スヘキナリ
之ハ城寨中ノ流刑ニテ死刑ニ代ヘ用フルモ

ノナリ

千八百四十八年迄ハ本條ニ掲クル所ノ罪ハ
總テ死刑ト為セシモノナリ

第八十六條ト第八十七條中ニテ「暴行」ト記シ
タル字ハ「アツタシ」ト云フ原語ナリ此暴
行ト云フハ行ヒ遂ケタル力又ハ行ハントセ
シ所行ノコトナリトス

固ヨリ「ダンダチ」以上ノコトニテ豫備ヲ為
シタルコトヲ云フニアラス

豫備ト為シタルノミニテモ固ヨリ罪アルヘ
キモノナレ氏此暴行ト云フ内ニハ入レテ論
セサルナリ

國事犯ヲ以テ他ノ犯罪ヨリ重ク為ス所ハ何

トナレハ他ノ犯罪即チ通常ノ罪ニ於テハ已
ニ行ヒ遂ケタルコト又ハ其行ハントセシ
行ハ罰シ豫備ヲ為シタルノミニテハ罰セサ
レ氏國事犯ハ其行ヒ遂ケタルコト、行ハ
トセシ所行ト其他豫備ヲ為シタルコトヲモ
罰スルナリ之ハ下條ニアリ

第八十八條

本條ハ暴行ト云フ字義ヲ注解シタルモノナ
リ即チ「アツタシター」ヲ罰スルコトナリ
豫備ヲ為シタルコトヲ罰スルノ明文ハ次條
ニアリ

此所ニ於テ後來日本ノ刑法ヲ編制スル時ノ
為メ便益トナルヘキ一説アリ

第八十六條ト第八十七條中ニ暴行ト書シタ
ルハ不可ナリ何トナレハ皇帝ノ生命等ヲ害
シ又ハ政府ヲ覆ヘス等ノコトハ固ヨリ重罪
ト為スヘキモノナリ

然ラハ何々ノ暴行ト書セスレテ何々ノ重罪
ト書スヘキナリ之ヲ重罪ト書シタル時ハ第
八十八條ニ於テ殊更ニ暴行ノ字義ノ解ヲ下
タサスレテ足ルヘキナリ

何故暴行ノ字ヲ重罪ト書シテ同主意ナルヘ
シトナレハ次條即チ第八十九條中ニ第八十
六條及ヒ第八十七條ニ記シタル重罪ノ目的
云々ト書シタル所ヲ以テ其暴行ハ即チ重罪
タルコトヲ判然ト辨知スヘキナリ

第八十九條

本條第一項ニ陰謀ノ字アリ之ハ如何ナル意味ナリトナレハ第三項ニ於テ陰謀ノ字義ヲ注解セリ即チ二人以上數人ニ於テ商議ヲ為決定シタルコトヲ陰謀ト云フナリ
第一項ニ重罪ヲ目的ト為シタル陰謀云々ノ内ニ於テ「之ヲ行ハントスル」トアリ之ハ其文意穩ナラス
何トナレハ或ハ其重罪ヲ行ハントスルノ意味ニ解スヘシト見誤ルノ患アリ尤モ下文ニ豫備ノ字アル故ニ其豫備ヲ為スノ所為ナルコトハ疑ヲ入レサルナレハ一應ハ注意スヘキコトナリ

本條ノ意味ハ幾部分ニモ剖析シテ説クヘキ筈ナレハ先ツ第一項ヨリ順次ヲ逐ヒ之ヲ説カントス
二人以上數人ニテ陰謀ヲ行フ豫備ヲ為シタル時ハ流刑ト為スナリ此流刑ハ單一ノ流刑ト見做スヘキナリ何トナレハ前條ノ罪ニ就テハ城寨中ノ流刑ナリ故ニ此第一項ノ罪ヲ前條ノ罪ニ以スレハ輕シ仍テ流刑トノミ記シタル上ハ前後ノ推衡ニ於テ無論ニ單一ノ流刑ナルコトヲ知り得ヘキナリ
豫備ト云フコトニ付一例ヲ挙ケントス此一例ハ豫備ナルコトニ於テ固ヨリ疑ヲ入レサルモノナリ

例へハ数人同意シテ連判帳ヲ作ルハ即チ豫
備ノ所為ナリ之ニ二様アリ
現在政府ニ奉職スル所ノ官負テ怨惡スルノ
甚シキヨリ暴動ヲ以テ政府ヲ脅カシ之ヲ廢
黜セシコトヲ謀リ其黨與数人ニテ連判帳ヲ
作りタルハ即チ豫備ノ一事ナリ
又其政府ヲ覆ヘシタル上ハ何某ハ何官ト為
リ何某ハ何職ト為ルヘシトノコトヲ相互ニ
申令セ其申令各ノ連判帳ヲ作りタルモ矢張
豫備ノ一変ナリ尤只其名前ヲ連署シタルノ
ミニテハ豫備ノ所為トハ見做シ難ク必ス未
来ノ政府ヲ立テタル上ハ如何ト為スヘキコ
ト等其成業上ノ目的ヲモ豫メ定メタルモノ

ニアラサレハ豫備ノ所為トハ為サ、ルナリ
又或ハ仮令ヒ現ニ一揆等ヲ起サ、ルトモ其
黨與中ニテ武器ヲ分配シ各自ニ之ヲ所持シ
テ居ル時ハ即チ一揆ヲ起サントスル豫備ノ
所為ト為スヘキナリ此等ノコトヲ豫備ノ所
為ト為スハ固ヨリ疑ヲ入レサルモノナリ
然レ尚一例ハ聊カ疑ヲ抱クヘキコトナリ
例へハ一揆ヲ起サントスル者数人ニテ武器
ヲ賣買スル商店へ往キ各自ニ其武器ヲ奪ヒ
取りタリ之ハ通常ノ罪ニテ論スレハ盜罪ハ
勿論他人ノ家ヲ侵シ乱妨ヲ為シタル罪ナル
コトハ言テ俟タス然レ一揆ノ豫備ナリトシ
テ論スルハ何トナレハ仮令真ニ其豫備ノ為

メナリトモ之ハ全ク一揆ノ豫備カ又ハ國ノ
安寧ヲ害セントスルノ豫備カ又或ヒハ其豫
備ニアラス何ノ用ニ供スルカハ固ヨリ審判
シ得ヘキニアラス

然シ只商店へ往キ武器ヲ奪ヒ取りタルノミ
ニテモ固ヨリ罰スヘキモノナレ氏若シ一揆
ヲ起サンカ為メナリトスル時ハ之ヲ以テ行
ハントセシ所行トハ為ス可カラズ即チ其豫
備ノ所為ト為スヘキナリ

已ニ説キタルコトハ商店即チ通常ノ人ノ家
へ往キ武器ヲ奪ヒ取りタルコトナリ

然シ政府ノ製造所等ニアル所ノ武器藏へ入
リ其武器ヲ奪ヒ取りタル時ハ其奪ヒ取りタ

ル事柄ニ於テハ商店ト別ニ異ナルコトナシ
ト虽氏之ハ自ラ差別ヲ為サハル可カラズ故
ニ其一揆ニ就テ行ハントセシ所行ト為シ城
寨中ノ流刑ニ処スルナリ

之ハ全ク特別ノ法律ニテ即チ第九十六條ノ
法律ニ仍ルモノナリ

同條ハ長キ故ニ其條ヲ講スルノ日ニ至リ詳
説スヘシ

古ハ國事犯ニハ死刑ヲ以テ罰シタレ氏現今
ハ其死刑ヲ廢シ城寨中ノ流刑ト為シタリ
何故へ政府ノ武器藏へ入り奪ヒ取りタルニ
差別ヲ為スヘキトナレハ一体政府ヲ覆サン
トスルニハ其政府ノ兵力ヲ減シ武威ヲ弱メ

ル様ニ為スヘキナリ故ニ政府ノ武器ヲ奪ヒ
取リタルハ即チ其兵力ヲ減シ武威ヲ弱メル
為メニ為シタルコト、見做ヘキナリ仍テ之
ハ豫備ノ所為ノミナラス已ニ行ハントセシ
所行ト為スナリ

第二項ハ豫備ノ所為ニモ未タ至ラサルモノ
ナリ然シ其盟約ヲ為シタルモノニテ即チ一
捺ヲ起ス等ノ陰謀ノミノ場合ナリ之ヲ囚獄
ノ刑ト為スハ随分峻酷ナル刑ナリ

第三項ハ已ニ説キタル如ク陰謀ノ字義ヲ解
シタルモノナリ

二人以上数人ニテ陰謀ノ商議ヲ為シタル時
ハ即チ陰謀ノ罪アルモノト為スナリ之ハ必

ス数人ニアラストモ已ニ二人ナル時ハ即チ
陰謀ノ罪ト為スナリ

第二項ニアル罪ノ刑ヲ以テ峻酷ナリト云フ

ニ就テハ教師ニ於テ別ニ考案アリヤ

教師ハ一等輕キ刑ヲ用フヘシト為ス之ハ必
シ寛裕ニ過クル様ナレ氏自由ニ放シ置カス
閑居為サシムルノミニテ可ナリト考ヘリ
一体只其商議ノミニテ未タ豫備ノ所為ニ至
ラサル時ハ其商議ノ十分ニ決定セシヤ否ヤ
ヲモ知ルヲ得ス然ラハ固ヨリ公益ヲ害スル
コトナシ

殊ニ現今ハ國事犯ニ死刑ヲ廢シ一等輕ク為
セリ故ニ其死刑ヲ一等輕ク為シタル上ハ其

以下ノ罪ニ於テモ皆各一等ツ、輕ク為スヲ
以テ其權衡ヲ得ヘシト考ヘリ
其權衡ヲ以テ論シ豫備ノ所為ヲ一等輕ク為
ス時ハ即チ二十年ノ囚獄ノ刑ニテ十分ナル
ヘシ

第八十七條中ノ罪ハ仮令ヒ其所行ヲ為シ遂
ケタルヤ否ハ知レサルトモ一体ノ情狀ニ於
テ重シト為ス故ニ一生城寨中ニ謫スルノ流
刑ト為スナリ

第百八十九條ノ罪ハ少シ輕シト為ス故ニ一生
單一ノ流刑ト為スナリ之ハ峻酷ニ失スルト
考ヘリ元ヨリ城寨中ニ謫スル流刑トハ其取
扱方ニハ差別モアルモノナレ氏均シク一生

ト為スハ不適當ナリ仍テ二十年ノ囚獄ノ刑
ト為スヘシ尤囚獄ノ刑ノ内ニテ五年位ノ刑
期ニテ可ナリト云フニアラス

刑ヲ用フルニハ餘リ峻酷ニ罰スルハ不可ナ
リ

其罪ヲ犯シ遂ケタル場合ニ於テ之ヲ罰スヘ
キハ言ヲ俟タス然シ犯シ遂ケサルモノハ成
丈ケ寛裕ニ罰スヘキナリ然ラサレハ例ヘハ
一揆杯ニ於テモ其豫備ノ所為ノミニテ一生
ノ刑ト為ス時ハ仮令犯シ遂ケタリトモ均シ
ク一生ノ刑ナリ然ラハ寧口犯シ遂クヘシト
考ヘ遂ニ之ヲ為シ遂クルニ至ルヘシ
故ニ余リ峻酷ニ為スハ宜シカラス

第八十九条ニ復シテ説クヘシ
第四項ハ未タ陰謀ヲ為サス之ヲ為サントセ
シモノナリ

例ヘハ甲ノ者ニテ陰謀ヲ為サントシテ乙者
ヘ相談ヲ仕掛タリ然レ氏乙者ニテ其相談ニ
同意セサル時ハ之ヲ陰謀トハ為サレ氏其
己ニ察言シタル者ハ禁錮ノ刑ト為ス
改ニ前項ニ以スレハ餘程輕ク為シタルモノ
ナリ

此禁錮ノ刑期ハ一年ヨリ五年ト為ス之ハ禁
錮ノ刑ノ内第一ノ長期ナリ
尤盜罪等他ノ罪ニテハ時ニ寄リ一年ヨリ五
年ノ刑期ト為スモノアリトモ通常ハ禁錮

ノ刑ニテ一年ヨリ五年ノ刑期ト為スハ最モ
長期ト云フヘキモノナリ

然レ再犯加等ノ時ハ輕罪ニテモ十年ノ刑期
ト為スモノアリ

或刑ノ内ニハ禁錮ト罰金トヲ合セテ用フル
コトアリ

本項ノ罪ニ就テハ罰金ヲ言渡スナシ
之ハ一体ノ權衡ニ適セサルモノナリ

何トナレハ盜罪又ハ乞食等ノ輕罪ニテハ罰
金ヲ言渡ストモ其金ヲ出ス能ハサルモノア
レ氏之ヲ以テ罰スルコト、為セリ然レ氏本
項ノ犯罪人ハ固ヨリ罰金ヲ出ストモ差支ナ
キ身代ノモノナレハ天張罰金ヲモ言渡シテ

然ルヘシト考ヘリ

且本項ノ罪ニハ第四十二條ノ民権属籍ノ權ノ一部又ハ全部ヲ禁スルコトヲ得ヘシトアリ

之ハ禁スルトモ又ハ禁セサルトモ可ナリ必ス禁スヘシト云フニアラス

爰ニ注意スヘキコトアリ或條ニ於テハ民権属籍ノ權ヲ禁スルハ刑期ノ了リタル日ヨリト記シタル所アレトモ本條ニ於テハ其刑期ノ了リタル日ヨリト云フコトナシ然シ之ハ裁判官ニテ容易ニ定ムルヲ得ス仍テ其刑ノ確定ノ日ヨリ之ヲ禁スルコト、為スナリ之ヲ禁スルノ期限ハ先ツ一年ヨリ五年迄ト

為スナレ氏若シ五年ノ刑期ノ者へ五年ノ間之ヲ禁スル時ハ其刑期中ノミニテ折角之ヲ禁シタルノ甲斐ナシ故ニ其五年以上ト為シ其刑期後ニ残ルヘキ期限ヲ以テ言渡スヘキナリ

第九十條

本條ハ他ニ黨與ナク一人ニテ第八十六條ノ罪ヲ決定シ其豫備ノ所為ヲモ為シタルモノナリ之ハ囚獄ノ刑ト為ス此囚獄ノ刑ハ五年ヨリ二十年迄ニ至ルモノナリ之ハ少シ峻酷ナラスヤ

本條ノ罪ヲ以テ第八十九條ノ第二項ノ罪ニ比較シテ見ルヘシ

ソノ第二項ノ数人ニテ高議シ豫備ノ所ヲ
為シタルモノハ囚獄ノ刑ヲ以テ罰スヘシト
アリ

然ラハ本條ノ一人ニテ之ヲ決定シ豫備ノ所
為チ為シタル者ヲモ囚獄ノ刑ト為スハ其害
ヲ同シコト、見做シタルモノナルヘシ然シ
之ハ少シ峻酷ナリト考ヘリ

已ニ説キタルコトハ重キ罪ヨリ輕キ罪ニ説
キ及ホシタルモノナリ尚又輕キ罪ヨリ重キ
罪ニ湖洩シテ略説スヘシ

第^{八十九}條ノ^{第四}項ニ^{第八十六}條及^{第八}
^{十七}條ニ記シタル^重罪云々トアル^重罪ノ字
ハ^{第八十六}條中ノ^重罪ニ當ルヘキコトノミ

ヲ指シテ其他^輕罪ニ當ルヘキコトヲ云ヒタ
ルニアラサルヘシ

然リ固ヨリ^重罪ニ當ルヘキコトノミヲ云フ
ナリ同條中不敬ノ罪杯ハ最初ヨリ豫備ヲ為
シテ之ヲ行フヘキモノニアラス

第^{九十}條ニ^{第八十六}條ニ記シタル^重罪トノ
ミ^各シテ^{第八十七}條ノ^重罪ノコトヲ^各セス
然ラハ^{第八十七}條ニ記シタル^重罪ヲ一人ニ
テ決定シ自ラ之ヲ為サレトシタル時ハ如何
ト為スヘキヤトナレハ法律中ニ明文ナキ故
ニ罰スヘキコトニアラス無罪ト為シ置クヘ
キナリ其明文ナキ故ニ此法律ニ依ル時ハ
罰スヘキニアラスト^虫モ教師ノ説ハ否ラス

畢竟第八十六條ノ罪ハ最モ重キ故ニ之ヲ拳
ケテ第八十七條ノ罪ノ少シ輕キコトヲ省キ
タルモノナリ

改ニ第八十七條ノ重罪ヲ一人ニテ為サント
シタル時等ハ禁錮又ハ追放ノ刑ト為シテ當
然ナリト考ヘリ

溯洄ノ略説ノコトニ及フ可シ

第一一人ニテ第八十六條ト第八十七條ノコ
トヲ決意シテ他人ニ相談シ他人ニテ同意セ
サル時ハ一年ヨリ五年ノ禁錮ト為ス之ハ輕
罪ナリ

第二一人ニテ第八十六條ノコトヲ決定シ他
人ノ助ケナク自ラ為シタル時ハ囚獄ノ刑ト

為ス

第九十條一人ニテ第八十六條ノ重罪ニ付之
ヲ為サントシタル時等ハ囚獄ノ刑ニ処スヘ
シトアリ然ルニ其第八十九條ニハ他人へ相
談シ兼諾セサル時ハ其奈言ノ者ヲ禁錮ニ處
シ云々トアリ一体他人ノ兼諾スルトセサル
トニ拘ハラス已ニ奈言シタル上ハ其陰謀ヲ
為サントセシモノニアラスヤ

然レ第九十條ノコトハ已ニ豫備迄モ為シタ
ル場合ニ付重ク論シテ囚獄ノ刑ト為スナリ
殊ニ之ハ其相談ト豫備トノ二ツヲ兼テ即チ
二罪俱奈ノ重キニ隨フノ理ニテ囚獄ノ刑ト為
スモノナリ

第三一檢等ノコトヲ起サントノ陰謀ヲ他人
へ相談シ他人モ同意シタル時ハ其陰謀ハ已
ニ成立タルモノナリ之ハ囚獄ノ刑ト為スナ
リ
第四陰謀ハ已ニ成立テ其豫備ノ所為ニ及ヒ
タルモノナリ譬へハ政府ヲ覆へサントノ連
判帳ヲ作りタル時ハ流刑ト為スナリ
第五陰謀モ豫備モ已ニ全ク成リ立テ實地ノ
暴挙ニ至リ政府ノ兵隊等ニテ防禦セラレタ
ル時ハ城寨中ノ流刑ト為スナリ
尤其暴挙ヲ為シ遂ケタル時ハ一國ノ長トモ
為ルヘキニ付元ヨリ罪ナキモノナレ氏終ヒ
ニ之ヲ遂クル能ハサル時ノコトナリ

注意ノ為メ尚一言説クヘキコトアリ
佛國ノ一般ノ法律ニ於テハ犯サレトセシ
所行ヲ已レノ意外ノ景況ニ因テ中止シタル時
ハ已ニ犯シタル罪ト同シク為スノ原則アリ
即チ第二條ニ掲ケタル場合はレナリ
然ラハ第八十九條ノ第四項ニアル已レノ陰
謀ヲ他人へ察言シタルハ即チ陰謀ヲ為サン
トセシニアラスヤ
例へハ一檢ヲ起サントテ已レノ陰謀ヲ他人
へ相談シ之ヲ承諾シタルハ即チ其陰謀ヲ已
ニ為シタルモノナリ故ニ其承諾セサルカ為
メニ察言シタルノミナルハ即チ已ノ意外ノ
景況ニ因テ中止シタルモノナリ

然ルニ之ヲ輕罪ト爲セリ一體ハ其陰謀ヲ爲
サントセシモノニアラス
尤之ニ付テハ未タ他ニ法律ナシト云モ此法
律ノ原則ニハ適セサルモノナリ

後第六号

刑法會議筆記

九年二月五日

刑法會議

第九十一條

本條ハ國事犯ナリ然シ少シク疑ヲ抱クヘキ
 所アリ内乱ヲ起ス等ノコトハ固ヨリ國事犯
 ニ相違ナシトモ其内乱ノ内ニハ種々ノ事
 柄ヲ含メリ即チ第一項初句ノ臣民ヲシテ互
 ニ兵器ヲ弄セシメント云々ノコトハ自ラ其
 國ノ政事ヲ一變セント欲シ之ヲ起シタルヤ
 モ知ル可カラス仍テ在リ國事犯ト為スヘキ
 ナリ

然レトモ第二句ノ重罪中ノ一ヲ目的ト為シ
 タル陰謀云々ノコトハ少コシ疑ヲ抱クヘキ

ナリ

先ツ第一項ノ初句ニ就テ説カントス

第一項ハ未タ内乱ノ事迹ヲ現ハサス他人ヲ教唆シタル等ノコトナリ

又或ハ他人ヲ煽動シテ内乱ヲ起サシメント為シタルコトナリ仍テ既ニ其内乱ノ事迹ヲ

現ハシタルコトニ迄及ホシテ論ス可カラズ此罪犯ノ者ト虽モ以前ハ死刑ト為シタレ

現今ハ流刑ト為スナリ本條ニ於テ内乱ヲ起サント為シタルハ如何

ナル目的ナルヤトナレハ政府ヲ覆サン為メ臣民ヲ煽動セシヤモ斗リ難シ然ラハ第八十

七條ニ政府ヲ覆シ云々トアリ故ニ此所ニ内乱ト云フモ矢張同條ト同様ノ目的ナルヘシ

ト推知スヘキナリ然シ第八十七條ノ主意ハ甚ク狭シ即チ政府

ヲ覆ヘシ云々トノコトヲ約言スレハ畢竟政府ヘ抵抗シタルコトノミヲ云フナリ

本條ハ其主意最モ廣シ例ヘハ佛國ニテ宗門ノ爭論ニテ人民同志ノ

内乱ヲ起サントスルカ又ハ政府ヘ對シタルコトノ内ニモ更ニ議院ヲ増サント為スカ又

ハ職貢ノ給金ヲ増サントスル等ノコトモ此内乱ノ内ニ含ナリ

故ニ此等ノ事柄ニテ政府ヘ對シ抵抗シタルコト、虽モ均シク内乱ヲ起サントスル部類

同法

ノモノナリトス

英國ノ「イ、ルランド」杯ニテハ屢内乱ヲ起ス
コトアリ之ハ固ヨリ女王ノ王國ヲ傾ケ政府
ヲ覆ヘサントスル為メニアラス只一箇ノ議
院ヲ起サシカ為メ人民相率テ紛擾ヲ生シ内
乱ヲ起スコトアリ

例ヘハ日本ニ於テモ西國ニテ其地境丈ケノ
者ハ特別ニ議貞ノ撰挙ニ加リ度等ノコトヲ
目的トシテ徒黨ヲ為シタル時ハ素ヨリ政府
ヲ覆ヘサントスル為メニアラサルトモ矢張
内乱ト云フヘキナリ

王政ニテ民撰議院ヲ設立セント為ル時ニ方
テ此等ノ内乱ヲ起スコトアルヘキナリ此所
ニテ内乱ト云フハ第八十七條ノ政府ヲ覆ヘ
シ云々等ノ目的ニアラス又其目的ニ比スレ
ハ一体ノ事柄ニ於テハ輕キモノナレバ均シ
ク内乱ト云フヘキナリ

國內ニテ民撰議院ヲ設立センコトヲ人民ヨ
リ書キ物ヲ以テ乞願スルカ又其方法ニ付種
々ノ書キ物ヲ出シ乞願スルコトハ固ヨリ内
乱ト云フヘキニアラサレバ其乞願ヲ主張シ
武器ヲ用ヒ兵威ヲ以テ政府ヘ迫リ之ヲ仕遂
ケントスルモノハ即チ内乱ト云フヘキナリ

然ラハ一地方ニテ妄リニ賦税ノ適否等ヲ論
シ区戸長ヘ迫リ其家ヘ乱暴ヲ為スカ又ハ縣
令ヘ迫リ其縣廳ヲ襲フ等ニテ一揆ヲ起シリ

ルコトヲモ本條ノ内乱ト云フ内ニ入レテ論
スヘキヤ

本條ノ内ニテ區別シ為^ハル可カラズ例ハ
ハ一縣下ノ人民又ハ一邑ノ人民ニテ黨與^ヲ
^爲相率テ縣令ニ迫リタル等ノコトハ上文ノ
旨意ニ屬セス下文ノ一箇ノゴシムニ云々
以下ノ旨意ニ屬スヘキナリ

又内乱ノ性質ヲ帶^ヒサルモノニテ國ノ安寧
ニ關スル性質ノモノアリ
即チ第九十五條ニ於テ少し其性質ノモノヲ
示シ第九十六條ニ至リ重モニ其性質ノモノ
ヲ示セリ

内乱ト内乱ノ性質ヲ帶^ヒスシテ國ノ安寧ニ
關スル性質ノモノトニ於テ名區別アリト雖
モ其刑ヲ用ユル所ニ至テハ格別ノ區別ナ
シ

然レ皇帝ノ生命ニ對シタル暴行ハ其刑ニ於
テ區別アリ

一箇ノゴシムニ云々以下ノ暴行ハ佛國ニ
テ以前ハ屢之ヲ為シタルモノアリ
即チ人民ニテ貴族ヲ忌嫌シ其家ヘ乱暴ヲ為
ス等ノコトナリ

貴族ハ平民ヨリ兇角忌嫌スルモノナリ
佛國ノ共和政事ノ最初即チ王政ノ政体ト判^然
一定セサル時ハ各所ノ人民ニテ一揆ヲ起シ
貴族ハ年々貢クヘキ税ヲ避ケント為シタリ

己ニ巴里ニ於テモ屢其一揆ヲ起シタルコトアリ

日本ニテ斯ノ如キコトナキハ大名ノ寛大ナルカ人民ノ恭敬ナルヨリノ所以ナルヘシ畢竟他國ノ人民ハ粗暴ナル故ナルヘシ

一揆ハ各國トモニアルヘキコトナリ就テハ其黨與中頭取タルモノ、數入アル時ハ之ヲ総テ同様ニ罰スヘキヤ又ハ其内ニテ差別ヲ立ツヘキヤ

其一所ニ屯集シタル黨與ヲ残ラス同様ニ罰スヘキニアラス自ラ差別アルヘキナリ

第九十六條ニハ群眾ヲ指揮シ又煽動シ及ヒ其他ノ兇行ヲ為シタル者ノ罪アリ故ニ其差

別ハ同條以下第百條迄ニ輕重ヲ分ケタル法律アリ之ハ

第九十七條ヨリ追々ニ輕ク為シ第百條ニ至テハ最モ輕ク總ナル刑ト為スナリ

第九十七條ハ其指揮役及職務ヲ行ヒタル者ヲ云フ之ハ死刑ナリ

第九十八條ハ其指揮及ヒ職務ヲ行ハントシタル者ヲ云フ之ハ流刑ナリ

第九十九條ハ群眾ヘ隱匿ノ地ヲ貸與シタル者等ヲ云フ之ハ有期ノ徒刑ナリ

第百條ハ其徒與中ニテ官吏ノ叱責ヲ受ケタル後ニ於テモ尚政府ノ命ニ抗シタル者兵器ヲ弄スルコト等ナク逮捕セラレタル者

シ云フ之ハ極輕ク僅カナル刑ナリ

此數ヶ條ノコトハ若其本條ニ就テ詳説スヘキナレバ其差別アル決第ハ先ツ斯ノ如キナリ

斯ノ如キ者ハ固ヨリ陸軍ノ兵隊等ヲ以テ逮捕スヘキナリ然ラハ其儘陸軍ノ法律ヲ用ヒ

其裁判所ニテ罰スヘキヤ

又ハ通常ノ法律ヲ用ヒ罰スヘキヤ

土地ノ安寧ヲ害スルモノナレバ固ヨリ政府ノ兵隊ヲ以テ鎮靜セサルヘカラス尤其黨共

ノ通常ノ者ナル時ハ通常ノ法律ヲ用ヒ通常ノ裁判所ニテ裁判スヘキナリ

然シ其時ニ方テ戰場同様ニ處置スヘシトノ布告アリタル時ハ陸軍裁判所ニテ裁判スヘキナリ

其一揆ノ場合ヲ以テ戰場ニテ困ミヲ受ケタル時ト同様ニ處置スヘキコトハ必ス政府ヨリ一ツノ布告アルヘキナリ

其時ハ陸軍裁判所ニテ裁判スルト虫モ然シ其布告ノ法律ハ既往ニ及ホサルニ付其布

告已前ニ逮捕セシ者ハ矢張通常ノ裁判所ニテ裁判スヘシ故ニ之ハ全ク布告ノ出テタル

上時ニ限ルヘキコトナリ

其布告アリタリトモ其罪状ノ刑名ハ通常ノ法律ヲ用ヒ只之ヲ陸軍裁判所ニテ取扱フ迄

ノコトナリ

此所ニテ論議ヲ一定シ置クヘキコトアリ
政府ノ役所等ノ建物ヲ焚キタル者ハ國事犯
ト為スヘキカ通常ノ罪ト為スヘキカ
之ハ國事犯ト為スヘキトノ説アリ何トナレ
ハ政府ノ役所等ヲ焚キタルコトハ固ヨリ惡
ムヘキ所行ナリ然シ其主意ハ自分一己ノ為
メヲ計ルモノニアラス故ニ通常ノ罪トハ為
シ難シ其役所等ヲ焚キタルハ畢竟政事ヲ一
變センカ為メ又公族ノ家屋ヲ焚キタルモノ
ト雖モ其公族ノ身分ノ位地ヲ一變セントノ
為メニテ固ヨリ自分一己ノ私欲上ヨリ為シ
タルモノニアラス
然シ政府ノ役所ヲ燒キ簿冊ヲ消失シ官金ノ

計算ヲ紊タシ之ヲ奪ハントスル等一己ノ為
ヲ計リタル時ハ矢張通常ノ罪ト為スヘキナ
ラン

一己ノ惡心ニテ為シタル時ハ固ヨリ通常ノ
罪ト為スナリ然シ縣令又ハ其他ノ官吏ノ政
務上ノ所為ヲ怨對シ仇視スルカ故ナル時ハ
之ヲ以テ通常ノ罪トハ為ス可カラス尤此差
別ハ判然ト定メ難キコトナリ
第九十五條ニ地雷火ヲ破裂セシメ云々ノ者
ハ死刑ニ處ストアリ

又第四百三十四條ニ人ノ居住スヘキ場所又
ハ船舶ヲ故意ヲ以テ放火シタル者ハ死刑ト
為ストアリ

之ハ千八百六十三年ニ改正セリ
然レ其時ニ於テ政府ノ建物ヲ焚キタルト
人民ノ私ノ建物ヲ焚キタルトノ區別ナク何
レモ死刑ト為セリ
又人ノ住居セサル建物ナレハ無期ノ徒刑ト
為セリ

然ラハ第九十五條ノ罪ハ全ク國事犯トモ見
做シ難シト雖モ詰リ此建物ヲ焚キタル者ハ
死刑ト為シテ当然ナリト考ヘリ
先頃巴里ノ内乱ノ時ニ於テハ人衆ヲ燒キ人
ヲ銃殺シタル者ハ皆ナ死刑ト為シ其内或ル
者ハ減等シテ無期ノ徒刑ト為セリ
故ニ通常ノ人家ヲ燒キタル者ハ死刑ニ處ス

ルヲ当然ト為セシコトナリ

然ラハ通常ノ罪ト為シタルモノナレバ其時
陸軍裁判所ニ於テ之ヲ裁判シテ尤其
死刑ト為シタルハ其刑法ノミ通常ノ罪ヲ以
テ罰シタルモノナリ。畢竟其時限リノ布告ニ
仍リタルモノナリ

然シ又其時英國ニ逃亡シタル者ヲ其儘ニ捨
置キ英國ニ引渡スヘキ旨ヲ掛合ハサルヲ見
レハ佛國政府ニテモ強テ通常ノ罪トモ定メ
難キ場合アリタルコト一考ヘリ

通常ノ罪ニテ人ノ建物ヲ燒キ英國ニ逃亡シ
タル時ハ佛國政府ニテ急度其者ヲ引渡スヘ
キ旨ヲ掛合ヒ英國政府ニテモ之ヲ引渡サ

ル可カラサルナリ

佛國ノ刑法ニハ此ノ如キ不整肅ナルコトアリ故ニ日本ニテ刑法ヲ改正スルニ就テハ此等ノ區別ハ判然ト一定シ置クヘキナリ

一体其時ノ形勢ニ拘ハラズ戰場ノ外ニ於テ人ヲ殺シ又ハ人家ヲ燒キタル者ハ斷然通常ノ罪ト為スヘキナリ

同シク人殺ノ内ニテモ通常ノ罪ト為セハ謀殺故殺等ノ區別ハ暫ク置キ先ツ死刑ニ處スルナリ然レトモ之ヲ國事犯ト為ス時ハ流刑ニ處スルナリ

故ニ縣令等ノ官吏ヲ怨懟シテ殺シタル者ト雖モ一己ノ私怨ナル時ハ死刑ト為シ又之ヲ

政事上ノ罪ニテ國事犯ト為ス時ハ流刑ニ處スルナリ然ラハ其國事犯ナルコトノ證據ノ判

然ナル時ハ假令ヒ一人ニテ縣令其他ノ官吏ヲ殺スカ又ハ暗殺スルトモ矢張國事犯ト為スヘキヤ

通常ノ罪ト國事トノ區別ノ立テ方ハ甚ク難事ナリ

免職セラレタル等自身一己ノ怨ミニテ其長官ヲ殺スハ全ク私罪ニテ政事上ノ罪ニアラス

然シ長官等ノ在職スルヲ忌嫌シ政事上ニ害アリト為シ之ヲ殺スカ又ハ他ノ暴行ヲ為ス時ハ聊カ國事犯ノ性質アリト雖モ一揆徒黨

ノ如キ判然タル國事犯ニハアラス故ニ佛國
ニテハ通常ノ罪ト為スナリ
何トナレバ之ヲ國事犯ト為シ輕ク罰スル時
ハ他ノ事柄ニテ人ヲ殺シタル者ハ何レモ其
罪ヲ宥メラレシコトヲ計リ國事犯ノ情狀ニ
言ヒ立ヘキノ弊ヲ生セントスルノ患ヒアル
故ナリ

故ニ仏國ノ刑法中國事犯ノ罪ヲ掲ケタル數
ヶ條中ニ於テハ一人一已ニテ犯シタル罪ヲ
國事犯ト為スコトナシ必ス二人以上數人相
率テ乱暴ヲ為シタル時ノコトニ限ルナリ
然レ只第九十條ノミニ於テ第八十六條ニ記
シタル重罪犯ヲ行ハント決定シ云々ノ所為

シ他人ノ助ケナリ在リ一人ニテ為シタル時
ハ反令其一人ニテ為シタルコトナリトモ死
刑ヲ免カレサルナリ

一按等ノ如ク其罪性質ヲ以テ二人以上數人
一体ノ上ニ廣カリタルモノニアラサレハ國
事犯ト認ムルヲ得サルナリ

例ハ今日一人ニテ仏國ノ大統領ヲ殺サシ
トスルカ又ハ殺シ遂ケタル時ハ固ヨリ第八
十六條ニ仍テ罰スル能ハス然シ國事犯ト為
シ難シ又暗殺ハ反令二人以上三人又ハ其者
同志連判シタル上ナリトモ國事犯トハ為サ
ス

然ラハ大統領ヲ殺シタル罪ヲ國事犯ト為サ

ル時ハ如何ト為スヘキヤトナレハ矢張第
八十六條ニ仍テ極過度ノ刑ニ處スルカ又ハ
法律上ニ明文ナキヲ以テ無罪ト為スヘキカ
ナリ

然シ斯ノ如キ場合ニ方テハ先ツ通常ノ罪ト
見為シ置キ陪審ヨリ其病情ニ於テハ至ク私
怨ノ為メニアラス政事上ノ為メナリト云フ
コトヲ論シ酌量輕減シ言立ハキナリ

尤陪審ニ於テ其者之ヲ殺シタル本心ヲ知ラ
サル時ハ其酌量輕減シ言立ツルヲ得サルナ
リ

故ニ何レニモ第八十六條ト第八十七條ノ刑
法ハ現今ノ大統領へ通シ用ユルヲ得ス何ト

ナレハ

大統領ハ固ヨリ帝推ニアラヌ又皇嗣云々ト
アレ氏別ニ皇嗣ノ推ナケレハナリ

日本ニテハ國事犯ト通常ノ罪トノ區別ナク
死刑ト為スト聞ケリ

極重キ罪ヲ以テ死刑ト為クニ於テハ其區別ナ
シト雖モ格別輕重ノ差ヲ生スルコトナシ然
レ氏其輕キ罪即チ豫備等ヲ為シタル者ヲ罰
スルニ於テハ其區別ヲ以テ審判セサル可カ
ラサルナリ

故ニ其區別ハ能ク研究スルキナリ
千八百三十年ノ布告ニ總テ推限ノコトヲ定
メタル法律アリ

其内ニハ第三篇ノ第一章ト第二章ハ國事犯
ニ関スル所ノ重輕罪ト為ストアリ
故ニ此第二章ハ全ク國事犯ト為シタルモノナ
リ

尤第二章ハゴンストナ、一シヨシノコトナ
リ

此第二章ノ事柄ハ総テ國事犯ト為スヘシトノ
布告アリタレモ現今ハ已ニ廢止セシナリ
故ニ其時代ノ立法官ハ之ヲ盡ク國事犯ト為
セリ

然シ教師ノ考ニハ敵國へ圖面ヲ渡シタルコ
トハ國事犯トハ為ス可カラス何トナレハ自
國ノ者ニテ自國ノ繪圖面ヲ外國へ渡シタル

コトハ固ヨリ全國ノ害ヲ為スモノニテ自國
ノ政府ノミヘ對スル罪ニアラサレハナリ
又第七十七條ニテ臺場等ヲ渡スコトアリ之
モ同シク國事犯トハ為シ難シ

例ハハ他國人ニテ他國へ全國ヲ渡サントス
者ハ他國ノ國事犯トハ為サ、ル可キナリ
殊ニ敵國ヨリ賄賂ヲ受ケテ自國ノ圖面ヲ渡
シタル等ノコトハ其心實ノ甚ク惡ムヘキモ
ノナリ故ニ固ヨリ國事犯トハ為サ、ル可カラ
追テ全世界中ヲ一國ト見做スヘキ時勢ニ至
ラ、格別一政府ニテ全世界ヲ支配スル能ハサ
ル理ナレハ自ラ各國相互ヒニ對立セサル可
カラサルナリ但シ品物ノ有無ヲ各國相互ヒ

詞法首

ニ融通スルハ固ヨリ当然ノ理アレハナリ

詞法首

後第七号

刑法會議筆記

九年二月十日

司
法
省

司
法
省

刑法會議筆記

九年二月十日

第九十一條

本條ノ第一項ハ其所行ヲ己ニ為シ遂ケタル
モノニテ只其陰謀即チ之ヲ企テタルノミニ
アラス原語ニテ「アツタンター」ト云フコトナ
リ
故ニ固ヨリ犯サントセシ所行ハアラサルナ
リ
第二項ハ陰謀ノミニテ未タ之ヲ為シ遂ケサ
ルモノナリ
尤第一項ハ内乱ヲ起スコトヲ為シ遂ケタル
モノニテ之ヲ為シ遂ケサル時ハ斯ノ如ク為

スヘシト云フエトヲ別ニ記セサレ他ニ明文ナキ故「タンタチーフ」ノエト迄ヲ本項中ニ含メルモノト見做スヘキナリ
第二項ハ為シ遂ケタルモノニアラス陰謀ノコト而已ナリ故ニ「タンタチーフ」トハ自ラ違ヒアリ

本条中ニ「暴行ト云フ字ハ「アツタンター」ト云フ原語ナリ之ヲ刑法ニ用ヒタルハ宜シカラス佛國ニテハ此原語ニ付テハ議論ヲ生スルコトアリ

之ハ「タンタチーフ」ノ出所ト同シ意味ノ語ナリ然シ本条ニ於テハ此「アツタンター」ト云フ語ヲ以テ己ニ為シ遂タル場合ニ用ヒタルモ

ノナリ

第八十八條ニ於テハ其「アツタンター」ノ意味ヲ註釋シタルモノナリ

仏國ニテハ「アツタンター」ト云フ語ヲ用ヒタリトモ格別ノ害アルニアラス何トナレハ刑法ノ原則ニ於テ「タンタチーフ」ト「アツタンター」トハ同シ刑ニ處スヘキモノナレハナリ

即チ第二條ニ已レノ意外ノ景況ニ仍リ云ク其所行ヲ重罪ト為スヘシトアリ

然シ獨シノ刑法ノ如ク之ヲ判然ト二様ニ區別スル時ハ混一セサル様ニ注意スヘキナリ
全國ノ人民ハ一般ニ法律ノ注意ヲ知ルヘキニアラス然ラハ或ヒハ「アツタンター」ト「タレ

タキ一トト同様ニ見做スノ誤リナシト云フ
可カラス然シ法律家ニ於テハ其誤ナク「アツ
タシタ」トアル時ハ必ス「タシタ」ト云フ以上ノ罪
ト見做スヘキナリ

第九十一條ノ第一項ハ第八十八條ニ記シタル
所ノ主意ニ仍リ内乱ヲ為シ遂ケタルコト、
又之ヲ犯サントセシ所行トノコトニ就テ「ア
ツタシタ」トノ語ヲ用ヒタルモノナリ
然シ内乱ヲ起サントノ豫備ヲ為シタルコト
ハ「アツタシタ」トハ云ハサルナリ

故ニ第一項ハ豫備ヲ為シタルコト、同様ニ
見做ス可カラス
第八十九條ニ豫備ヲ為スノ所為ハ流刑ニ罰

スヘキトアリ

然シ豫備ヲ為スノ所為ヲ行ヒタル場合ニ至
テハ只其陰謀即チ甲ノ者ヨリ乙ノ者へ相諮
ヲ為シ決定シタル時ハ囚獄ノ刑ト為スナ
リ

即チ第八十九條ノ第二項ニアリ

又タ犯サントセシ所行ハ勿論豫備陰謀ニモ
アラズ只甲ノ者ヨリ乙ノ者へ相諮ヲ為シタ
ルノミノ時ハ第八十九條ノ第四項ニ仍テ一
ケ年ヨリ少ナカラス五ケ年ヨリ多カラサル
禁錮ノ刑ニ處スヘキナリ

之ヲ要スルニ内乱ヲ為シ遂ケタルカ又為サ
ント仕掛ケタル時ハ本條ノ第一項ニ仍リ死

刑ト為スアリ
然シ現今ハ政事ノ罪ノ内最重キ刑ハ城寨中
ノ流刑ト為ス
故ニ若シ内乱ヲ起サントノ豫備ヲ為シタル
時ハ單一ノ流刑ト為ス
内乱ヲ起サントスル者ヨリ陰謀ノ相謀ヲ為
シ決定シタルコトヲ陰謀ト云フ之ハ囚獄ノ
刑ト為ス
之ヲ相謀スルトモ他ノ者ニテ承諾セス全ク
發言シタルノミノ時ハ禁錮ニ処ス曾テ注意
ノ為テ一論ヲ述ヘタル氏尚之ヲ説ントス
一休犯ントセシ劣行ノ者ニテ已レノ意外ノ
景況ニ仍テ任損シタル時ハ之ヲ已ニ犯シタ

ル者ト同様重罪ト為ス然ルニ此陰謀ヲ為サ
ントシテ他ノ者ノ承諾セサルカ為メ之ヲ任
損シテ為シ遂ケサル時ハ陰謀ノ、タンタチ
コトハ為サハルナリ
陰謀ハ即ケ重罪ナリ然レ氏其陰謀ヲ任損シ
タル場合ニ於テハ其、タンタチコトシテ重
罪トハ為サハルモノトス

第九十二條

本條ハ内乱ヲ起サントセシ劣行ナリ
然シ未タ戦闘ヲ為シタルモノニアテサルナ
レ氏豫備ノ処行ヨリ一層進ミタル罪ナリ
以前ハ之ヲ死刑ニ処セシナレ氏現今ハ城寨
中ノ流刑ト為ス

然シ未タ少シク酷ニ過クルト考ヘリ
何トナレハ国ノ安寧ヲ害スルモノト虽モ未
タ戦闘ヲ为サレハ其已ニ为シタル
者ニ比スレハ裁部分カノ害ヲ減シタルモノ
ナリ

教師ノ取調ヘタル刑法ノ見込書ノ総論中ニ
モ一議論ヲ書キ加ヘ置キタルコトアリ何ト
ナレハ

十分ノ重キ罪ニ至ラサル者ヲ以テ其十分ノ
重キ罪ト同様ノ刑ニ処スル時ハ仮令ニ为シ
遂ケサルトモ別ニ輕キ刑ト为ルニモアラス
然ラハ寧ロ之ヲ为シ遂クヘシト考ヘ遂ニ其
罪ノ十分ナル重點ニ及フ迄中止スルコトナ

キニ至ルヘキナリ

例ハ政府ノ兵卒アリ之ヲ以テ一揆ヲ起サ
シカ为メ武器等ヲ給與シタリ

其武器ヲ給与シタル迄ノ者ヲ以テ其已ニ犯
シタル者ト均シク死刑ト为ス時ハ犯者謂ラ
ク之ヲ實地ニ犯ストモ又只其武器ヲ給與シ
タルノミニラモ均シク死刑ナリ然ラハ寧ロ
之ヲ實地ニ犯スニ如カスト仍テ遂ニ犯シ遂
クルニ至ルヘキノ弊害ヲ生スヘキナリ
之ハ恰モ其刑法ニ挑激セラレタルカ为メ愈
其氣焰ヲ熾ナラシムルノ理ニ当ルナリ
尤現今ハ之ヲ死刑トハ为サス然シ刑ノ等位
ハ異ナリト虽モ其理ハ一ナリ

其已ニ犯シタル者ヲ城寨中ノ流刑ト爲シ又
犯サントシテ遂ケサル者モ同シク此流刑ト
爲ス時ハ矢張其刑ノ平均ヲ失ヒタルモノナ
リ

本條ニ群衆ヲ募集シ又ハ募集セシメ云々等
種々ノ事柄ヲ記セリト虽モ詰リ同シコトナ
リ故ニ此等ノ場合ニ於テハ格別輕重ノ大差
違ヲ生スルニ至ラサルナリ

本條ノ罪ノ刑ハ第百條ニ至リ之ヲ大ヒニ寬
ニ爲スナリ即チ其群衆中ニテ指揮役等ノ職
務ヲ行ハス官吏ノ叱責ニ仍リ其黨ヲ離脱
シタル者等ハ遂ニ其刑ヲ受ケサルコトナリ
然シ其者ニテ群衆ノ指揮ヲ爲サス又其他ノ

職務ヲモ勤メル時ニアラサレハ其刑ヲ宥ム
ル可カラサルナリ

第百九十二條第百條ニテハ大ヒニ及体セリ故
ニ第百九十二條ニ於テハ其群衆ヲ募集シタル
者ヲ極重キ刑ニテ罰スルナレバ第百條ニテ
ハ一旦其群衆ニ加ハリ之ヲ離脱シタル者ハ
其刑ヲ加ヘス只政府ノ監察ニ附ケルノミナ
リ

之ハ大ヒナル差違ナリ
第百條ニハ指揮役及ヒ或職務ヲ行フコトナ
クトアリ之ハ其刑ヲ受ケス然ラハ第百九十二
條ニ於テ死刑ニ処スヘキ者ノ其群衆ヲ募集
スル等ノ指揮役及職務ヲ行ヒタルモノト爲

スヘキヤトナレハ即チ其所以行ヒタルモ
ノト為スヘキナリ故ニ第百条ノ部類ヘハ入
レサルナリ

第百条ニ於テハ部衆中ニテ何事ヲモ為サ
ル者ナリ若シ之ヲ為シタルモノハ決シテ同
条中ニ入レテ論セス其刑ヲ宥ムルコトヲ得
サルナリ

故ニ前ニモ説キタル如ク其刑ノ平均ヲ得サ
ル時ハ一旦之ヲ為シタルカ又ハ之ヲ行ヒタ
ル者ニテハ半途ニ中止スルコトナリ必ス仕
遂ケント為スヘキノ患ヒアリ

第百九十三條

本条ハ前条ト稍同様ノコトナリ

然レ前條ニテ群衆ト云フハ烏合ノ衆ヲ集メ
其巨魁ニテ之ヲ指揮セシ等ノコトナリ

本條ハ政府ノ一軍一隊ヲ指揮シタル所ノモ
ノナリ其之ヲ指揮スヘキ正当ノ威權又其道
理ナキ時ニ於テ勝手ニ其兵隊等ヲ役使シタ
ルモノナリ

又或ハ元ト自分ノ引卒シタル兵隊等ヲ指揮
シテ内乱ヲ企テタルモノナリ
故ニ本条ヲ以テ前条ニ比スレハ其罪ノ事柄
重ク又其公益ヲ害スルコト多シト為ス

何トナレハ元ト自分ニテ引卒シタル一軍一
隊ヲ指揮スル時ハ其目的ノ事柄ヲ為シ易ク
且兵隊モ其麾下ニ居ルコトヲ熟シテ自ラ其

指揮ニ從ヒ易ク十分ニ暴動ヲ為シ得ヘキ状
ナリ故ニ公益ヲ害スルコト多シト為ス然ラ
ハ其刑ヲ前条ノ罪ヨリ重ク為シテ当然ナ
リ

然レ氏前条ノ罪ニ於テ己ニ極重キ刑ト為シ
タル故ニ本条ニテ之ヲ尚重ク為スノ刑ナキ
故ナリ

然レ本条ニ於テ注意スヘキコトアリ
之ハ一軍一隊或ハ船隊ヲ引卒シ港口へ襲ヒ
来リタリトモ未タ砲ヲ為シタルコトナク
只其豫備ノ所ヲ十分ニ為シタルモノナ
リ

然レ氏其刑ニ於テハ己ニ砲ヲ為シ全ク内

乱ヲ起シタルモノト均トシテ死刑ト為

セリ

之モ矢張己ニ砲ヲセシ者ト未タ砲ヲセサル
者ト同一ニ論シタルモノナリ

故ニ其豫備ノ所ヲ為而已ニテ砲ヲモ為サス
中止スヘキ者モ其同一ノ刑タルヲ以テ遂ニ
仕遂レト為スヘキコトアルヘシ

第九十二條ニハ正當ノ威權アル者ノ命令又
ハ其允許ナク云々トノミアリテ其者ノ犯シ
タル事柄ハ何事ナリヤト云フコトヲ記セス
然ラハ矢張第九十一條ノ事柄ヲ目的ニ為シ
タルコトナリヤ

第九十二條ハ兵卒ニテ常ニ兵隊等ヲ指揮シ

得へキモノニアラス

然ラハ兵卒ニテ大将ノ真似ヲ为シタルコト
ニモセヨ其目的ト为ス所ノ争柄ハ何事ナル
ヤ分明ナラス

矢張内乱ヲ起サンカ为メナルヘシ

第九十二條ハ烏合ノ衆ヲ募集シタルコトア

リ

第九十三條ハ現在ノ兵隊ヲ召集シタルモノ
ナリ故ニ公益ヲ害スルコト多シト为ス

詰リ本条ハ犯サントセシ所行ト見做シ而シ
テ其犯シ遂ケタルコト、同様ニ重ク为シタ
ルモノナリ

刑法ノ一体ニ於テ論スル時ハ第二條ニ「タン

タキ一コトヲ以テ重罪ト为スヘシト掲ケタル
誤リアルヨリ其以下ニ於テモ之ニ順シ自ラ
誤リヲ生シタルモノナリ

第九十三條ノ事柄モ「タンダキ一コト为スヘ
キヤ

然リ

第九十四條ハ前条ト少シ違ヒアリ

前条ハ兵隊中ノ者ニテ之ヲ指揮スヘキ正当

ノ威権ナキカ又ハ元ト指揮官ナレ氏現在其

職ヲ勤メサル者ナリ本条ハ現在ノ指揮官ニ

テ政府ノ新タニ兵ヲ徵募スル時ニ当リ之ヲ

妨ケタルモノナリ

此徵兵ノ妨ケヲ为サンコトシタル者ハ流刑ナ

司法省

又其妨ヲ為シ遂ケタル者ハ死刑ト為ストアリ尤之ハ以前死刑ト為シタル譯ニテ現今ハ城寨中流刑ト為スナリ之ヲ前条ニ比スレハ重ク為シタルモノナリ例ヘハ州郡中ニテ一揆ヲ起レタル者アリ之ヲ防禦スルニ常備兵アリト雖モ其外ニ徵兵ヲ要スル時其常備兵ノ指揮官ニテ其妨ケラ為シタルコトナリ反令一時其妨ケラ為ストモ遂ニ徵兵ヲ為シタル時ハ流刑ナリ此一体ノ事柄ヲ以テ他ノ罪ニ比スレハ其刑

ヲ甚ク重キニ失スルト考ヘリ何トナレハ未タ莫ニ内亂ヲ起スニ至ラスレテ其害モ亦少シト為ス故ナレハナリ故ニ立法官ハ能ク罪ノ輕重ヲ計リ其權衡ヲ以テ適當ニ同盛ヲ為シ刑法ヲ區別スヘキナリ例ヘハ斯ノ如キ罪ハ斯ノ如キ刑ニ處スヘシト為ストモ尚一層重キ罪アルヘシト考フル時ハ其重キ罪ノ為メニ其以下ノ罪ヲ輕キ刑ニ低減スヘキナリ故ニ刑法ヲ立ツルニハ其適當ノ同盛ヲ定メテ輕重ヲ區別スルヲ以テ肝要ト為スヘキナリ現今ハ佛國ニ於テ流刑ニ城寨中ノ流刑ト單一ノ流刑トニツマリ

又因獄、刑アリ之ハ五年ヨリ三十年ト為ス
故ニ一ト通り重キ罪ニ就テ極重キ刑ヲ用ユ
ル時ハ他ニ一層重キ罪アル者ニ向テ用ユヘ
キ刑ニ差支エルコトアルヘシ
例ヘハ爰ニ因獄ノ刑ニ處スヘキ罪アリ二十
年ノ刑期ト為スヘシト定メタリトモ尚之ヨ
リ重キ罪ヲ以テ二十年ノ刑期ト為サ、ルヘ
カラサル時ハ其己ニ定メタル罪ノ刑期ハ更
ニ改正セサル可カラサルナリ
本条ニ已レノ指揮スル兵ヲ云々トアリ之ハ
畢竟内乱ヲ起サンカ為メ其兵ヲ使役スルコ
トナリヤ
之ハ内乱ヲ起ス為メニアラス徴兵ノ始ケヲ

為サンカ為メナリ

然レ其目的ハ内乱ヲ起サンカ為メナルヘ
シ

然リ固ヨリ内乱ヲ起ス為メニ外ナラス何ト
ナレハ自分ノ重テ指揮スル所ノ兵隊ナレハ
自ラ其威權ヲ以テ指揮シ得ヘクモ新タ十
ル徴兵ハ其指揮ニ従ハサル者アルヘキ之ヲ
始ケタルモノナリ

敵師ノ見込ニ於テ就ヘキコトアリ

城寨中、流刑ト單一ノ流刑ト因獄ノ刑ト、
三ツアリ

單一ノ流刑ハ即チ無期ノ流刑ナリ故ニ此無
期ノ流刑ト因獄ノ刑ト、間ニ更ニ一刑ヲ加

ハ有期、流刑ヲ立ツヘキナリ然ル時ハ死刑
ヲ令セテ五ツノ刑ト爲ル其五ツノ刑ノ内ニ
テ權衡ヲ立ツル時ハ其輕重ノ目盛ニ於テ適
當ヲ得ヘキナリ

故ニ例ヘハ其五ツノ刑ノ内ヲ以テ國事犯ニ用
エヘシト爲ス時ハ第六ハ追放ノ刑ヲ立ツヘ
キナリ之ハ各國何レニテモ用ユル所ノ刑ナ
リ第セハ禁錮ノ刑ヲ立ツヘキナリ之ヲ以テ
輕罪ノ部類ト爲ス時ハ即チ其國事犯中最モ
輕キ罪ヲ以テ此輕罪ノ禁錮ニ處スヘキナリ
然ラハ國事犯ヲ罰スル刑ハ七ツト爲ルナリ
故ニ此七ツノ刑ノ内ニテ其罪ノ權衡ヲ爲ス
時ハ必ス十分ノ適當ヲ得ヘキナリ

追放ノ刑ヲ立ツルコトハ萬ト考究アルヘキ
コトナレトモ教師ニ於テハ極良法ト考ヘリ
例ヘハ新聞紙ニテ人心ヲ動搖セシムル等ノ
極輕キ國事犯ノ罪ヲ以テ追放ニ處スヘキナ
リ

佛國杯ハ國ノ境界近キ故ニ追放ノ刑ヲ用ヒ
得ヘシト虽モ日本ニテハ近キ外國ハ支那ト
朝鮮トニ區キス仍テ外國ヘ追放スルコトハ
先ヅ行ハレ難シ

仏國ニテハ追放ノ刑ハ格別良法ニアラサル
トノ説モアリ何トナレハ隣國ノ入ルニツク
スヘキ等ヘ追放スルトモ時ニ寄佛國ノ國境
迄ハ其罪ヲ犯シタル惡徒ノ來リテ國民ノ

風習ヲ擾タスコトアリ然ルニ日本ニテハ支那朝鮮へ追放スレハ海路ヲ隔テタル地ナル故ニ日本ノ國境へハ容易ニ來ルコトヲ得サレ理ナリ然ラハ他國ニテ之ヲ用エルニ比スレハ日本ニテハ殊更之ヲ用エヘシト考ヘリ一傳國事犯ト云フモノハ自國ニテハ幾部分カノ惡事ニ當リ其罪ヲ犯シタル者ナレハ之ハ自國限りノ惡事ニシテ外國ニテハ其害ヲ受ケルコトナシ固ヨリ其國々ノ政體ニ仍リ其罪ノ有無ニ異ルコトアルモノナレハナリ若シ其追放シタル國ニテ惡事ヲ為シタル時ハ又之ヲ其國ヨリ他ノ國へ放逐スヘキナリ故ニ追放ノ刑ヲ立ツルト立テサルトハ驚ト

考究セサル可カラス

立法官ハ其刑ノ輕重ノ等級ヲ以テ其罪ノ輕重ニ割付ルコトヲ以テ肝要ナリト為ス又酌量輕減ヲ為ス時ニ於テモ其刑ハ數等ニ分チタル方最便利ナリト為ス且ツ輕キ罪ヨリ重キ罪ニ溯リテ順次ヲ立ツルニモ便利ナリモノナリ

教師ノ説ハ總テ熟考スヘキナリ

第九十五條

本條ハ政府ニ屬スル建物倉庫兵器製造所等ヲ焚毀シ又ハ毀損シタルモノナリ之ハ第九十六條ノ政府ニ屬スル所ノ倉庫兵器製造所等ヲ盜奪シタルモノト同シク死刑

司
法
官

ナリ其之ヲ同シク死刑ト為スハ是亦道理ニ
適セサルナリ何トナレハ倉庫兵器製造所等
ヲ盜奪シタル而已ナレハ政府ヨリ再ヒ之ヲ
取返スコトヲ得ヘシト虽モ己ニ焚毀シタル
時ハ取返スコト能ハサル故ニ其害ヲ為スコ
ト大ヒナリト為ス然ラハ之ヲ同様ノ罪ニ論
シテ死刑ト為スハ不適當ト云ハサル可カラ
サルナリ

故ニ本条ノ如ク盜奪シタルノミノ者ヲ焚毀
シタルモノト同シク死刑ト為ス時ハ矢張仮
令ヒ其盜奪シタルノミニテ中止スヘキ者ト
虽モ遂ニ之ヲ焚毀スヘシト為シ其惡事ヲ為
シ遂クルニ至ルノ患ヒアリ

仏國ノ刑法ニ於テハ斯ノ如キ不整肅ノコト
少ナカラズ日本ニテハ幸ヒ刑法ノ改正セン
トスル時ナレハ殊更ニ注意アラントコトヲ要
スルナリ

後第八節

刑法會議筆記

九年二月十五日

第九十六條

本條ハ各方宜シカラス 仏国人ニテハ格別解
シ誤ルノ患ヒアラントス

群衆ノ首ト为リ云々ノコトヲ末文ニ置ケルナ
レ氏之ハ前文ニ置ク一キコトナリ何トナレ
ハ群衆ノ首ト为リ云々指揮役トナリタル者
ニテ何事ヲ为ヤントセシナレハ即チ前文ノ
政府ニ属スル領地財産金額等ヲ強奪セント
為シタルモノナレハナリ故ニ此文章ニ前後
ノ倒置アリト为ス

本条モ夫張國事施ノ一種ナレ氏前教ケ條ニ

比スレハ其國事犯ノ性質ハ稍薄キモノト為ス

前數ヶ条ノ事柄ハ多ク國ノ政体ヲ一變セント為シタルコトナリ

然レニ本条ノ事柄ハ盜奪ノ罪ナリト為ス即チ人民ニテ政府ノ財産金額等ヲ盜奪セントスルコトナリ故ニ國事犯ノ性質ハ稍薄キモノナリ

之ヲ本条ニハ死刑ニ處セラル可シトアレバ現今ハ城塞中ノ流刑ト為スナリ

之ヨリ以下第九十八条ノ罪ニ至リテ愈輕キ罪ナリ仍テ單一ノ流刑ト為スコトナリ即チ前ノ數条ニ記シタル群衆中ノ集會滅ニ於テ

逮捕ヲ受クルト雖モ其指揮役又ハ職務ヲ行ハサル場合ノモノナリ

第六十九条ニ於テハ前數条ノ者ニ家屋又ハ隱匿ハ地ヲ貸與ヘタルモノナリ之ハ殊ニ通常ノ罪ト為シ有期ノ徒刑ニ處スルナリ

故ニ此法律ニ於テハ國事犯ト通常ノ罪トノ區別ニ於テ判然ト為ナルニ滅マリト曾テ云ヒタルコトアリ之即チ其一証ナリ

前數ヶ条ハ然テ國事犯ヲ以テ罰スルコトナレバ本条ニ至テハ全ク通常ノ罪ト為シタルモノナリ

人民中ニテ七八人モ同意シ政府ノ金庫等ヲ破リ金額ヲ盜奪セントノ目的ニテ其罪ヲ犯

破リ金額ヲ盜奪セントノ目的ニテ其罪ヲ犯

シタル時ハ強テ国事犯トハ為シ難シ政府ノ
金額ヲ盗奪シ夫レヲ以テ兵隊ヲ召集セシメ
ントスル等ノ時ハ或ハ国事犯ト為スヘシト
虽モ只其金額ヲ盗奪セントスルノミノ目的
ナリ時ハ国事犯トハ為シ難ク通常ノ罪ト為
スヘキナリ

内乱ノ起リタル時ニ乘レ政府ノ金額ヲ盗奪
スル等ノコトハ佛国ニテモ屢アリタルコト
ナリ

現今有名ナル談アリ先頃佛国内乱ノ時ニ
於テ巴里ヨリ「リヲン」一金穀等ヲ運送スル場
合ニ當リシヲ途中ニ要襲シテ盗奪シタルモ
アリ

故ニ此等ノコトハ内乱ノ時ニ於テハ屢アル
コトハ為スナリ

例ハハ日本ニテ上海ヨリ地金ヲ取寄セ四川
沖ノ陸上クヲ為シタル時ニ於テ賊徒ノ黨典
ニテ其地金ヲ盗奪シタル等ノコトヲ云ヘキ
ナリ

斯ノ如キ罪犯ハ国事犯トハ為シ難シ故ニ通
常ノ罪ト為スヘキナリ

然レ政府ニ属スル所ノ金額等ヲ盗奪シタル
時ハ其賊徒ノ本意ノ如何ヲ弁知スヘキナリ
例ハハ政府ノ米倉ヲ毀テ米穀ヲ盗奪シタル
之ハ政府ヨリ新タニ税法ヲ改革シタル時ニ
方テ其税法ノ酷ナルカ故ニ人民一般ノ困苦

ヲ救ハシカ為メ其米穀ヲ盗奪シタルモノナ
リ然レハ全ク一己ノ私欲ノ為メニアラス故ニ
国事犯ノ性質アルモノト為ス此盗奪ノ罪ニ於
テハ斯ノ如キ場合モアルヘキニ付其本意ノ如
何ヲ能ク弁知スルヲ以テ肝要ナリト為ス
公国ニテ以前饑饉アリタル時或米屋ニテ米
穀ヲ圍ヒ置キタリ之ハ其饑饉ニ乘シ他
ノ者ノ難儀ヲ顧ミス一己ノ私利ヲ計リタ
ルモノナリ故ニ其米屋ヘ侵シ入り米穀ヲ奪
ヒ取ル等種々ノ乱妨ヲ為シタル者アリ
之ハ其米穀ヲ奪ヒ取り自分ノミノ利益ト為
サントスルノ本意ニアラス全ク其饑饉ニテ
衆人ノ難儀スルコトヲ救ハシカ為メニ此乱

妨ヲ為シタルモノナリ尤

此乱妨ヲ為シタルコトハ固ヨリ好キ事ニハ
アラサレモ衆人ノ難儀ヲ救ハシカ為メナル
故ニ尋常ノ盗罪トハ為シ難ク矢張国事犯ト
為スナリ

故ニ政府ノ金穀ト人民ノ金穀トヲ盗奪シタ
ルニ拘ハラハ自分ノミノ利益ト為サントノ
目的ナレハ通常ノ罪ト為サレモ全ク其目
的ニアラサル時ハ仮令前ノ如キ乱妨ノ挙動
ヲ為シタリトモ少シク之ヲ恕^罪レテ国事犯ト
為スヘキナリ

故ニ此等ノ実行ニ就テハ只其本心ノ如何ヲ
審判シテ国事犯ト通常ノ罪トノ區別ニ立テ

ナル可カラサルナリ

日本ニテハ未タ國事犯ニ死刑ヲ用エルコトハ
廢スルニ至ラサルヘシ

刑法ノ全体上ヨリシテ論スルニ其最重キ罪
ヲ以テ死刑ト為ス場合ニ於テハ通常ノ罪ト
國事犯トノ區別ナシトモ可ナリ

然レモ其重キ罪ノ内ヨリ酌量輕減ヲ為ス場
合ニ於テハ其罪ノ原因ヲ明カニシ通常ノ罪
ト國事犯トノ區別ヲ分チ其順序ノ本源ヲ定
メサル可カラサルナリ

第九十六條ノ第一項ハ其群眾ヲ指揮シ又ハ
其職務ヲ行ヒテ直チニ其兇行ヲ為シタルモ
ナリ

第二項ハ直ニ其兇行ヲ為シタルモノニアラ
ス群眾ヲ煽動シ又ハ其ノ指揮ヲ為シタル者
ト交通シタルコトナリ

第二項ハ第一項ト同シク死刑ニ處セラルハ
トアリ尤之モ以前ノ法律ニテ現今ハ此死刑
ヲ廢セリ仍テ之ヲ詳説スルトモ格別ノ便益
ニハアラサレモ聊カ参考ノ為メ説クヘキコ
トアリ

以前本條ニテ死刑ニ處シタル時ハ其死刑ニ
處シタル上尙別ニ家産ヲ沒收スルノ法律アリ
タリ

故ニ原條ニハ第二項ニ於テ死刑ト記セスシ
テ前條ト同刑ニ處スヘシト為シ此同刑ノ字

ヲ復稱ニテ記セリ之ハ全ク死刑ニ処シタル
上尚家産ヲ没収スルコト、ノニツ刑ヲ含メ
ル故ナリ

第一項ハ全クコソシテノコトナリ故ニ其
群衆ヲ募集スル為メ兵器等ヲ給与シ
又ハ其用意ヲ為スコトニテ昂テ事前ノ附従
ナリ

仍テ本条ノ事柄ニ付テハ別ニ正条ヲ立テ斯
ノ如ク明文ヲ記スルニ及ハサルモノナリト
ス

何トナレハ附従ノ罪ノ性質ハ之ヲ記シタル
正条アリ故ニ其正条ニ於テ已ニ十分ニ其方
法ヲ示セリ然ラバ此第一項ニ於テ又更ニ之

ヲ記スルニ及ハサルモノト為スナリ
一体事前ノ附従ハ固ヨリ主犯ト同刑ニ処ス
ハキモノナレハナリ

尤若シ本条ノ罪ニ限り主犯ト同刑ニ処セサ
ル時ハ之ヲ以テ別ニ正条ヲ立ツルトモ不可
ナキナレバ此亦ニテハ別段同刑ニ処セサル
ト云フ記ニモアラサル故ナリ

第九十七条

本条ニ記スル第八十六条第八十七条ト云ハ
皇帝及ヒ政府ニ對シタル罪ナリ第九十一条
ト云ハ内乱ヲ起サントスルノ罪ナリ

此三ヶ条ニ記シタル重罪ノ一箇又ハ殺害ヲ
目的ト為シタル時ハ其已ニ行ヒタルト行ハ

ント試ミタルトヲ論セス均トシク死刑ト為
スナリ尤未タシヲ行ハサル以前ノ者ハ大ニ
ニ差別アリト雖モ本条ニ於テハ其事柄ニ付
裁部分カノコトハ已ニ為シ掛ケタルモノナ
リ
第一項ニテ死刑ト為スハ必スニツノコトヲ
具セサレハ死刑ト為ス可ヤラサルナリ
何トナレハ必ス前ニ記シタル三ヶ条ノ罪ノ
内ノ一ツヲ犯シタルト又其犯シタル場次ニ
テ逮捕セラレタル時ニ限ルヘキナリ
故ニ若シ此ニツノコトヲ具セサル時ハ死刑
ニ処セサルヘキナリ
第二項ハ羣衆中ニテ指揮役或ヒハ其職務ヲ

行ヒタルモノナリト為スシハ其集會ノ場次
ノ外ニ於テ逮捕セラレタリトモ死刑ニ処セ
ラルヘナリ
尤其群衆中ニテ只一通ル黨典ニ入りタルノ
ミノ者ハ余程差別アルヘキナリ
爰ニ一言説クヘキコトアリ
第一項ニ集會セシ場所ニテ逮捕ヲ受ケシ者
云々トアリ
其場合ニテ逮捕シタル者ハ固ヨリ其罪アル
ノ証拠ヲ取ル為メニハ確實ナレバ其場次ト
其場次ニアラサルトニ於テ逮捕シタル者ニ就
キ其罪ノ有無ヲ定ムル原因ニ差別ヲ為スハ
不都合ナリト考ヘリ

若シシテ全ク其罪アル者ト為ス時ハ必ラス
其場次ニテ逮捕シタルニ限ラサルハシ故ニ
仮令ニ其他ノ場次ニテ逮捕シタル者ナリト
モ真ニ其罪アルモノハ之ヲ省ルス可カラサ
ルナリ

故ニ本条ノ第一項ハ其罪ノ証拠ヲ取ルコト、
其罪ノ有無ヲ定ルル原因ヲ并知スルコト、
混淆シタルモノナリ

尤現行ノ犯罪ト不現行ノ犯罪トハ其差違ア
ルコトハ勿論ナリ即チ

現行ノ犯罪ハ重ク不現行ノ犯罪ハ輕シトノ
差アル訳ナリ

仍テ集會セシ場次ニテ逮捕シタル時ハ現行

ノ犯罪ト為スヘキモノナリ故ニ其逮捕シタ
ルモノハ斯ノ如キ罪ト為ストノ定メヲ立テ
タルモノナリヘキナリ

又一言説クヘキコトアリ

罪ノ輕重ヲ定ムルニハ他ノ尺度ノ如ク一定
ノ定規ヲ以テシテ商量スヘキモノナシ故ニ
只其輕キ罪ヨリ重キ罪ニ至ルノ權衡ヲ比較
シ此罪ハ彼罪ヨリ重ク彼ノ罪ハ此罪ヨリ輕
シトノ輕重ノ目盛ヲ定メ各其正条ヲ立テ之
ヲ以テ道理ニ外レサル様ニ制定スヘキナ
リ

本条ノ如ク道理ニ外レサル様ニ制定スル時
ハ仮令實際ニ於テ或ハ其罪ヲ重ク為スコ

トアルトモ他ノ者ヨリ之ニ喙ヲ容ルコトヲ
得サルナリ

第九十八條

本条ニ記スル所ハ第八十六條第八十七條第九十一條等ニ記シタル云々ノコトニアラサル時トアリ

故ニ此ニケテ条ニアル外ノ罪ノ外ノ罪ニテ即チ第九十二條ヨリ第九十六條迄ノ罪ヲ犯シタル場合ニ於テハ其集會セシ場ノ外ニ逮捕シタリトモ之ヲ輕キ刑ト爲シ流刑ニ処セタルヘシトアリ

本条ハ天張現行ノ犯罪ナレバ其黨与中指揮役又ハ或職務ヲ行ハス只其黨与ニ加ハリタルノミノモノナリ故ニ單一ノ流刑ト爲スナリ

之ハ固ヨリ現行ノ犯罪ナレバ全ク其指揮役等何事モ爲ササル時ナリ故ニ大ヒニ輕ク爲シタルモノナリ

此等ノ者ニテ若シ其集會セシ場ノ外ニ於テ逮捕セラレタル時ハ第九十條ニアル如ク全ク之ヲ免ルシテ罪ナキモノト爲スナリ

第九十條ニ於テハ其集會セシ場ノ外ニ於テ逮捕セラレタル時ハ裁部分カノ罪アリト爲スハケレバ其場ノ外ナレバ全ク罪ナシト爲スヘシトノ旨意ナリ

故ニ第九十條ハ能ク其全文ノ旨意ヲ注意シテ

者ルハキナリ

即チ其指揮役及ヒ或ハ職務ヲ行フコトナク
云々トヤリ之ハ官吏ノ叱責ニ仍リ直チニ其
黨ヲ離脱シタルモノ又ハ一時之ニ抵抗シタ
リトモ其後本心ヨリ悔悟シタルモノナリ此
等ノ者ノ其集會セシ場所外ニ於テ逮捕セ
ラレタル時ハ其刑ヲ受クルコトナシト為
ス

若シ之ニ抵抗シタル者ハ固ヨリ其罪アルハ
キナレトモ本条ニアル买ノモノハ全ク一時ハ
抵抗ニテ其後官吏ノ叱責ヲ顧ミ本心ヨリ悔
悟シタル者ナリトス

然シ其黨中ニ加ハリタル時間ニ於テ盗罪

等他ノ重罪ヲ犯シタル時ハ夫夫ケノ罪ヲ罰
シ別ニ相当ノ刑ニ處スヘキナリ

故ニ其全ク他ノ重罪ヲ犯シタルヤ否ヤハ審
判セサル可カラズ若シ之ヲ犯シタル時ハ決
シテ夫夫ケノ刑ヲ免ルスコトナシトス

又令ヒ直チニ其黨ヲ離脱シタリトモ若シ其
黨ニ属シタル罪ニアラサル他ノ重罪ヲ犯シ
タル時ハ第二項ノ如ク罰セサル可カラサル
ナリ

成ル程第二項ニ自ラ行ヒタル重罪ト云フハ
本条ニテ主ト為ス买ノ罪ニアラス全ク異リ
タル重罪ヲ犯シタルコトナシトス

然リ盗罪又ハ火付等ノ重罪ヲ犯シタルコト

ヲ云フナリ

場外ニテ逮捕セラレタル者ハ其刑ヲ受
クルコトナシト云フハ畢竟第九十九条ノ集
會ニテ貸与ヘタルコト、違ヒ脅迫ニ仍リ已
ムヲ得ス其黨ニ加ハリタルモ知ル可ナラス
故ニ其罪ヲ免スヘシト為シタル詎ナシ
右ノ如クニモ解シ得ヘキナレバ教師ニ於テ
ハ否ルト考ヘリ

第六十四条ニ脅迫ニ仍テ犯シタル罪ノコト
ヲ記セリ

故ニ脅迫ノ為メナシ時ハ仮令其場外ニ居
リ逮捕ヲ受ケタリトモ別ニ其刑ヲ受ルコト
ナキ若キナリ

巴里ノ内乱ノ時ニ於テモ不和隨行ヲ為シタ
ル者少カラサリシナレバ之レハ其脅迫ノ情
状ヲ言立タルニ仍リ何レモ其刑ヲ免サレタ
リ

指揮役又ハ其職務ヲ行ヒタルニアラス何事
モ為サスレテ只其場所ニ踞蹕シタルモノハ
如何

之ハ第九十八条ニ仍テ処スヘキナリ
其本心ニアラス脅迫ニ仍リタルトコトハ
必ス其証拠ヲ分明ニ立テシムヘキナリ
然レ其証拠ヲ分明ニ立テシムルコトハ實際
ニ於テハ甚々難キコトナリトス
何トナレハ内乱ニテ戦争ノ治マリタル後ニ

於テハ何レモ其罪ヲ免レンカ爲ソ脅迫ニ仍
リ巴ロヲ得ス其黨ニ加ハリタリト云フ者多
シ然シ其内ニハ真ニ其脅迫セラレタレ者モ
アルハキナリト雖モ其証拠ヲ立ツルコトハ
甚ク難シトス

内乱等非常ノ場合ニ於テハ其犯罪人ハ速ニ
処断スヘキコトナリ仍テ巴里杯ニテモソシ
逮捕シタル時ハ直ニ処断セリ故ニ其内ニハ
直ニ脅迫セラレタル者ニテ死刑ト爲リタル
モノモ多クアリタルヘシ

巴里ノ内乱ノ時ハ戰場ニテ團ヲ受ケタル時
ト同様ノ布告アリタリ

何ラ其黨ノ若ハ總テ陸軍裁判所ニテ裁判ヲ
爲セリ

其時ハ陸軍ノ大将ハ勿論士官等ハ皆何レモ
戦争ノ勝ニ乘シタル勢ヒノ者ノミナリ
其勝ニ乗シタル勢ヲ以テ其罪ヲ処断シタ
ルコト故自ラ無法ニ裁判ヲ爲シ速ニ其刑ヲ
行ヒタルコトモアルヘキナリ

第九十九条

本条ハ即チ附送ノ罪ナリ之ハ前数ヶ条ニ記
シタル徒黨ノ目的ハ斯ノ如ク又其情態ハ斯
ノ如クト云フコトヲ知リテ夫カ爲ソ集會所
ヲ貸与ヘタルモノナリ

之ハ有期ノ徒刑ト爲ヌナリ
本条ニ威迫ニ仍ラヌシテトアリ

言 法 省
一体威迫ニ仍ラスシテト云フコトハ本条ニ
限ルヘキニアラス若シ本条ニ限ルヘシト為
セハ前数ヶ条ノ罪ハ總テ威迫ニ仍リタルコ
ト、為サ、ル可カラス
之ヲ威迫ニ仍リタリト為ス時ハ引キ連レタ
ル兵卒等ハ遂ニ其黨ヲ去ル能ハス長キ時日
ノ間絶ヘス威迫ヲ受ケタルモノト為スヘキ
ナリ斯ノ如キコトハ決シテナキ道理ナリ
故ニ兵卒等ハ到底威迫ニテハ引キ連レ難キ
モノナリト為ス
然レ氏本条ニアル兵ノ集會兵ヲ變与ヘンコ
トハ兵隊等多人数ニテ威迫セラレ已ラ得
サルコトアルヘキモ計ル可ヤラス

故ニ其威迫ヲ受ケ易ク又之ヲ為シテ其事柄
ヲ遂ケ易キモノト為ス
仍テ本条ニ限リ威迫ニ仍ラヌ云々ノコトヲ
託シタルモノナリ
本条ト第六十一条トヲ照シテ看ルヘキナ
リ
第六十一条ニ国ノ安寧ノ公ケノ靜謐ニ関ス
ル云々ノコトハ其附従ト為シテ罪スヘシト
アリ
即チ主犯ト同罪ト為スナリ然ルニ本条ニ於
テハ主犯ト同シクセス之ヲ有朝ノ徒刑ト為
スナリ
故ニ本条ニ於テハ全ク一体ノ原則ト違ヒ別

同 法 省

格ニ為シタルモノナリ
 第六十一条ト第九十九条トニ於テ如何ナル
 違ヒアリヤトナレハ第六十一条ニハ常ニ貸
 与シタルトアリ
 之ハ一二度等暫時ノコトニアラヌ引続キテ
 屢貸与シタルモノナリ
 第九十九条ニハ常ニト云字ナシ故ニ之ハ全
 ク本意ニ暫時貸与シタルモノナリ
 仍テ常ニト云フ字ノ有無ニ寄リ斯ノ如キ違
 ヒアレテ誤ケナリ
 然レ其附従タルニハ相違ナカルヘシ
 第九十九条ノ罪モ附従ニハ相違ナシ然レ既
 全ク其不意ニ為シタルコトナリ

然レ固ヨリ脅迫セラレタルニアラサル以上
 ハ附従ト為スヘキナリ
 然ラハ之ヲ別格ノ刑ト為スハ全ク法律中ノ
 取除ケナルヘシ
 然リ
 第百条中ノコトニ付説キ遺コレタルコトア
 リ仍テ尚説レントス
 但以下ニ於テ五年ヨリ少カラヌ十年ヨリ少
 カラサル時間政府ノ監察ヲ受ケシムヘシト
 アリ
 之ハ前項ニ記シタル者ニテ其刑ヲ受クルコ
 トナシト虽モ只其政府ノ監察ノミハ受ケシ
 ムルヲ得一キニ仍リ其期限ヲ定メタルモノ

ナリ

然レ但以下ノ兵ニ政府ノ監察ヲ受ケシムル
ヲ得ベシトアル故ニ必ズ之ヲ附ケ置クヘシ
ト云フニアラス全ク便利法ナリトス

故ニ此監察ヲ受ケシムルヲ得ヘシトコト
ハ前項ニ連続ス一キ文意ニテ「此場合ニ於テ
ハ犯人其自ラ行ヒタル重罪ノミニ付罰ヲ受
クヘシト云兵ニ連接シテ解マヘキコトニア
ラス

故ニ此末項ノ書法宜シカラヌト為ス本条ノ
主意ハ即チ刑ヲ受ケルコトナカルヘシ然レ
氏五年ヨリ少カラヌ十年ヨリ多カラサレ時
間政府ノ監察ヲ受ケシムルヲ得ヘシト云フ

コトナリ

若シ本条ノ外ノ重罪ヲ犯シタル場合ニ於テ
ハ別ニ夫レ文ケ罪ヲ以テ論スヘキニ付即チ
一生ノ間ノ監察ヲ受ケシムヘキナリ
他國ノ文法ニ於テハ斯ノ如キ各キ方ニテモ
解シ誤ルコトナシト云モ先ツ注意シテ看ル
ヘキコトナリ

第百一条

本条ハ何等ノ物ヲ兵器ト称スルヤノ註釈ヲ
為シタルモノナリ何トナレハ第百条ニ兵器
ヲ弄スルコトナシト云ヒトアリ

故ニ其兵器ト云フ字ヲ註釈シタルモノナ
リ

刑法ニ於テハ兵器トハ如何ナル物ト云フコ
トヲ弁知シ置クヘキナリ
兵器ト云フ内ニハ種々ノ差別アリ故ニ大抵
其種類ヲ分ケテ記シ置クヘキナリ
尤其種類ニ均ハラス人ヲ切り人ヲ突キ人ヲ
打ツ等總テ殺傷レ得ヘキモノハ兵器ト云フ
ヘキナリ

日本ニテハ録又ハ「ホリス」ノ條一々ノ棒杯モ
兵器ノ部類ニ屬スヘキナリ
銃炮及ヒ銃類ハ勿論棒杯ト云フモ總テ兵
器ト云フヘキナリ
尤棒杯一概ニ兵器ト云フ可カラサレモ之ヲ
以テ人ノ頭腦ヲ撃ツ時ハ果シテ撃チ殺シ得

ヘキニ付即チ兵器ト云フヘキナリ
通常ノ杖ハ兵器ノ内ニアラサレモ其杖ノ中
ニ銃ヲ仕込モタル時ハ夫張兵器ト云フヘキ
ナリ
尤其銃ヲ仕込マサル杖ト云フ以テ人ヲ
撃チ殺シタル時ハ兵器ト云フヲ得ヘシ
又小ナキ小刀銃尋常ノ杖ニテモ兵器トハ為
サレモ之ヲ以テ人ヲ殺シタル時ハ兵器ト
云フヘキナリ
然ラハ本条中ニテ「杖」ト云フ字ノ内ニ其兵
器ト云フヘキト云フヘカラサルトノ區別ア
ル意味ヲ寓スルナリ故ニ其人ヲ殺シ又
ハ国傷シタル時ハ全ク之ヲ兵器ト見做スヘ

同法

キナルヤ

然り尤。為メ云。ト云フハ。宜シカラス。之ヲ用
ヒ。知ん。時ハ。兵益ト見做ス。ヘシト記ス。ヘキナ
リ

本条ノ第一項ニ記スル所ノモノハ。只之ヲ
持シタルノミニテモ。兵益ト云フコトヲ得
レ

第一項ニ記スル所ノモノハ。人ヲ殺シ又ハ
傷シタル上ニアラサレハ。其兵益タルノ名目
ヲ下ス可カラサルモノナリ

是迄ハ第一種類ノ國事犯ノコトヲ説キタリ

同法省

同法省

後第九號

刑法會議筆記

九年二月二十五日

司法部

司法部

九年二月五日

第百二條

本条ハ已ニ廢シタリ然レ此處ノ箇条ハ何事
 ヲ記セシモノナリヤトナレハ新聞紙又ハコ
 スタールニ即チ演說ニテ人民ノ煽動セシモノ
 、刑ヲ記セリ
 此等ノ事ハ畢竟一揆ヲ起スノコトニ附テ從リ
 ナリトシテ罰スルモノナリ
 本条ノ廢シタル以後千八百十九年ニ至リ其
 代リノ条件ヲ立テタリ
 其代リノ条件ハ旧ノ本条ヨリ其方法ヲ増加
 シテ詳密ニ為レタリ

司法省

即チ「シス^演リ^説ル」又ハ書キ物凶畫詭物等ニテ
改事上ヲ誹謗スルノ意ヲ寓シ之ヲ賣買シ又
ハ衆人ニ分与スルカ或ハ公ケノ仄ニ張出ス
等ノゴトハ昂チ總テ一揆ヲ起スノ重軽罪ヲ
煽動スルモノナリ其之ヲ煽動スル者ハ附從
ノ罪ト為スナリ

其代リノ條件ハ只其方法ノ詳密ニ為シタル
ノミニテ之ヲ罰スル刑法上ニ於テ輕重ノ異
ナルコトアラサルヤ

附從ノ罪ハ第五十九条ニアル原則ノ如ク主
犯ト同一ノ刑ト為スナリ故ニ別ニ其重軽ノ
異ナルコトナシ
通常ハ出板ノ「^輕罪」ト云ハレ氏共一揆ヲ

煽動スルコトニ付テハ「^輕罪」ノミナラス重
罪^罪又ハ陰謀^謀ヲモ罰スルコト、為スナリ

テリ「^ト」ハ出板ノコトノミナラス一般ノ事
ニ付テノ罪ト云フ字ナリ

故ニ出板ノ「^{テリ}」トハ一揆ヲ煽動スル主意
ヲ公ケニ出板又ハ演舌等ニテ之ヲ衆人ニ知
ラシメタル罪ヲ云フナリ

出板ノ「^{テリ}」又ハ出板ノ條例ヲ犯シ又ハ其
他ノ條例ヲ犯シタル罪ト云フコトナリ

出板條例ハ追々改正アリテ都合十度モ變易
セリ然レ一度ノ新法ヲ出ス毎ニ其始ノ法
ヲ廢セシカトナレハ否ラス前後ノ法ヲ相互
ニ牽連シテ用ニ一キコト、為セリ

今日ハ其一度毎ノ法ヲ其任用ニル能ハス故
ニ佛国ニハ出板條例ノ独立ニテ行ハル可
キモノナシトス

此時鶴田公ヨリ出板條例ノ及款唇ヲ出シテ
示サレタリ

第百三条ヨリ第百七条迄モ矢張之ヲ廢セリ
然レ別ニ其代リノ条件ハ立テサルナリ
此舊トノ条件ハ一揆等ノ起サントノゴトヲ
犯スト虽モ之ヲ自首スレハ其罪ヲ免ル可シ
トノゴトナリ又之ヲ自首シタルノミニテ其
低出テサル時ハ如何ト為ス可シトノゴトヲ
記シタルモノナリ
夫レハ自首シタル後ニテ逃亡シタル者ナリ

自首シテ二十四時ニ出テサル時ハ如何ト為
ス可キ等ノゴトヲ記シタルモノナリ
旧トノ第百三条ハ他ノ者ノ一揆ヲ起スゴト
ヲ見聞シテ其後ニ黙止シ訴出テサル時ハ罰
セラレタルナリ然レ現今ハ之ヲ廢セリ
治罪法第百三十条ニ何人ニ限ラス公ケノ安寧
ヲ害シ又ハ人命或ハ所有物ヲ害スル罪犯ツ
目撃シタル者ハ検事ニ報知ス可シトアリ
故ニ以前ハ之ヲ報知セサル時ハ罰セラレタ
ルモノナレ氏現今ハ仮令報知セサルトモ別
ニ罰セララハコトナキナリ
何故ニ之ヲ報知セサルモノヲ罰セサルコト
ニ改メタリヤトナルニ其者ノ性来ニ依リ臆

病ナル者ハ仮令ヒ之ヲ報知スヘシト思フト
モ其犯人ヨリ敵視セラレ他日其怨ヲ復セラ
レンゴトヲ怯レ遂ニ報知セサルモノアハ可シ
之ヲ強テ報知ス可シト云フハ人間社會ノ道
理ニ悖ルモノナリ
一人一己ノ情義上ヨリ論スレハ固ヨリ報知
ス可キコトナレモ人間社會ノ道理上ヨリ論
スレハ一己ノ身ヲ以テ衆人ニ敵視セラレ可
キ危險ナルコトヲ侵カシテ一般ノ人民ノ危
険ナルコトヲ救フ可キモノニモアラサル故
ナリ
其者ノ勇氣ナキコトハ固ヨリ言フ須クサレ
記ナレモ自分ノ身ヲ危クシテ殊更ニ勇氣ヲ

出スニモ及ハサル誤ナリ
然レ官吏ニ於テ其犯罪ヲ企テタルゴトヲ見
聞シタル時ハ固ヨリ之ヲ報知セサル可カラ
サルナリ尤若シ之ヲ報知セサル時ハ如何ス
ヘキトノゴトハ刑法ニ明文ナキ故ニ刑法ニ
仍テハ罰セサルナレモ自ラ相當ノ罰ヲ受ク
可キナリ
例ハ其官ヲ免セラル、トカ又ハ終身官ナ
レハ外ニ相當ノ罰ヲ受ク可キナリ
此官吏ヲ罰スルコトニ付テハ大審院ニテ裁
判ス可キコト、為セリ
第百八條
本條ハ現今ニテモ尚存シテ廢セサルナリ

之ハ陰謀ニ同意セシ者ニテ即チ附従ノ罪ト
為ス可キモノナリ故ニ其附従ニテ相当ノ時
間中ニ其犯罪ノ事柄ヲ自首スル時ハ之ヲ賞
羨シテ其罪ヲ免スナリ

第百三条ノ舊トノ事柄ハ其陰謀ヲ知リタル
俟ニテ黙止シ訴ヘサル時ノコトナリ

本条ハ一旦其犯罪ニ同意セシ者ニテ之ヲ自首
シ又ハ其犯罪ヲ為サントスル他ノ者ヲ捕護
シタル時ナリ之ハ其罪ヲ免ス可キナリ

例ハハ名村ト「ボアソナ」ト相談シテ其陰
謀ハ已ニ成リタリ然シ未タ其一揆ヲ起ス可
キ手續ヲ施サ、ル以前ニ於テ「ボアソナ」ト
ヨリ其陰謀ノ裏ヲ切リテ為シ之ヲ訴ヘタリ

其時ニハ「ボアソナ」ト「ボアソナ」ト其訴ヘタルヲ賞羨
セラレ其罪ヲ免レサル可キナリ凡名村ハ其
罪ニテ罰セラ、ル可キナリ

然シ其手續ヲ實地ニ就テ施シタル時ハ之ヲ
自首スルトモ已ニ遅ク其機會ヲ失セルニ仍
リ其罪ヲ免ルスコトヲ得サルナリ

又例ハハ一揆ノ手續ヲ未タ施サ、ル内ナリ
トモ之ヲ司法省ニテ揆知シ其黨ノ者ヲ捕護
シ裁判ニ着手シ始メタル時ニ至テハ假令ヒ
ボアソナ「ボアソナ」ヨリ我ハ何某ノ一揆ノ黨ニ入
リタリト自首スルトモ已ニ遅シト為ス故ニ
其自首ノ効アラサルナリ

然シ其黨ノ逃七シタルヲ知リ之ヲ「ボアソナ」

一ドヨリ訴へ出シ又ハ捕獲ノ助ケヲ為シタ
ル時ハ賞義ノ為メ其罪ヲ免レサル可キナリ
其一揆ノ手續ヲ始メタル時ハ已ニ遅シト為
ス然ラハ仮令本人ノ良心ヨリ悔悟シテ自
首スルトモ其罪ヲ免スコトヲ得サル詎ナリ
ヤ
然レ仮令モ自首スルトモ其効ヲ為サ、ルナ
リ
其一揆ヲ未タ始メサル時ハ仮令モ裁判吏ニ
テ検事等ノ訴ニ仍リシヲ捕護シタリトモ其
自首ノ効ハアル可キナリ
又其検事等ノ訴アリタリトモシテ自首シテ
其首従ヲ捕獲スルコトヲ助ケタル者ハ其罪

ヲ免ルヌ可キナリ
一体一揆ノ企ニテ其鬭争ヲ起サ、ル前ニ於
テ自首スル時ハ其公益ヲ害スヘキコトヲ防
キ得ヘシトモ其鬭争ヲ起シタル後ニ至リ
テハ已ニ其害ヲ為スコト多ク且衆人ハ勿論
政府ニテモ之ヲ目撃シタル上ニ付其時ハ自
首スルトモ何ノ用ヲ為サス故ニ其罪ヲ免サ
、ルナリ
自首ヲ以テ其罪ヲ免スハ畢竟人民一般ノ危
害ニ至ラサル為メ之ヲ防キ得シトスルノ主
意ナリ故ニ已ニ其鬭争ヲ起シタル上ハ其危
害ヲ防クコトヲ得サルニ付自首スルトモ其
罪ヲ免ルヌコトナシトス

自首ヲ以テ其罪ヲ免ルスコトハ味外ニモアリ即チ通貨ノ贋造ヲ為シタル者モ之ヲ自首スレバ其罪ヲ免ルスコシト為スナリ一旦其同類ニ加ワリ贋金ヲ製造シタリトモ未タシテ世間ニ遣ヒ出サ、ル内ニ自首ヲ為ス時ハ其罪ヲ免ルスコキナリ又官吏ニテ已ニ其何某ト言合セ贋金ヲ製造シタリトノ訴ヲ為シタリトモ矢張之ヲ遣ヒ出サ、ル内ニ自首スレバ即チ本条ト同シ手續ニテ全ク自首ノ廉ヲ以テ其罪ヲ免ルスコシト為ス之ハ第百三十八条ニアリ即チ第百八条ト同シク之ヲ自首シ又ハ之ヲ捕獲ス、ル時ハ其罪ヲ免ルスコシトアリ

此免ルスコト云フハ「エキスキースアツテニヤ」ニ「アラス」エキサンブルト云フ原語ニテ其罪ヲ全免スルコトナリ

エキスキースアツテニヤト云フハ其罪ヲ犯シタル状情ニ仍リテ其刑ヲ輕減スルコトナレバ「必死」ニテ「エキサンブル」云フハ之ヲ全免シテ尤トヨリ其罪ナキモノト為スコトナリ故ニ訳文ニ宥恕ト為スハ宜シカラス

第百八条ノ免ルスコト云フ原語モ同様ナリ然リ

此外ニモ自首ニ仍テ其罪ヲ免ルスコトアリヤ

曾テ説キタルコトアル如ク自首ニ仍テ其罪

同法

ヲ全免スルハ先ツ此ニツナリ

禁制品等ノ出板ヲ為シタル罪モ自首ニ仍テ免サレコトアラサルヤ

出板條例ノ罪ヲ犯シタル時ハ自首ニ仍テ其罪ヲ免ル可キ法アルノ理ナシ何トナレハ何某ハ箇様ナシ出板ヲ為サントスルト云ヒタリトモ未タシテ公ケニ出サレハ其罪アルモノト云ハス故ニ之ヲ自首スルトモ其罪ヲ免ルスノ法アル可キ理ナシ

假令出板スルトモ公ケニ之ヲ出サレハ固ヨリ出板條例ニ觸レタルモノトハ為サレハ苦ナリ

固ノ安寧ニ関スル罪ハ決心ノミニテモ罰ス

ル位ナル故ニ自首ノ効アル可キナレバ出板ハ只其決心ノミニテ罰スルコトヲ得ス

又之ヲ出板シテ公ケニ出シタル時ニ至テハ已ニ其機會ヲ失ヒ自首シタル効ヲ為サス然ラハ其之ヲ自首ス可キノ時アラス故ニ出板條例ニハ自首ヲ以テ其罪ヲ免ルスト云フコトナシ

一体出板條例ノミナラス普通ノ罪ニ於テハ自首ニ仍リ其罪ヲ免ルスコトナシ

何トナレハ普通ノ罪モ矢張決心而已ニテハ之ヲ罰セサル故ナリ

普通ノ罪ハ豫備ノ実行ニテモ之ヲ罰セサルナリ

然ラハ何レノ時ヲ以テ共罪ヲ罰ス可キノ合畧
ト為ストナレハ「タシタチ」以上ニテ之ヲ
罰スルナリ

故ニ只其豫備ノ可行而已ニテ罰スヘシトス
ル時ハ之ヲ罪アリト云フノ度ヲ誤リ早キニ
失セリト為ス

日本ニテモ殺傷等ノ人ニ傷害ヲ掛ケタルモノ
ハ自首ニテ其罪ヲ免スコトナシト雖モ其他
盜罪等ニ付テハ西政ト違ヒ其本人ニテ惡事
ヲ犯シタルコトヲ悔悟シ改心シテ自首スル
時ハ其罪ヲ免ルスナリ之ハ畢竟其改心シタ
ル廉ヲ以テノ故ナリ然レ其罪ヲ犯シタルコ
トヲ他ノ者ヨリ訴ヘ出タル後ニ至テハ其自

首ヲ取上ヤルナリ

尤西政ニテハ刑事ハ檢事ヨリ訴ヲ為スコキ
ニ限レル故或ハ自ラ差違アル可キナレバ日
本ニテハ何事ニ拘ハラズ何人モ知ラサル内
ニ於テ自ラ之ヲ自首シテ全ク其改心シタル
コトヲ表スレハ其罪ヲ免ルスナリ
一体以自首ヲ以テ罪ヲ免ルスハ道理上ニ於
テ不適當ナレバアテサレ可シ

佛國ニテハ自首ニ仍テ其罪ヲ免ルスコトヲ
普通ノ罪ニハ用ヒサルナリ

然シ若シ之ヲ自首スル者アル時ハ實際ハ檢
事ニテ知ラサル姿ニ為シ置キ其自首ノ情状
ヲ以テ酌量輕減ヲ与ヘル迄ノコトナリ

一体ハ日本ノ刑ノ如ク一般ニ自首ヲ以テ其
罪ヲ免ス可シト為ス方然ルヘシ
何トナレハ一度悪事ヲ為ストモ之ヲ悔悟シ
テ良心ニ改メ他ノ者ハ損害ヲ掛ケサル様ニ
其償等ヲ為シタル上ハ固ヨリ之ヲ免ルシテ
可ナシ可キモノナレハナリ
之ハ余程賢明ノ法ト考ヘリ
然シ自首スル故ニ其罪ヲ免ルスト去フ主意
ニテ此法ヲ用ユルハ不可ナリ
他ノ者ハ損害ヲ掛ケサル様之ヲ償ヒタルカ
為ニ其罪ヲ免ルスト去フ主意ニテ之ヲ用ユ
可キナリ
固ヨリ盜罪ニテハ其損害ヲ償ヒタル上ニア

ラサレハ其罪ヲ免ルナス畢竟其損害ヲ掛ケ
ス且自分モ全ク悔悟シテ良心ニ改メタル者
ヲ以テ自首ト為ス可ナリ
然シ例ハ人ノ畜ヒ馬ヲ盜取リ賣却シタル
後ニ其悪事タルヲ悔悟シ他ノ馬ヲ以テ償ヒ
タル時ハ仮令ヒ元ト盜取タル馬ニ劣ラザル
良馬ナリトモ全ク元トノ馬ニアテサル以上
ハ裁部分カ其違ヒアル丈ケノ損害ハ免カレ
サル可ナリ
斯ノ如キ場合ニ於テハ双方ニテ相對ノ示談
ニ仍ル可キコトナリ例ハ其代リ馬ニテ償
フ可キカ又ハ其代價ニテ償フヘキ等一方ノ
義諾スヘキ様ニ其示談ヲ終レタル上ニアラ

サレハ之ヲ自首スルトモ其罪ヲ免ルサレハ
ナリ

固ヨリ一方ノ者ノ承諾ニ仍テ自首スレハ不
可ナキコトナレ氏然ル時ハ自首ト為シ得ル
ト為シ得サルトハ全ク一方ノ者ノ承諾スル
ト承諾セサルトニ仍ル可キナリ

然ラハ豫メ此罪ハ自首ニ仍テ之ヲ免スヘシ
ト一定スルヲ得ス其時々ノ場合ニ寄リ其刑
ヲ変更セサル可カラサル誤ナリ

然テ自首シテ其罪ヲ免ルスヘキ種類ハ豫メ
法律ヲ以テ定メ決シテ他ノ原因ニ仍リ之ヲ
動カス可カラサル様ニ為シ置ク可キナリ
故ニ一概ニ只自首スルヲ以テ其罪ヲ免ルス

ト為スハ宜シカラサルナリ
然レシ之ヲ定ムルハ甚々難事ナリ

例ヘハ他ノ者ノ家ヲ破リ金ヲ盗取タリ其時
ハ仮令ヒ其金ヲ償ヒ返ストモ其家ヲ修復ス
ル間ハ其損害ヲ受ク可キナリ

又禽獸等ノ子ヲ生スヘキ物ヲ盗取其子ヲ生
シタル時ハ仮令ヒ元トノ禽獸ハ之ヲ返スト
モ其子ハ返サレ可キナリ

之ヲ斯ク如ク論スル時ハ仮令ヒ金ヲ盗取其
金ヲ償ヒタリトモ之ヲ償フ迄ノ時間ハ夫丈
テノ損害ヲ受ク可キ理ニシテ到底其損害ヲ
償ヒテ罪ヲ免ルス可キコトハナキ誤ナリ

然リ固ヨリ金ヲ盗取ラレタル時ニ當リ俄カ

其差支ヲ生シ他ノ者ヨリ其金高丈ケテ借
リタレハ利足等夫レ丈ケノ損害ヲ受ク可キ
訳ナリ

然テハ之ヲ償フトモ其損害ヲ受ケサルモノ
ハ絶テナキ訳ナリ

然リ固ヨリ償戻ストモ其遲速ニ仍リ損害ヲ
受クルノ有無アル可キナリ

例ハハホアソナードニテ畜ヒ馬ヲ盗取ラ
レ差支へタルニ仍リ司法省ヨリ其代リノ馬

ヲ借り置キタリ然ルニ日ナラステ其盜取
タル馬ヲ返シタル時ハ一時ニ足ノ馬ヲ畜

ヒ置カサルヲ得ス仍テ仮令ヒ其元ノ馬ヲ戻
シ得タリトモ其他ノ一疋ヲ畜ヒ置キタル文

ケノ入費ノ損害ハ是非トモ免カレサル訳ナ
リ

佛國ノ諺ニ徳アレハ損アリト云フコトアリ
教師ノ考ニハ此亦ニ於テ説アリ

自首ヲ為ストモ其償ヒ戻ヲ遲延シタル時ハ
其刑ノミヲ免ルシテ民事ノ償ヒヲ出サシム

可キナリ

然シ盜罪ハ盜取タル金ヲ費用シテ残ラヌ
償フ能ハス元トノ金高ヨリ何程カ減シ方ノ

差ヲ生ス可キコトアリ

盜取タル金ヲ費用シ其皆金ヲ償フ能ハス減
シ方ノ差ヲ生スルハ往々アルコトナリ然シ

此等ノコトニ拘ハリ自首ヲ以テ其罪ヲ免ルサ

同法省

スト為ス時ハ其償ヒ得ヘキ者モ之ヲ償ハス
又改心セントスル者モ之ヲ改心セサルノ弊
害ヲ生ス可キナリ

其償戻シ等ヲ為シタル時ハ全額ハ勿論半額
ヲ償ヒタリトモ固ヨリ其刑ハ減等スヘキナ
リ故ニ固ヨリ其減等ノ法ハ設ケザル可カラ
ナルナリ何テ「エキスキエー」スレガ「ルト」為
ス可キカ又「ハ」シルクムスタシンスアツテ「ヤ
ント」ト為ス可キカ
之ハ「エ」スキエー「スレガ」ールト為ス方相当
ナリ

例一、八十回ヲ盜取り一回ヲ償ヒ戻シタル時
ニ於テハ其罪ノ減等ヲ為ス可カラザレバ半
額以上ヲモ償ヒタル時ハ之ヲ赦宥セサル可
カラサルナリ

然レ仮令ヒ半額以上ト為ストモ容易ニ之ヲ
赦宥ス可カラス先ツ其本人ノ悔悟シタルヤ
否ヤノ情状ヲ審判スヘキナリ其盜取ラレ
タル者ヨリ論スレハ一旦盜失シタル物ヲ直
チニ取戻シタル上ハ其罪ヲ免ルシテ可ナリ
ト為ス可キナレバ然レ例ハ家ヲ破リ金ヲ
盜取りタル重キ罪ヲ犯シ其金ノ半額ヲ償ヒ
タル時ハ矢張其半分ノ罪ノ残ルヘキハ言フ
須タス又全額ヲ償ヒタリトモ己ニ其家ヲ破
リタル丈ケノ罪ハ残ルヘキナリ故ニ固様ナ
ル時ハ懲役等輕キ刑ト為スヘキナリ

其時ハ盜罪ノ廉ハ已ニ消スヘキニ付全ク家ヲ破リタル丈ケノ罪ト為スヘキナリ

然リ固ヨリ家ヲ破リ金ヲ盜取リタル者ニ於テ其金ノ全額ヲ償ヒ之ヲ自首シタル時ハ其家ヲ破リタル丈ケノ罪ヲ以テ其刑ニ處スヘキナリ

日本ニテモ固ヨリ斯ノ如ク為セル詎ナリ例ハハ金ヲ盜取ラシトシテ人ヲ毆撃シ遂ニ其金ヲ盜取リ之ヲ償ヒタル時ハ其毆撃シタル丈ケノ罪ハ罰ス可キナリ

佛国ニテ自首トハ少し違ヒアレ其償ヒタルノミニテ其罪ヲ免ルスコトアリ尤之ハ盜罪ニアラス

即チ因獄ノ守卒ニテ自分ノ知ラサル内ニ其罪人ヲ逃亡セシメタル時ハ之ヲ四ヶ月以内ニ捕ヘ出シタレハ其罪ヲ免ルスタリ

之ハ日本ニテモ同様ナリ然レ其期限ヲ三十日ト為セリ

期限ノ違ヒハ各国ニ於テ同シカラサルコトアル可キナリ此事ハ第ニ百四十七條ニアリ之ハ自首ニ就テ其罪ヲ免ルスコトハアラサル可キナリ

然リ自首ヲ以テ其罪ヲ免ルスニハアラヌ守卒等其自分ノ怠リニテ犯人ヲ逃亡セシメタル時ナリ故ニ固ヨリ故意ニテ逃亡セシメタルニアラス仍テ其犯人ヲ捕ヘ出シタレハ其

法律

罪ヲ免ルスコトナリ是レハ大張損害ヲ償ヒ
其罪ヲ免ビサント同様ノ理ナリ

然レ此場合ニ於テハ半額ヲ償フ可キコトニ
アラス金額ヲ償ヒタル上其罪ヲ免ルスコトニ

ニ当ルナリ
自首ヲ以テ其罪ヲ免スノ原因ハ固ヨリ良法

ナリ何トナレハ盜罪ニテハ其盜取タル物ヲ
償ヒ戻サシムルノ道ヲ院クヘキ故ナリ

然レ之ヲ用ユルノ方法ニ付テハ余程面倒ナ
ルコトアル可シ

之ハ得ト考究セサル可カラサルナリ尤其方
法ヲ立ツルノ面倒ナル故ヲ以テ一概ニ廢ス

ヘレト為ス可キモノニアラス
佛國ニ於テハ固ヨリ普通ノ罪ニ就テ自首ス

ヘレトノ法律ナシ
然レ盜罪ニ就テハ換事ヨリ之ヲ許フルトモ

モ實際ハ若シ之ヲ自首シタル時ハ其情状ヲ
酌量シテ其罪ヲ免ルスコトアルモ知ル可カラ

サレナリ

同法

後第十號

刑法會議筆記

九年三月五日

刑法省

刑法省

九年三月五日

第百九條

憲法ヲ害スル罪ト云フハ建國ノ一體ノ法ヲ
害スルコトナリヤ又ハ其一部ノ數部ヲ害ス
ルコトナリヤ

固ヨリ「コンスターション」ニ關係シタルコト
ハ其一部又ハ數部ヲ害スルコトアリト云モ
之ヲ分テテ其一部又ハ數部ヲ害スル云々ト
差別シテテ詳密ニ為スヲ要セサルガ故ニ斯
ノ如ク記シタルモノナリ

憲法ヲ害スル罪ト云フハ本條中ノ事柄ノミ
ニアラス前ノ條々中皇帝ニ對シタル暴行等

モ皆之ニ關係スルコトナラヘシ

前ノ條々ノ事柄ニ於テモ固ヨリ「コンステテ、
」シヨシニニ關係スヘキナリ然シ國ノ内外ノ
安寧ヲ害スル云々ノコト等ニ至テハ大ニニ
關係スルモノニアラス故ニ本條ニ於テハ其
殊更ニ關係スルコトノミヲ記シタルモノナ
リ

前數條ノコトハ畢竟其一部分ニ關係スルノ
ミナリ

本條ニテ公權ト云フハ「ドロハシウツク」ト記
シテ了リ然ラハ之ニハ公証人又ハ陪審ニ為
リ得ル迄ノコトヲモ害スルニ似たり故ニ公
權ト記スルハ允當ナラス改權ト記ス方然ラ

原語ニテ民權ハ「ドロハシウケル」ト云ヒ公權
ハ「ドロハシウツク」ト云フ此所ニテ「ドロハシ
ウツク」ト記セルハ公權ノミノコトヲ云フニ
アラス即チ改權ヲ害スルノ罪ヲ云フヘキナ
リ
故ニ一體其原語ニ拘ハラヌホリチツク「即チ
改權ニ關係スルコトヲ」含蓄スルト見做スヘキ
ナリ

即チ議決ヲ撰挙シ又撰挙セラルル、場合ニ於
テ其入札ヲ為ス等ノ權ヲ妨ケルコトナリ
之ハ六ヶ月ヨリ少ナカラス五年ヨリ多カラ
サル時間禁錮ノ刑ヲ受ケ云々トナリ即チ輕

罪ナリ

次条即チ第百十條ニハ此重罪犯云々トアリ
故ニ本條ノ事柄ハ只一區ノ土地限りニテ具
罪ヲ犯シタルコトナリ之ハ輕ク處シ即チ輕
罪ナリトス

然シ次條ハ全國ニ對シ其罪ヲ犯シタルコト
ナリ之ハ追放ノ刑ニ處ス即チ重罪ナリトス
然ルニ第百十條ノ初文ニ若シ此重罪犯ト記
シタルハ何故ナリトナレハ自ラ其原由アル
コトナリ

千七百九十一年ノ刑法ニ於テハ第百九條ノ
罪ヲ以テ十五年ノ「ゼー」ト云フ刑ニ處シタ
ルモノナリ

此「ゼー」ト云フ刑ハ丁度現今ノ囚獄ノ刑ニ
類似シタルモノナレ氏通常ノ囚獄ヨリ余程
寛裕ニ取扱ヒタルモノナリ

然ルニ現今ハ本條ノ罪ヲ輕罪ト為シタリ之
ヲ次條ニ於テ重罪犯ト為セシハ畢竟旧ト重
罪ノ部類中ノ罪ナル故ニ之ヲ其儘ニ記セシ
モノナリ

一、体ハ之ヲ輕罪ト記スヘキナレ氏然ル時ハ
下文ノ主意ニ差支アルヲ以テナリ

之ヲ要スルニ現今ハ此罪ヲ一區ノ土地限りニ
テ犯シタル時ハ輕罪ト為シ全國ニ關係シテ
犯シタル時ハ重罪ト為スナリ

第百十條ノ主意ニテハ全國ヨリ一部迄ニ於

テ之ヲ犯シタル時ハ重罪ト為スナルヘシ
然リ本條ハ只其一區ノ土地ノミニテ犯シタ
ル場合ノコトナリ
故ニ之ハ具害ヲ受ケタル人少ク即チ二三人
ヨリ以上数人ノ權ヲ妨ケヲ為シタルコトナ
リトス
畢竟其土地限リニテ集議スヘキ人数少ナキ
場合ニ付テノコトナリ
第百十條ハ一郡又ハ数郡中ノ者ノ其入札ス
ヘキ場所ヘ往キ乱暴ヲ以テ其妨ケヲ為シ夫
カ為メ衆人ノ入札スルヲ得サルコトニテ其
妨ヲ為スコト多ク其害ヲ為スコト大ヒナル
場合ナリ

一 体本條ヨリ此第百十三條迄ハ之ヲ講義スル
トモ格別其益アラサルヘシ何トナレハ日本
ニテハ未タ此法ヲ立ワルニハ及ハサルヘシ
ト考ヘリ
此數條中ノ事柄ト違ヒ小事ニテ公撰スヘキ
コト例ヘハ一地方ノ區界町等ヲ定ムル時ニ
於テ其入札スルコトヲ妨ケタルモノハ矢張
本條ニ仍テ処置シテ然ルヘキヤ
固ヨリ本條ニ仍リテ処置シテ当然ナリト考
ヘリ
然ラハ日本ニテモ此法律ハ立テサル可カラ
サルナリ現今已ニ區界町界ヲ定ムルニハ公
撰ニテ為スヘキコト、為セリ

區界町界ヲ定ムル為メ公撰ヲ要スルナレハ
即チ本条ノ法律ヲ用ユヘキナリ固ヨリ其主
意ニ於テハ差違アルコトナシ

第百十一條

本條ハ該員ノ撰擧札ヲ計算スル任ヲ受ケタ
ル者ニテ之ヲ偽造シ紛失シ又ハ増減スル等
ノコトヲ為シタルモノナリ
之ハ公権剝奪ノ刑ニ処スナリ
何トナレハ其任ヲ受ケテ此ノ如キ所為ヲ為
シタルハ畢竟其任ヲ盡サ、ル故ナレハナリ
又ハ文字ヲ書シ得サル撰擧人ヨリ其入札セ
ント差示シタル姓名ヲ書セス他ノ者ノ姓名
ニ書キ替ヘ之ヲ入札シタルモノナリ

本條ノ事柄ハ全ク計算ノ任ヲ受ケタル者ニ
テ其所為ヲ為シタルコトナリ其任ヲ受ケサ
ル通常ノ者ニテ之ヲ為シタルコトハ即チ次
條ニアリ

第百十二條

通常ノ者ニテ前ニ記シタル所為ヲ為シタル
時ハ六ヶ月ヨリ少カラス二年ヨリ多カラサ
ル禁錮ノ刑ヲ受ケ且ツ五年ヨリ少カラス十
年ヨリ多カラサル時間具入札ヲ為スノ權云
々ノ禁ヲ受クヘシトアリ
故ニ之ハ輕罪ト為スナリ
然ルニ前條ニ於テハ公権剝奪ニテ重罪ト為
セリ

一体本條ノ如ク禁錮ト為スハ却テ之ヲ重ク罰スル譯ナリ何トナレハ其自由ヲ欠クコト多ケレハナリ

尤公権剥奪ハ一生ノ刑ニテ重キ刑ニハ相違ナシト虽モ本人一己ノ自由ヲ欠クコトハ禁錮ヲ以テ多シト為ス

且ツ本條ニテ禁錮ノ刑ノ外ニ議員ヲ撰挙シ撰挙セラル、ノ權ヲ禁セリ

然シ之ハ適宜法ニ付其禁錮ノ刑期ノ長短ニ仍リ異ナルコトアリ故ニ其權ヲ失フコト少シトス

前條ニ於テ重罪ト為ス時ハ矢張政府ノ監察ヲ附クヘキナラン

重罪ト虽モ監察ヲ附ルト附ケサルトノ區別アリ之ハ一体施体ノ刑ノミニ附加スヘキモノナリ

然ルニ公権剥奪ハ加辱ノ刑ナリ且ツ前條ノ事柄ハ固ヨリ國ノ内外ノ安寧ニ関スルモノニアラス故ニ便利法ニ仍ルト虽モ之ニ監察ヲ附クルコト能ハサルナリ

即チ第四十九條ニアリ

同條ニ國ノ内外ノ安寧ヲ害スル罪ノ為メ云々ノコトハ政府ノ監察ヲ受クヘシトアリ然ルニ本條ノ事柄ハ其内外ノ安寧ヲ害スル罪ニアラス

第百十三條

本條ハ議負ノ撰擧ノ時ニ於テ其入札ヲ他ノ
モノヨリ買ヒ又ハ自分ヨリ賣リタルモノナ
リ
之ハ五年ヨリ少カラス十年ヨリ多カラサル
時間公權ヲ行フノ禁ヲ受ケ且ツ諸般ノ公務
ヲ行フ云々ノ刑ヲ受クヘシトアリ
之ハ只其公權ヲ失フノミナラス總テノ公務
ヲ行フコトヲ得サルナリ

然シ矢張輕罪ナリトス
一併前條ニ比スレハ其權ヲ禁スルコト多ク
之ヲ重ク処シタルモノナリ
何故ナレハ此ノ如キ者ヲ以テ尚他ノ職務等
ニ任スル時ハ必ス又賄賂ヲ受ケ不正ノ事ヲ

為スヘキモノナレハナリ

前條ニ於テ議負ヲ撰擧シ撰擧セラル、權ヲ
失ヒタル者ニ於テハ其他ノ公務ヲ行ヒ得ヘ
キヤ

然リ前條中ノ禁ヲ受ケタル外ハ總テノ公務
ハ之ヲ為シ得ヘキナリ

然ルニ本條ニ至テハ其總テノ公務ヲ行フコ
トヲ得サルナリ

尤此ノ事柄ニ付テハ佛國ニ於テモ自ラ寛裕
ニ為シ更ニ構マハサルコトアリ

例ヘハ何某ノ為メニ何某ヨリ其入札ヲ為ス
ヘシト互ニ言合セテ之ヲ為シタル等ノコト
ハ其終ニ差置キ構ハサルコトアリ然シ夫カ

為メ賄賂ヲ取リテ之ヲ為シタル時ハ罰セサル可カラサルナリ

例ヘハ時計ヲ贈リテ賄賂ト為シ自分ノ為メニ入札ヲ為スヘシト云フハ即チ之ヲ賣買スルト同様ナリ故ニ本条ニアル所ノ罪トシテ其刑ニ処セサルヲ得サルナリ

公務ヲ行フコトヲ禁スルト云フハ誥リ官吏ニ為ルヲ得サルコトナリ然ラハ之ハ公権剝奪ノ一部分ノコトヲ以テ本条ノ罪ニ分チ用ユルコトナリヤ又ハ全ク別種ノ権ヲ禁スルコトナリヤ

矢張第四十二條ノ部分中ノコトナリ故ニ一体ハ之ヲ本條ニ記スルニ及ハサルナリ

何故ナレハ公権ヲ行ヲ禁スルト云フハ即チ第四十二條ノ権ヲ殆ント皆禁スル譯ナリ故ニ別ニ公務ヲ行フコトヲ禁スルト云フニ

及ハサルヘシト考ヘリ

本條中ニテ公権及ヒ公務ヲ行フノ権ヲ禁スルト云フハ即チ「シトワイヤ」ノ権ヲ剝奪スルコトナリ

此「シトワイヤ」ノ権ト第四十二條ノ権トヲ比較シテ詳説スヘシ

同條中

第一項ノ入札ヲ為スノ権及ヒ議員ヲ撰舉スルノ権

第二項ノ議員ニ撰舉ヲ得ルノ権

之ハ「シトワイヤン」ノ権内ニ入ルヘキナリ
第三項ノ陪審又ハ他ノ公ケノ職務ノ任ヲ受
ケ及ヒ之ヲ行フノ権ハ「シトワイヤン」ノ権内
ニ入ルヘキナリ
「シトワイヤン」ノ権トハ即チ自國ノ人民タル
ノ権ヲ云ナリ
第四項ノ兵器ヲ所有スルノ権ハ「シトワイヤ
ン」ノ権内ニ入ラサルナリ
第五項ノ親族會議ニ參スル権ハ「シウイ」ノ
権内ニ入ルヘキナリ
第六項ノ没見人又ハ管財人ト為ルノ権ハ「
ウイ」ノ権内ニ入ラサルナリ
第七項ノ内監定人ト為ルノ権ハ外國人ニテ

モ之ヲ有スヘキニ付「シトワイヤン」ノ権内ニ
入ラサレ「証書類」ノ証人ト為ルコトハ「シト
ワイヤン」ノ権ヲ有スルモノニアラサレハ之
ヲ為シ得ヘカラサルナリ
第八項ノ裁判所ニテ事柄ヲ陳述スル等ノ権
ハ何人ニテモ為シ得ヘキニ付「シトワイヤン」
ノ権内ニ入ラサルナリ
証書類ノ証人トハ公正ノ証書ノ証人ト為ル
コトナリ
例ヘハ公証人ノ面前ニテ証書ヲ記スル時ハ
其公証人二人ノ立合ニテ之ヲ為スカ又ハ若
シ公証人ノ二人不立合時ハ佛國人ノ内二人
ノ証人ヲ出シテ立合ハシムヘキナリ故ニ証

書類ノ証人ト云フハ即チ此二人ノ証人ト为
リ得ヘキコトナリ

然ルニ証書類ノ証人ト記シテ公正ノ証書ノ
証人ト記セサルハ何トナレハ証書ヲ記スル
時此二人ノ証人ヲ要スルハ常ニ公正ノ証書
ニ限ルヘキコトナリ仍テ斯ノ如ク為シタル
モノナリ

尤私ノ証書ニテモ証人ヲ用ユルコトアレ
之ハ便利法ナリ故ニ必ス之ヲ用ユヘシト为
サス

**罰金ハ其賄賂ヲ受ケタル者ト授タル者トノ
双方ヨリ取ルヘキカ**

例ヘハ一方ヨリ百圓ヲ授ケ他ノ一方ニテ其

百圓ヲ受ケタル時ハ其双方ヨリ之ヲ陪シテ
即チ二百圓宛出サシムヘキコトナリヤ

然リ其賄賂ノ百圓ナル時ハ授受ノ双方ヨリ
二百圓ツ、ノ罰金ヲ取ルヘキナリ

然ラハ賄賂ヲ受ケタル者ハ其賄賂ノ百圓ニ
自分ヨリ百圓ヲ加ヘテ出スノニテ其百

圓ノ損失ナレトモ之ヲ授ケタルモノハ始メ賄
賂ニ百圓ヲ出シ又罰金ニ二百圓ヲ出シ都合

三百圓ノ損失ト为ルコトナラスヤ

例ヘハ名村ハ「ホアソナー」ドノ入札ヲ为ス为
メ「ホアソナー」ドヨリ百圓ヲ受ケタリ其時之
ヲ授受シタル双方トモ罰金ヲ出スヘキ場合
ニ至レハ即チ「ホアソナー」ドヨリ始メ授ケタ

ル百四ヲ名村ヨリ取戻サ、ルヲ得サルナリ
然レ之ヲ名村ヨリ返サ、ルトモ別ニ其訴訟
ヲ為スコトヲ得サルナリ

又例ヘハ「ホアソナー」トヨリ名村へ自分ノ為メ
ニ入札ヲ為シタル時ハ百四ヲ授クヘシト云
フ約束ヲ為シ其後名村ニテ其入札ヲ為サ、
ルトモ始メノ約束ノ百四ヲ取戻スコトヲ得
サルナリ

其約束ヲ為シタルノミニテモ罰金ハ出サ、
ルヲ得サルヤ

本条ノ原文ニハ受取タル金高ノ二陪又ハ約
束ヲ為シタル金高ノ二陪トノ意味ナリ
尤原文ニハ賄賂ト云フ字ハ記セス其入札ヲ

賣買シタルモノトアリ

第二款ノ人民ノ自由ヲ害スル暴行以下ノ条
ハ官吏ノ犯罪ヲ記シタルモノナリ

長官トハ「ホンクシヨ子ールピフリウク」ト云
フ原語ナリ此原語ハ何レノ官吏迄ヲ云フコ
トナリヤ其限限ナク佛國ニテモ議論アル所
ナリ

佛國ニテハ官吏ト云フコトニハ「ホンクシヨ
子ールヒブリウク」
「アジヤン」
「フレポセー」
「ウツト
グウシルスニシ」トノ三種アリ之ハ皆何レモ
官吏ト云フコトナリ

然ラハ本條ニテハ総テノ官吏ト云フコトナ
リヤ

然シ其終テ官吏ノ内公務上ニテ人民ニ對シ
直チニ關係スルモノニアラサレハ本條ノ部
類ニハ入レサルナリ

例ヘハ税関ノ官吏ニテ開ヒテ検査スルニ及
ハサル箱ヲ殊更ニ開キタル等ノコトハ即チ
本條ノ罪ニ入レテ論スヘキナリ

又郵便役所ノ官吏ニテ人民ノ書状ヲ受取之
ヲ配達セシテ受取ラサル杯ト云ヒタルコ
トモ矢張人民ノ自由ノ權ヲ害スルモノナリ
又賤負ヲ撰挙シ入札ヲ為スヘキ者ヘハ官吏
ヨリ其者ノ宿所等ヲ記シタル允許札ヲ渡ス
ヘキ規則ナリ然ルニ之ヲ渡サ、ル時ハ矢張
人民ノ自由ノ權ヲ害スルモノナリ

又裁判所ノ官吏ニテ其長官ノ命令狀ナク氣終
ニ人民ヲ取押ヘ又ハ拘留シタルコトモ本條
ノ罪ト為スヘキナリ

然シ現行犯罪ノ時ハ素ヨリ命令狀ナクトモ
取押ユヘキナリ故ニ其取押ヘラレタル者ヨ
リ之ヲ許ヘタル時ハ現行カ現行ニアラサル
カノコトヲ審判シテ具可否ヲ決定セサル可
カラサルナリ

尤本條ニテ各人ノ自由ニ對シ又ハ一人及云
々ト云フハ重モニ賤負ヲ撰挙スヘキ場合ニ
於テ其允許札ヲ渡サ、ル時ノコトナリ然シ
其官吏ノ意見ニ仍リ之ヲ渡スヘカラサルモ
ノト見做ス等全ク正直ノ心ヲ以テ之ヲ為シ

タル時ハ固ヨリ其罪ニハ処セサルナリ
然レ殊更ニ之ヲ渡サ、ル時ハ即チ人民ノ自
由ノ権ヲ害シタルモノト为リ其罪ヲ受クヘ
キナリ

例ヘハ日本ニテ外國人ノ遊歩ノ場所ヲ十里
ノ規程ト为セリ仍テ「ホリス」ニテ其規程ニ背
キタリシヲ之ヲ捕ヘタリ然ルニ其ノ規程ハ
道ノ屈曲ノ里程ニテ十里ト为スカ又ハ直線
ノ里程ニテ十里ト为スカトナレハ「ホリス」ハ
屈曲ノ里程ニテ十里ト为スト考ヘテ捕ヘタ
ルモノナリ

其時ハ一体ハ直線ノ里程ナリトモ全ク惡意
ニテ捕ヘタルニアラサル故ニ本条ノ罪ニハ
入レテ論セサルナリ其規程ヲ屈曲ノ里程ニ
テ定メタル時ハ勿論仮令直線ノ里程ニテ定
メタルモノナリトモ固ヨリ其真ノ境界ニ於
テハ或ハ誤ルヘキモ計リ難シ故ニ其「ホリス」
ノ惡意ニアラザンコトヲ知ルヘキナリ仍テ
本条ノ罪ヲ犯シタリトモ其惡意ニテ为シタ
ルコトニアラザン時ハ之ヲ罰セサルナリ尤
之ヲ罰セスト虽モ民事ノ償ヒハ出サ、ルヲ
得ヤンナリ

此項ハ更ニ異ナリタルコトナリ
例ヘハ「ホリス」ト陸軍士官トテ比スレハ陸軍
士官ハ「ホリス」ヨリ上等ノ者ナリ然レ「ホリス」
ハ固ヨリ其陸軍士官ノ命令ヲ奉スヘキモノ

ニアラス

又警視廳ノ長官ハ裁判上ノ命令ヲ出ス可キ

モノニアラス

本條ニ於テハ全ク当然ノ職務上ニ付テ其長
官ノ命令ヲ以テ前項ノ所行ヲ為シタルコト
ヲ云フヤリ故ニ其時ハ其本人ヲ罰セス之ヲ
命令シタル長官ノミニ於テ其罪ヲ受クヘキ
ヤリ

司法省

後
第
十
一
編

刑
法
講
義

九
年
二
月
十
日

刑法中条次ノ順序ニ於テハ皇帝ノ性年ニ對
 エタル罪ト自國ノ政府ヲ覆サントスル罪ト
 ハ自國ノ政府ヲ覆サントスル罪ヲ以テ前ニ
 掲ケ置リ可シト考ヘリ之ハ如何ト為スカ
 皇帝ニ對シタル罪ヲ以テ前ニ掲ケ其次ニ自
 國ノ政府ニ對シタル罪ヲ掲ケ其次ニ内亂
 ヲ起シタル罪ヲ掲ケ入シト考ヘリ神國ノ法
 律ハ共和政事以後ノ引續ニ於テ作リタルモ
 其ニ皇帝ヨリ自國ヲ大切ト為シテ之ヲ區別
 シタルモノナリ
 一自國ハ皇帝ヨリ派立モノニアラサシ民皇

帝ハ國コリ成之ヲタルモノナリトノ御アリシ
然レ日本ハ數千年以來五君ノ國體ニ付皇帝
シ前へ掲ケ出ス可シト考ヘリ

白國ノ政府ヲ覆ス時ハ白ヲ皇帝ヲ害スヘキ
理ナラスヤ然ラハ文張白國ノ政府ヲ覆サレ
トスル派ヲ以其前ニ掲リヘキナラン

然リ固コリ白國ノ政府ヲ覆ス時ハ即チ皇帝
ヲモ害セサル可カラサル歟ナレト直チ
ニ其皇帝ヲ害スルニアラス又或ハ其政府ヲ
覆ス而已ニテ皇帝ヲモ傷セラ害スルニ至ラ
サルコトモアルヘキナリ

故ニ皇帝ニ對シタル罪ト白國ノ政府ヲ覆サ
ントスル罪トハ自ラ差違アルナリ且皇帝ノ

性命ヲ害スルモノハ全國中コレ總テノ害ヲ
裁ケタル内最モ重キ害ヲ裁ケタル罪アルモ
ノナリ且ツ之ハ固コリ其國ノ政府ヲ覆サレ
トスル素意アルコト、見做スヘキナリ

其次ニハ「ホリテツク」即チ政事ノ罪ト内乱ヲ起
サントスル罪ヲ掲ケヘシト考ヘリ

謀叛大逆ノ罪ハ他國ノ刑法中ニ記セサレト
獨レ何太利亞ノ刑法ニハ之ヲ記セリ

故ニ日本ニ於テモ此謀叛大逆ノ罪ノ刑ヲ立
テ置クヘキナリ

其外皇帝ノ性命ニ関スル罪ニアラス原語ニ
テ「レセ」ト云フモノアリ之ハ皇
帝ノ名譽ニ関スルノ罪即チ皇帝ヲ罵詈シタ

ル等ニテ其名譽ヲ法ニタル而已、罪ヲ犯シ
タルフト云フナリ

此刑法ニ欠歟日本ニ於テ止テ置リヘキナリシ
獨シノ刑法ハ總テ良法ナリ也國事紀ハ總テ
輕キ刑ト為スナレ凡皇帝ニ關シタル罪ハ更
ニ重ク死刑ト為スナリ其皇帝ニ關シタル外
ノ罪ヲ總テ輕キ刑ト為スハ少シニ覺ニ失スル
ト考ヘリ

伊大利亞ノ刑法書ヲ求メ得タリ故ニ其内容
用ノ条件ヲ以仏語ニ反譯シテ之ヲ望セント
欲セリ

自今ハ刑法ノ中政事ノ深ク草葉ニ取掛リタ
リ故ニ伊大利亞ノ刑法ヲモ考テ之ニ出セント

又

伊大利亞ノ刑法ハ千八百七十三年ト同シク
四年トニ於テ大集會ヲ為シテ該篇ヲ定メシ
リ

其時ハ各國ノ碩學者ヲ集會セシナリ伊大利
亞ニハ最モ秀タル碩學者アリ此等ノ者ノ撰
録ニテ制定シタルモノナリ

即チ近來ノ新法ナリ故ニ最モ良法ト考ヘリ
伊大利亞ノ刑法ニ於テハ他國ノ刑法ヨリ刑
名ノ等級少ナシ故ニ其一ツノ刑名中ニテ罪
ノ輕重ニ引當ラシ之ヲ極端縮小シテ同ユル故
ナリ

故ニ佛國ノ刑法ノ如ク刑名ノ順序ヲ超ヘテ

用スルコトナシ即チ之ハ公同ノ刑法コリ可
ナリト考ヘル所ナリ

現今御國ニテハ「セナシ」即チ上院ヲ置リノ方
法ヲ改正セシトノ企テアリ

此上院ハ矢張公撰ヲ以テ置カレトノ論ナリ
尤之ハ漸進共和黨ノ論ニテテ急進共和黨ノ

論ニアラス故ニ極端好ノ改正ヲ為スヘト
考ヘリ

御國ニテ上院ヲ公撰ニテ置カントスルコト
ハ曾テナキコトナリ従前ハ皇帝ノ意見ニ何

リ其議員ヲ振擢ニタルモノナレバ現今ハ之ヲ
公撰ニ為サントノ論ナリ

其公撰ハ下院ニテ之ヲ撰定スヘキヤ

人民一般ノ公撰ニ似ルヘキナリ尤之ヲニテ
ニ撰定スヘキ其始メハ更ニ上院ノ議員ヲ撰

定スル撰定人ヲ撰定シ然レ後其撰定人ニテ
上院議員ヲ撰定スヘキナリ

第百十五條

本條ハ矢張前條ト同ク事柄ヲ九シタルモノ
ナリ然レ前條ハ通常ノ官達ニテ之ヲ為シタ

ルコトナレバ本條ハ「ニスト」ニテ之ヲ年
ニ又ハ之ヲ行ヒタルコトナリ

即チ共和十二年云々ノ決定書ニ記スル所ノ
副裁ヲ受ケタル廷朝ハ「北テ其所為ヲ改メ

サル時」コトナリ

「ニスト」ハ前條ノ者コリ重キ者ナリ故ニ

其刑ヲモ一尋重ク爲シシルモナリ
本条ノ事柄ハ固ヨリ去知二年ノ建國法ニ関
シタルコトナレバ現今ハ已ニ此建國法ヲ廢
セリ然レバ此事柄ニ附テノ罪ヲ処スルノ方
法ハ以前ト同シク英法本条ノ刑法ニ依ルヘ
キヤトナレハ否ラズ前条即チ通常ノ官吏ツ
処スルノ刑法ニ依テ罰セサル可カラサルナ
リ
コニスルコト云フハ若者ノコニスルコト云
フハキヤ

然り

本条ニ於テ注意スルハキコトナリ

去知二年ノ建國法ニ依テ執政官ニテ前条ノ

事柄ヲ管シ又ハ行ヒリル時ハ其定時制中ニ其
所爲ヲ改ムヘキコトヲ肯セズ云ハトアリ故
ニ之ハ後ノ其執政官ニ罰款ニ置ケタルコト
ヲ其後ニ改擲ニ置ケタルコトナリ
然ルニ現今ハ之ヲ制裁スル方法ヲ廢セリ故
ニ本条ニ依リテ処スルヲ得ズ故ニ前条ニ依
テ處セサルヲ得サルハキナリ
第百十六條ハ英法執政官ノ過失ナリ然ルニ
其事柄ハ脅迫セラレリルカ又ハ欺騙セラレ
タルカ或ハ自ラ知ラサル場合ニ於テ地ノ官
吏ヨリ其職務上ノ書キ物ハ自分ノ封印ヲ施
サシメラレタルコトナリ
固ヨリ之ハ自分ノ過失ナリ然レ一俾官吏ハ

總テ其長官ノ年ニ仍ルヘキモノナリ故ニ一
高ノ長官ニテ斯ノ如ク他ノ若ニ調印ヲ為サ
シノラレタル時ハ尚其上ノ長官ニ其次長官
ヲ言テ立ツヘキモノト為ス
則ヘハ若シ懸合ニテ敷出セラレタル時ハ其
次官ヲ内務卿ヘ言テ立ツヘキナリ
即チ裁ハ何某ヨリ當様ナルコトヲ敷出セラ
レ又ハ賢達セラレテ之ニ調印ニタリト立
ツヘキナリ

然レ各府ノ卿ハ懸テ其事務ヲ詳悉ニ看スレ
テ調印スルコトアルヘキニ付自ら敷出セラ
レ易キモノナリ
右府ノ卿ハ日ニ多數ノ文書ニ調印ヲ為スヘ

キニ片一ル之レヲ看ルコトヲ得ス則チ自ら
杜撰ニ判ヲ押スコトアルヘキナリ
尤卿ニ於テ不分明ナル時ハ其事務ヲ大丞ニ
仰付スヘキナリ然ルニ其大丞ノ答ヒニ於テ
道理ニ当ルヲ以テ之レニ調印セシトモ其
其答ヒト書面トニ送ヒタルコトアル等ノ時
ハ固ヨリ其誤ヲ受ケサルナリ

第百十七條

本條ハ第百十四條ニ記シタル暴行ニ付其損
害ノ償ヒヲ求ルルコトナリ
之ハ刑事裁判所ト民事裁判所ノ両様ノ内ヘ
許出ツヘキモノナリ而様ノ内ニテ之ヲ不履
スレハ其時ノ景況ト其身分ニ應ニ名譽ニ関

スルノ多少ニ寄リ答甚相為ノ到合ヲ以テ損
害ノ證ヲ求ムヘキナリ
一牌人氏ハ一般ニ同様ナルハキ甚ナレ氏例
ハハ人カ事挽ト豪高トニテラハ甚少分ノ差
別アルナレハ甚多ニ聞スルコト又多少ノ違
ヒアルヘキ証ナリ
本条ニ於テ枉ニ云々トアリ即チ自分ノ氣位
ニ為ニタルコトナリ
例ハハ拘留ニ可カラサル者ヲ拘留ニタル等
ノコトナリ
高者ノ大小ニ依リ一日ニ十回ノ利ヲ得ルモ
ノ又ハ其以上ノ利ヲ得ル者アルヘキナレハ
何レモ是カ為メ日々ノ損害ヲ受ケタルナリ

ハ固ヨリ損ハサル可カラサルナリ然レハ加
フ御ハ云々トアリ之レハ其利ヲ得ルハ加
リ何程少クモテモ二十五コトナリ以下ニ
減ス可カラスト云フコトナリ
故ニ其以上ハ數多ノ積額ヲ出サハルヲ得ナ
ルヤモ知ル可カラサルナリ
第百十四條ニ於テハ告人ノ自由ニ對シ又ハ
一人及數人ノ公權云々ノ所為ト四ツノ事柄
ヲ記セリ
第百十七條ニ於テハ第百十四條ノ暴行云々
ト記シラ之ヲ記セリ
故ニ此場合ニ於テハ不生ニ人ヲ禁錮ニシル
等ノコトナレハ固ヨリ本条ノ刑ニ処スヘキ

ナリ

然ルニ茶三百四十一茶ニ旅テ不正ニ人ヲ禁
錮シタル深ヲ記セリ

之ハ有期ノ法利ト為テナリセ通常ノ者ニテ
之ヲ為シタル時ナリ

然レ何故同案ニ旅テ通常ノ者ハ重ク為レ本
茶ニ於テ官吏ハ輕ク為レタルヤトナレハ官

吏ハ固ク人氏ヲ禁錮スルハ權ヲ有スルモ
ノナレハ法令氣候ニ之レヲ為サ、ルトモ時

ニ齊リ其氣候ニ為シタルコト、臨ルコトモ
アルハナリ

然レ人民ハ官吏ト違ヒ之ヲ禁錮スルノ權ヲ
有セザル者ナリ

故ニ其權ナキ者ニテ之ヲ為シタル深ト又其
不正ニ之ヲ為シタル深トヲ併セテ罰スルノ
理ナリ

仍ニ茶三百四十一茶ニ旅テハ其深ヲ重ク為
シタルモノナリ

之レハ全ク自分ノ家屋中へ入リニ人ヲ禁錮
セシ等ノコトナリトス

茶百十八條

女茶ハ例ハ地方ノ長官等ニテ執政官ノ印
ノ以署シタルコトナリ

即チ官吏ニテ証ヲ計リ公トノ文書ヲ送シ
其長官ノ印ヲ以署シタルコトナリ

例ハ、縣令ニテ、山陽州ノ文書ヲ送シテ不

正ヲ為シタルコトナリ

然ルニ一傳官吏、職務上ニテ公ケ、文書ヲ
偽造シタル時ハ無期ノ徒刑ト為スナリ
即チ第百四十五條ニアリ

然ラハ本條ノ刑ハ其權衡ヲ得サルナリ

如キ條ニハ之ヲ偽若シタル者ノ罪分ニ就テ
區別ナシ然レモ之ハ二十年ノ徒刑ニ處スト
アリ故ニ之ヲ以テ官吏ニテ為シタルト見為
ス時ハ第百四十五條ノ無期ノ徒刑ト為スノ
法ニ就テ其權衡ヲ得ス又通常ノ者ニテ之レ
ヲ為シタルコトト見為ス時ハ第百四十七條
ノ注意ニ所屬セリ

然ラハ本條ハ全ク不用ニ屬スルモノナリ

第百四十五條ト第百四十七條トヲ參照スヘ
シ

第百四十五條ハ官吏ノコトヲ記シ第百四十
七條ハ通常ノ者ノコトヲ記セリ

故ニ法律ハ此ルヘリ又之同レ事柄ヲ重複シ
テ記セサル様ニ為スヘキナリ

斯ノ如ク後條ニ明文アル上ニ因リテ本條ニ
記スルニ及ハサルコトナリ

第百十九條

本條ハ行政又ハ司法警察ノ任ヲ受ケタル官
吏ニテ自ら枉ニ禁錮ヲ為シタルモノニアラ
ズ

其法律ニ背キ枉ニ禁錮シタルコトヲ他ノ若
コリ届出ヲタル時ノコトナリ

例ハ其市柄ヲ以テ政へ届出ヲ以テ又之ヲ大
久保へ届出スルハキコトナリ

然ルモ其例ハ為シ置キ之ヲ届出サルコトナ
リ

当然ノ手續ニ於テモ因コリ其枉ニ禁錮セラ
レタル市柄ハ付届出ヲタル者アル時ハ之ヲ

又々処置スルカ又ハ其表宿へ届出スルハナ
リ然レモ之ヲ届出サズ其例可合ノ取調ヲモ

為サ、ルコトナリ
故ニ此ノ如キ許ヲ受ケタル時其例表宿へ届
出スコトヲモ為サ、ル時ハ其例表宿不正ノ禁

錮ヲ為シタル者ノ「コンプリスト」見為サ、ル
ヲ得ナルナリ

之ハ因コリ直ニ不正ノ禁錮ヲ為レタルニア
ラザレハ暗ニ之レヲ為レタル者ト見做スヘ

キモノトス
通常ノ「コンプリスト」ハ然テ其犯罪ノ主従トモ

同利ト為ス故ニ例ハ例署ヲ為レタル「コンプ
リス」ニテモ主従トモ均シク其刑ヲ受リヘキ

ナリ
畢竟主従ニ同意シタル者ハ總テ同刑ニ為ス

ハキ原則ナレハナリ
然ルニ第百十七條ニ於テハ第百十四條ニ記

レタル暴行即チ例署ヲ為レタル者ハ何レモ

主従トモ同刑ニ為スヘキナレバ枉ニ禁錮セ
リルコトハ其主従同刑ノ原則ニ拘ハラズ本
案ニ記セタル所ノ刑ト為スナリ
其不正ニ禁錮セタル係ニ差置ク時ハ固ヨリ
其自ラ犯セタル罪ト為スヘキナレバ之ヲ長
官ニ届ケタル上ハ其者ノ罪ハ已ニ消スヘキ
ナラシ

其罪ハ固ヨリ消スヘキナリ然レ之レヲ届出
セタル長官ニテ其儘取調サル時ハ其長官モ
矢張第百十七条ノ枉ニ禁錮ヲ為セタル罪ノ
附従ト見做セ全ク本条ノ刑ト為スナレバ第
百十七条中ニテ第百十條ノ暴行ト云フ所ノ
内ニテ枉ニ禁錮セタル罪ノ外ノ罪ヲ犯セタ

ル時ハ何レモ其当然ノ刑ニ処スヘキナリ
故ニ本条ノ之ヲ届出サレバ云々ノ刑ハ其主
従同刑ノ原則ニ拘ラス全ク別ニ立テタルモ
ナリ
故ニ之ハ固ヨリ法律上ニ記セラ定メ置クヘ
キコトナリ
尤之ハ長官ノ罪ヲ一層重ク為スヘキコトナ
リ
第百十四條ニ於テ公権剝奪ノ刑ニ処スルト
アリ此直ニ不正ノ禁錮ヲ為セタル若シ公
権剝奪ノ刑ト為ス上ハ本条ニ於テ之ヲ長官
へ届出サル罪ヲ均トセリ公権剝奪ノ刑ト処
スルハ却テ重キニ失シ酷ナリト考ヘリ

最ニ第百十九條ノ罪ヲ減シテ第百十四條ノ
之ヲ並ニ爲シタル長官ノ罪ニ加ヘ重リカ
スヘシト考ヘリ

此等ノフトハ法律上ニ於テ熟考スヘキコト
ナリ

又其告訴ヲ受ケタル者ニテモ「ホリス」ニテハ
之ニ関セスト云ヒ其條ニカスヘキコトアレ
氏煥事ニ於テハ之ニ関セスト云ヒ其條ニカ
シ置リ可カラサルナリ 故ニ其官吏ニ於テ違
ヒアルヘキナリ

又其不正ノ禁錮ヲ並ニ爲シタルモノト其
告訴ヲ受ケタル者トハ違ヒアルヘキナリ
然ルニ之ヲ同利トカスハ其權衡ヲ得サルナ

第百二十條

本條ハ獄舎ノ監守人ニテ在リニ囚人ヲ受
取リ獄舎ヘ入レタルコトナリ
之ハ固ヨリ裁判官渡書リ又ハ其返リノ命令
書アルヘキ事ナリ

尤返リノ命令書トハ國ノ此等ニ關スル罪等
ノ疑ヒアル者ヲ取敢ヘズ獄舎ニ入レ置カレ
トスル時ニ用ユルモノナリ

一俾其監守人ニテ囚人ヲ受取ル時ハ其裁
判官渡書リ又ハ返リノ命令書ヲ警察官吏ニ
檢視セシムヘキナリ又其囚人ノ出入ヲ記
シタル簿冊ヲ以テ之ヲ檢視セシムヘキナ

リ
然ルニ之ヲ概視セシメサル時ハ即チ不正ノ
禁錮ヲカシタル者トカスナリ
之ハ固ヨリ自ラ直子ニカシルコトハアラサ
レドモ其後直子ニカシタル者ト同様ニ見カス
ヘキナリ
本宗ノ罪ハ他ノ者ノ罪ニ比スレハ輕リ極罪
トカセリ
之ハ畢竟曰然ノ監守人ナル故ナリ曰然ノ監
守人ハ常に酷ナルモノナリ
平生獄舎ノ取扱方及ヒ余令狀ノ有無ヲ以テ
檢事ハ届出ス等總テノ手続ヲ嚴酷ニカスノ
習慣ナリ

故ニ本宗ノ罪ヲ輕リカシ置キタルモノナ
リ
本宗ノ罪ハ固ヨリ其年數ヲカキタルコトノ
者ナルヘレ一俸此曰然人ハ固ヨリ禁錮ニカ
スヘキモノナラシ
其無罪カ者罪カノコトハ未ダ知ラサル場合
ノコトナリ
例ハ途中ニテ巡查ノ人ヲ捕ヘタルコトアリ
一俸之レハ「フシ」ニツセリルテボリスレ連シ
行リヘキモノナレドモ直子ニ曰然ハ連シ来リ
タル時ノコトナリ
其時監守人ニテ其令狀ナキコトヲ知リテ
邊取之ヲ獄舎ヘ入レタルモノナリ

有罪ノ者ツテ様為ニタル時ニテモ 失張有左
ノ規則ニテ罰スヘシト為スカ

然リ故令後日有罪ト決ニタル者ニテモ此規
則ハ欠ク可カラサルナリ 然レ爰ニ一篇ア

其禁錮状ノ偽造ヲ以テ連レ走リ之ヲ其監守
人ニテ知ラスエテ入レタルコトハ本条ニ記

セサルナリ若レ偽造ノ命令状ヲ以テ其ノ年
令状ナリト信ニテ之ヲ入レタル時ハ如何ト

為スカ之ハ一概ニ此規則ヲ以テ論スルヲ得
サルナリ

即チ前條ノ内ニ「モ」トルル調印ニテモ他
人ノ詭偽ニ出ルト申述ル時ハ云々トアリ故

ニ本条ノ罪ニ致テモ同ヨリ之ト同様ニ論ス
ヘキナリ

第百二十一條

中田ニテ以前ハ一省ニ属ニタル官吏ノ許ヲ
為ス時ハ其省ノ許可ヲ受ケサレハ之レヲ為

ス可カラサルナリ
例ハ該院ノ官員ハ其該院國議院ノ官員ハ其

國議院若省ノ御ハ政府上院左院ノ官員ハ其
上院左院ノ許可ヲ受ケサレハ其官員ノコト

ニ許許ヲ為ス可カラサルナリ
故ニ其許可ヲ受ケスニテ其許ヲ為ニタル者

ハ即チ院省等ヲ汚カニタル派ト為リ其刑ヲ
受ケサルヲ得サルナリ

一併上院下院又ハ回設院各有、御共外ノ官
員トモ其奉職中ハ大切ナル者ニ付其少少ヲ
政府ヨリ保護スルモ、トカス故ニ其官員
ニテ若シ罪ヲ犯シタルコトアリトカス時ハ
必ラス其院省等ノ許可ヲ受サレハ之ヲ取押
ス可カラサルモノナリ

其院者等ハ對シ之ヲ汚シタルノ罪トカス時
ハ即チ公権剝奪ノ刑ニ処セラレ、ナリ
之ハ第百十四條ニ於テ平民ノ自由ヲ害シ不
正ノ禁錮ヲ爲シタル罪ヲ以テ公権剝奪ノ刑
トカスト曰刑ニ処スルハ少シク輕キニ失ス
ルト考ヘリ

然レ自ラ違ヒアルハ何トナレハ第百十四

條ノ平民ハ無罪ナルノ時ナリ
右罪ノ時ナルト違ヒアルハナリ

其罪、有無ハ豫メ知ル可カラサルモノナリ
及令後日ニ至リ其官員ノ罪ニ有無ハ相違ア
ルトモ之ニ拘ハラズ其格式ニ背キタル者ハ
右罪トカスヘキナリ

右條ノ内ニ於テ又現行ノ罪犯或ハ衆人呼喚
ノ場合ノ外ニ云ルトナリ之ハ未文ニ入レ替ヘ
現行ノ犯罪ノ時ハ此限ニアラスト記スヘキ
ナリ

又此次文ノ宰相或ヒハ上下議院ノ官員云々
ノコトヲ上文ニ置クヘキナリ
之レハ未文ニ置クヘキコトニアラズ

第百二十二条

本条ハ裁判官職務等ニ及テ常ニ定マリタル
場所、外ニ飛テ人民ヲ禁錮シタル時ナリ
之ハ公権剝奪ノ刑ト為スナリ又此時ニ重罪
而罰局ニ及テ其重罪ナルノ言渡ヲ為サズ直
ニニ重罪裁判所へ人民ヲ引出シタル時ハ同
様ノ刑ト為スナリ

裁判官職務ニ及テ人民ヲ禁錮スルハキ所ニア
ラズレテ審リニ之ヲ禁錮スルハ即チ人民ノ
自由ヲ害スルコトナリ

重罪裁判所へ引出スル畢竟人民一般ノ面目
ニ関スルキコトナリ
故ニ固ヨリ容易ニ引出スルキモノニアラス

然ルニ当然ノ規則ヲ履カス此ノ如リ容易ニ
引出スル即チ人民ノ自由ヲ害スルモノト為
ス故ナリ

後第拾二号

刑法會議筆記

九年三月十九日

刑法會議筆記

九年三月十五日

第二百二十三条号

本條ハ官吏ニテ法律ニ背キタル事柄ヲ謀リ
 之カ为メ集會シタル等ノ犯罪ナリ然シ其事
 柄ハ何事ナリヤ實ニ曖昧トシタルモノナリ
 然シ此犯罪ハ即チ輕罪ト为シ二月ヨリ少
 カラス六月ヨリ多カラサル禁錮ノ刑ニ處
 スルナリ之ハ何事ノ犯罪ナリトナレハ先ッ
 第百二十五条トニ仍テ了知スヘキナリ
 其相談ヲ为シテ集會シタルコトニ付テハ次
 第ニ寄り流刑、追放ノ刑、死刑ト为スノ區別アリ

尤其相談ノ細目ハ即チ第百二十四條以下三
條ニ於テ之ヲ記セリ

然シ第百二十三條ノ事柄ハ全ク其以下三條
ノ事柄ト異ナルモノト見エルナリ

爰ニテハ先ツ第百二十四五六條ヲ説カント
ス第百二十三條ノ事柄ハ第百二十六條ニハ

全ク入ラサルモノナリ
第百二十四條ハ官吏數人集會シテ法律ノ施

行ヲ妨ケ又ハ政府ノ命令ニ抗スルコトノ相
談ヲ為シタルモノアリ

之ハ追放ノ刑ニ処スルナリ
例ハハ縣令ニテ新タニ入ラ撰擧スル時ニハ

先ツ其撰擧ノ目錄ヲ作ルヘキナリ然ルニ官
吏ニテ之ヲ其相当ノ期限内ニ作ラサルハ即

チ其命令ヲ妨ケタルモノナリ
又一ケ年ノ陪審ヲ撰擧スル時ニ於テモ其撰

擧ノ目錄ヲ作ルヘキナリ然ルニ之ヲ作ラス
シテ其妨ケト为ルヘキ様ニ為シタルモノナ

リ
又新タニ兵ヲ徵募スル時ニ於テモ其人各ノ

目錄ヲ作ルヘキナリ例ハハ二十歳ノ者ヲ兵
隊ニ徵募スヘシト为ス時ハ何年何月迄ニ其

二十歳ノ者何人ヲ揃ヘ置クヘキ等ノ目錄ヲ
作り之ヲ縣令ヘ出スヘキナリ

尤之ヲ縣令ヘ出スヘキ時ハ「メー」ルヘモ打令
セテ作ルヘキモノナリ然ルニ其之レヲ出ス

へキ期限迄ニ作ラスレテ其徴兵ノ余令ヲ妨
ケタルモノナリ

又ハ新タニ租税ヲ課スル場合ニ於テ一縣内
ニテハ縣令ヨリ之ヲ定メテ余令スヘキナリ
然ルニ其縣令ノ定メタル余令ヲ妨ケタルコ
ト杯モ本条ニ入ルヘキナリ

又学校ノ教師ノ集會シテ十一月三日

夏休後一月三日ナリハニ開校スヘキ場合ニ至

リ其開校ヲ為ス能ハサル様ニ為シタルコト
モ本条ニ入ルヘキナリ

此等ノ事柄ニ付テハ追放ノ刑ニ處スヘキ
ナリ

其事柄ヲ文官ノミニテ相談シタル時ハ追放

ノ刑ニ處スルナリ然シ若シ文官ト武官ト共
ニ相談シタル時ハ無期ノ流刑ト為スナリ何
トナレハ武官ト共ニ之ヲ為ス時ハ兵力ヲ以
テ壓制スル故其公益ヲ害スルコト多クレハ
ナリ

若シ其事柄ノ内ニ国ノ内部ノ安寧ヲ害スル
コト又ハ其陰謀ヲ為シタル時ハ之ヲ死刑ト
為スナリ

第百二十三條ニ於テ官吏ノ殊更ニ退職シテ
司法ノ事務又ハ裁判ノ執行ヲ妨ケントノ目
的ナル時ハ民権剥奪ノ刑ニ處スヘキナリ
例ハ当年陪審トナルヘキ目錄ヲ作ラサル時
ハ即チ司法ノ事務ヲ妨ケタルモノナリ故ニ

本條ニ入ルヘキナリ
第百二十五條ノ事柄ハ固ヨリ疑ヲ入レズ判
然セリ

第百二十五條モ一体ノ事柄ニ於テハ判然セ
ズ然レモ内乱ヲ起サントノ為メナルカ又
ハ政府ヲ覆サントノ為メナルヘシ

第百二十五條ハ固ヨリ官吏ニ於テ真相談ヲ
為シタルコトニ付重ク定メタルモノナリ其
事柄ヲ已テニ行ヒタルト未タ行ナハサルト
ニ拘ハラヌ死刑ト為スハ即チ之ヲ重ク罰ス
ル譯ナリ

然レ通常ノ者ノ之ヲ為シタル時ハ第百十九
條ノ主意ニ仍テ罰スヘキナリ

總テ相談ノミニテ未タ其事柄ヲ实地ニ行ハ
サルコトナリヤ

然リ只真相談ノミノコトナリ
前條ニ於テハ其陰謀ヲ已ニ為シタルコトナ
リ

第百二十四條ニ於テ妨ケタルコトモ矢張其
相談ヲ為シタルノミナリヤ

然リ之モヤハリ相談ノミナリトス

第百二十六條ノ主意ハ別ニ疑ヲ入レサル
コトナリ

第百二十五條ノ固ヨリ其職務ヲ妨ケタルモノ
ナリトス

第百二十三條ハ司法上ノ事務ヲ妨ケ法律ニ背キタルコトナリ

然ラハ第百三十四條ハ職務ヲ妨ケタルコト、為スヘキカ又ハ妨ケタルコト、為サ、ルカ

前ニ説キタル縣令ノ租税ヲ課シタル時ニ於テ目錄ヲ作ラスシテ其命令ヲ行ハサル様ニ為シ又ハ徵兵ノ時ニ於テ矢張之ヲ作ラサルコトモ之ヲ推シ究ムレハ即チ其職務ヲ妨ケタルモノニアラスヤ故ニ此等ノ事柄ヲ以テ其職務ヲ妨ケタリト為ス時ハ例ヘハ人民ノ集會スルコトヲ禁スルノ命令ヲ出シタリトモ官吏ニテ其禁令ヲ妨ケテ其儘集會セシメ

タリ之ハ即チ政府ノ命令ニ背キタルモノナレ氏職務ヲ妨ケタリト為サ、ルヲ得サルニアラスヤ

然シ職務ヲ妨ケタルコト、政府ノ命令ヲ妨ケタルコト、ハ違ヒアリ

之ヲ要スルニ其禁シタルコトヲ用ヒス其終ニ為シタルコトハ其職務ヲ妨ケタルコト、ハ自ラ違ヒアリト為スヘキナリ

故ニ第百三十四條ハ其禁シタルコトヲ用ヒス其儘為シタルコトナリ仍テ其職務ヲ妨ケタルモノニアラス

又政府ヨリ出板條例ヲ出セリ例ヘハ以來新聞紙ノ出板ハ保証金ヲ出スヘシトノ命令ヲ

為セリ然ルニ或縣下ノ人民ニ於テハ其保証
金ヲ出スコトヲ欲セス故ニ其官吏ニテ之ヲ
出サ、ル様ニ為シタリ

之ハ其命令ヲ背キタルコトナリ仍テ矢張職
務ヲ妨ケタルモノニアラス

第百二十三、四條ノ法律ニ背キタリト云フハ
如何ナルコトナリヤトナレハ例ハ拷問ヲ用ユ
ルコトヲ政府ヨリ禁シタリ然ルニ官吏ニテ
之ヲ其以前ノ儘ニ用ヒタル時ハ即チ第百二
十三、四條中ニ入ル可キナリ

改ニ此等ノコトハ其職務ノ妨ケヲ為シタル
モノニアラス

然ルニ拷問ハ用ユヘシトノ命令ヲ為シタリ

其時ニ之ヲ用ヒサル時ハ如何ト為スヘキヤ
トナレハ其職務ヲ妨ケタル部類ニ入レルヘ
キニ似タリ且其職務中ノコトナレ氏之モ職
務ヲ妨ケタルコト、一様ニ見為サス矢張第
百二十三、四條中ニ入レルヘキナリ

例ハ法律ノ講義アリ之ヲ為ス可カラスト政
府ヨリ命令アルヲ尚引続キ為シタル時ハ第
百二十四條ニ入レルヘキカ又ハ第百二十六
條ニ入ルヘキカトナレハ總テ禁シテ為ス可
カラスト命令シタルコトヲ為シタル時ハ即
チ法律ニ背キタルモノニテ第百二十四條ニ
入ルヘク又為スヘシト命令シタルコトヲ為
サ、ル様ニ為シタル時ハ即チ職務ヲ妨ケタ

ルモノニテ第百二十六条ニ入レルヘシ
然シ其為スヘキ事柄ヲ妨ケテ為サシメサル
様ニ謀リタルヨリシテ国内ノ内部ノ安寧ヲ害
スル時ハ死刑ニ処シ又為ス可カラサル事柄
ヲ為サシメタル時ハ追放ノ刑ニ處スルナリ
常務トシテ為スヘキコトヲ妨ケテ為サシメ
サル時ハ其為サシメサル時間長シ故ニ公益
ヲ害スルコト多シトス
且第百二十四条ハ一時ノ事柄ニ付テ妨ケテ
為シタルコトナリ
第百二十五条ト同六条トニ於テハ常務ヲ妨
ケテ為シタルコトナリ
第百二十六条ニアル職務ヲ妨クルト云フハ

常務ノコト云フ

一体政府ノ命令ニ背キタルト一局ノ職務上
ヲ妨ケタルトハ政府ノ命令ニ背キタル方ヲ
重シト為スヘキ理ニアラスヤ

其主意ハ同シコトナリ

例ヘハ「ホリス」ハ司法警察ノ官吏ナレバ外国
人ハ容易ニ捕フルコトヲ得ス故ニ現行ノ犯
罪ナレハ直チニ捕フヘシト虽現行ノ犯罪
ニアラサル時ハ之ヲ其外国ノ「コンシユル」ヘ
届ケタル上捕フヘシト兼テ政府ノ命令アリ
タリ然ルニ「ホリス」ニテ其命令ニ背キタル時
ハ即チ第百二十六条ノ職務ヲ妨ケタルコト
、為スカ又ハ第百二十四条ノ法律ノ施行ヲ

妨ケタリト為スカ之ハ決シテ職務ヲ妨ケタルモノニアラス

前説ハ總テ第百二十三條ト第百二十六條トニ於テ各具異ナル所アルコトヲ説キタルモノナリ

然ルニ第百二十六條ノ内ニ於テハ何事ヲ以テ第百二十三條ニ引当ツヘキヤ分明ナラス甚タ困却スル所ナリ

政府ノ命令又ハ法律ニ背キタルコトハ第百二十四條ニ出セリ

又制限シタルコトヲ為シタル罪ハ第百二十四條ト第百二十六條トニ入ルヘキナリ

然レ政府ヨリ命令シテ為スヘシト定メタル

コトヲ官吏ニテ相談シテ之ヲ為サ、ル様ニ妨ケタルコトハ即チ第百二十三條ニ入ルヘキナリ

一体人民ノ私權ヲ行フハ法律上ニ於テ許シタルコトナリ

然ルニ其私權ヲ行フコトヲ官吏ニテ相談シテ行ナハシメサル様ニ為シタルコトハ即チ第百二十三條ニ入ルヘキナリ

改ニ之ヲ約言スレハ第百二十三條ハ總テ法律ニテ許シタルコトヲ官吏ヨリ為サ、ル様ニ其妨ケヲ為シタルコトナリ

又第百二十四條ト第百二十六條ハ總テ命令シタルコトヲ為サシメサル様ニ為シタルコ

トナリ尤職務ニ付命令シタルコトヲ妨ケタル
ル罪ハ第百二十六条ニ入ルヘシ
然レ此ニケ条ノ内ニ於テ改メサル可カラサル
ル事アリ

即チ第百二十四条ノ追放ノ刑ヲ第百二十六
条ノ公権剥奪ト入替其輕重ク分ツヘキナリ
ト考ヘリ

此一款中第百二十五六条ハ解シ得ヘキナレ
トモ第百二十三四条ハ甚タ解シ難キコトナ
リ

其内殊ニ第百二十三條ハ解シ難キ者ナリ

一併第百二十五条ノ罪ハ其刑ヲ重キニ失セ

第百二十七條

本條ハ行政官吏ト司法官吏トニ於テ其權限
ヲ犯シタル罪ヲ記シタルモノナリ

第一項ニ裁判官檢事長云々立法ノ權ヲ行フ
ニ干涉シタル時トアリ

本項ハ即チ本項中ニ記シタル官吏ニ於テ立
法權ヲ行フニ干涉シタルコトヲ云フナリ

第二項ハ「アトミシター」チヨシノコトニ干涉
シタルコトナリ

第一項ハ立法權ニ干涉シタルコトナリ
第二項ハ行政上ノ權ニ干涉シタルコトナ
リ

之ハ其罪ヲ同刑ニ罰スルナレ氏一体ハ不過
当ナリトス

立法権ニ干涉シタルコトハ行政権ニ干涉シ
タル罪ヨリ重ク為スヘキナリ

第一項ハ立法権ヲ犯シ第二項ハ行政権ヲ犯
シタルトトナリトノ説キ明ナリ然レ表題ニ

ハ行政権及ヒ司法権ヲ侵シタル罪トアリ
一体行政権ノ者ハ司法権ヲ侵シ司法権ノ者

ハ行政権ト立法権トヲ犯シ易キ者ト為ス
此表題ノ訳文ニ少シ相違アリ之ヲ直訳スレ

ハ
行政権及ヒ司法権ノ者ニテ行政権司法権立
法権ヲ侵シタル罪ト為スヘキナリ

然ラハ立法権ノ者ニテ司法権又行政権ヲ侵
シタルコトハ此所ニ入ラサルナリ

立法権ノ者ハ司法権行政権等何事ニテモ為
ル可カラサルコトナシ

立法権ハ何人ニテ之ヲ有スルトナレハ全国
ニ於テ皇帝ヨリ外之ヲ有スルモノナシ

皇帝ハ即チ立法司法行政ノ権ヲ有スルモノ
トス

仍テ立法権ノ者ハ其他ノ権ヲ侵スコトナキ
訳ナリ

例ヘハ議院又ハ「セナー」ニテモ行政上ノ事務
又ハ裁判上ノ事務ニ干涉スヘシト虽モ直ニ

干涉シテ其実地ノ事柄ヲ処分スルヲ得ス

若シ議院又ハ「セナー」ニテ直チニ干渉シテ為
シタル時ハ皇帝ニテ其裁判ヲ為シテ破棄ス
ヘキナリ

其時ハ之ヲ裁判所ヨリ呼出シテ罰スルコト
能ハサルナリ

本条ノ議院ハ次會ニ譲ルヘシ

後第十三節

刑法會議筆記

九年三月二十日

九年三月二十日

第二百二十七條

第一項ハ司法權ノ者又ハ行政權ノ者ニ於テ
立法權ニ于涉シタルコトヲ云フ之ハ公權剝
奪ノ刑ニ處スルナリ

第二項ハ司法權ノ者ニテ行政官ノ命令レタ
ルコトヲ禁シ其行政權ニ于涉シテ自己ノ權
限ニ過キタル所行ヲ爲シタル時等ヲ云フ之
モ公權剝奪ノ刑ニ處スルナリ

第二項ノ行政權ニ于涉シタルコトハ第一項
ノ立法權ニ于涉シタルコトヨリ其罪ヲ輕ク
爲シテ可ナルヘキモノナリ然ルニ之ヲ曰刑

ニ處スルハ不適當ナリト考ヘリ
第一項ノ立法権ニ干渉シタルハ即チ國ノ主
権ヲ侵シタルモノナリ
第二項ノ行政権ニ干渉シタルハ官吏ノ内ニ
テ巨ニ其権限ヲ侵シタルモノナリ
故ニ主権ヲ侵シタル罪ヨリ輕ク為サ、ル可
カラサルナリ
第二項ノ裁判官換事長云々「行法ノ事務ニ関
スル規則ヲ立テ又云々以下ハ總テ其権限ヲ
侵シタルコトノ細目ヲ記シタルモノナリ
行政権、官吏ハ司法裁判所へ呼出シテ裁判
スルヲ得ス又司法権ノ官吏ハ行政官廳へ呼
出レテ裁判スルヲ得サルナリ

故ニ若シ其裁判ヲ為シタル時ニ於テ其権限
ヲ侵シタルコトノ告知ヲ受ケタリトモ之ヲ
用ヒテ中止セス其後尚引續キテ裁判ヲ為レ
タル時ハ即チ公権剥奪ノ刑ニ處スルナリ
**行政上ノ官吏ハ司法裁判所へ呼出スヲ得ナ
ルト云フハ一体ノ原則ナリヤ**
然リ行政官吏ノ職務上ノ事柄ニ付テハ司法
裁判所へ呼出シテ裁判スルヲ得テル原則ナ
リ仍テ第二項ハ行政権ノ官吏ト司法権ノ官
吏ト其権限ノ争ヲ生シタルコトヲ記シタル
モノナリ
故ニ第一項ノ立法権タル主権ヲ侵シタル罪
ト第二項官吏同志権限ノ争ヲ生シタル罪ト

曰刑ニ為スハ不適宜ナリ

故ニ第一項ヲ尚一層重キ刑ト為スカ又ハ第一項ヲ少シク輕キ刑ト為スヘキ方適當ナリト考ヘリ

行政権ノ官吏ニテ裁判権ヲ侵レタル時ハ如何

之ハ第一三〇条ニ明文アリ曰条ニ至テ詳説スヘシ

第一二七条ノ第二項ニハ第一二八條連合シテ説カサルヲ得ス

第一二七条ノ第二項ハ行政権ノ事ニ就テ司法権ノ官吏ヨリ裁判スルヲ得サル原則ニ背キ之ヲ為シ其言渡レテ取消スヘキ余ヲ受

ケタリトモ其後尚中止セス別統キテ執行タルコトナレト第一二八條ハ其言渡ヲ為シタルノミニテ之ヲ中止シタルコトナリ

仍テ其罪ヲ輕クシテ第六ノ第三項ヨリ少カラス而モ十ノ第三項ヨリ多カラサル罰金ト為スナリ

之ハ故意ニテ為レタルコトニハアラサルハ

最初故意ニテ為レタルコトニアラサルトモ其告知ヲ受ケタル上ハ中止セサルヲ得サルナリ然ルニ尚之ヲ中止セサル者ナリ仍テ其罪アルモノト為スナリ然レ其権限ニ過キタルコトニ心付カスレテ

為レ遂ケタル時ハ固ヨリ其罪ト為サ、ルナ
リ例ヘハ行政上ノ事ニテ縣令ノ裁判スヘキ
コトヲ司法裁判所ニテ裁判レタリ仍テ縣令
ヨリ之ハ行政上ニ管スルニ付其裁判ヲ中止
スヘシト換事ハ概合ニ換事ヨリ裁判官一之
ヲ求メリ然ルニ裁判官ニテハ全ク行政上ニ
管セサルモノ見込其裁判ヲ為レ遂ケタリ
然ル上ハ其縣令ヨリ某地ノ司法裁判所ノ裁
判ハ権限ニ背キタルニ付之ヲ執行スル可カ
ラズト云フ布達ヲ為スヘキナリ
其縣令ノ告知ノ時ニ於テ中止セサルハ即チ
権限ノ爭ヲ生スル所以ナリ
故ニ其権限ニ背キタルコトヲ中止セサルノ

罪アリト為スナリ
之ハ第百二十七條第二項ノコトナリ
縣令ニテ某地司法裁判所ノ裁判ハ権限ニ背キ
タルニ付執行スル可カラズト云フハ人民ハ布達ヲ
為スカ又ハ裁判所へ概合送ノコトナリヤ
之ハ概合ニヤラス原語ニテ「アレテ」ト云フ
即チ布達スルコトナリ
縣令ヨリ換事へ概合之ヲ中止スル時ハ其裁
判ハ其係直チニ取消レト為ス款ケナリヤ
縣令ヨリ換事ノ手ヲ経テ其裁判スヘキコト
ニアラサル旨ヲ告知スルトモ尚之ヲ固執シ
テ中止セサル時ハ縣令ニ於テ其権限ニ背キ
タル裁判ナリト決定シ其決定書ヲ司法裁判

所へ送達スルナリ然ル時ハ其裁判ノ言渡し
ヲ執行スルヲ得サルナリトス
其裁判ヲ中止セシメタリトモ縣令ニテ之ヲ
裁判スルヲ得ス此權限争ヒ、裁判ハ國議院
ニテ為スヘキコトナリ

此訳文中ニ「言渡しヲ取消トアルハ其執行ヲ中
止スルコトナリヤ又ハ全ク其裁判ヲ取消ス
コトナリヤ

其裁判言渡し以前、於テ縣令ノ裁合アリシ
時ハ速ニ其裁判ヲ中止レ^{コト}國令ニ裁合アリシ
於テ其權限争ヒ、裁判ヲ受クヘキナリ

然レ裁判言渡し以後ニ至テハ縣令ヨリ決定書
ヲ送達シテ之ヲ以テ中止セシメ置矢張^{コト}

セ^レデ^タリニテ權限争ヒ、是非ヲ審判シ其裁
決書ニ依リテ最初ノ裁判ヲ全ク取消スヘキ
ナリ

其國議院ノ裁決書ハ以前ハ皇帝ノ名ヲ以テ
記シタリ現今ハ共和政事ノ國議院ノ名ヲ以
テ記スヘキナリ

例ハ工部省ニテ省中ノ工事ヲ為スコ又ハ
鉄道傳信ヲ作ルヘキコトニ付工部省ト受負
人ト約定ヲ為セリ然ルニ其約定ニ背キ不十
分ナル工事ヲ為セシニ付工部省ト受負人ト
ノ事ニ生シタリ

但シ内務省海軍省或ヒハ司法省等ニテ此ノ
如キ異論ヲ生シタル時モ同様ナリトス

此不十分ナル工事ヲ為シタル争ハ即チ行政
上ノ事柄ニ付其約定レタル工部省ニ於テ其
長官自ラ裁判スヘキコトナリ

其時東京裁判所ニテ其裁判ヲ為シタリ仍テ
工部省ヨリ之ハ行政上ノ事柄ニ付其裁判ヲ
中止スヘント檢事ハ裁合檢事ヨリ其裁判官
ヘ之ヲ求メタリ然レトモ自令ノ己ニ為シタ
ル裁判ヲ相当ナリトシテ之ヲ中止セズ執行
セント固執シテ其言渡書ヲ工部省ヘ送達シ
タリ

之ヲ工部省ニテハ如何シテモ司法裁判ニテ
裁判スヘキコトニアラストシテ其執行ヲ中
止セシメタリ然ル上ハ其終ニ為シ置クヘキ

ニアラス仍テ直チニ「ゴンセーデター」ニ言立
タリ故ニ「ゴンセーデター」ニ於テ其権限争ヲ
裁判スルナリ

例ヘハ司法省中ニテ日用ノ薪炭筆紙墨買上
方又ハ修繕等ニ付其代償ノ相連又ハ品物ノ
相連ニ仍テ司法省ト受員人ト争論ヲ生シタ
ル時司法省ニ於テ長官之ヲ裁判シタリ之ハ
固ヨリ行政上ノ事柄ニ付矢張司法省ノ権限
中ノコトナリ故ニ不可ナリトセサルナリ
然レ例ヘハ大蔵省ニ官有ノ山林ヲ賣下ケ其
買人トノ間ニ争論ヲ生シ其買人ヨリ訴出テ
タルヲ以テ司法裁判所ニテ裁判シタリ仍テ
其地ノ縣令ヨリ之ハ大蔵省ヘ訴出ツヘキコ

ト、見做シ檢事ハ概合タレト司法裁判所ニ
於テ之ヲ中止セサリシナリ

前説ノ工部省ノ工事ヨリ生シタル争論又ハ
司法省ノ筆紙墨等ヨリ生シタル争論ハ小事
ナレト行政権ノエトナリ故ニ司法裁判所ニ
テ之ヲ裁判スルハ不適當ト为ルナリ

然レ後説ノ大蔵省ノ山林賣下ケヨリ生シタ
ル争論ハ即ケ政府ヲ無恥ノ人ト見为シ人民
一般ノ契約ト同様ニ見为ス一キモ、ナリ故
ニ縣令ヨリ大蔵省ニ代リ其権限ヲ争フハ不
適當ト为スナリ

尤モ斯ノ如キコトハ通常了ルヘキコトニア
ラス殊ニ日本ニテハ司法権ト行政権トノ事

柄ニ付未タ判然區別シタル方法ナカルヘト
例ヘハ司法省ノ構内ヘ建築スル等ノ事柄ハ
固ヨリ行政権ニ關スルモノナレト文部省ニ
テ各所ニ管轄地アリ其内ヘ建築スル等ノ事
柄ニ付訴訟ノ起リタル時ハ行政上ニ屬スヘ
キコト、为スカ又ハ司法上ニ屬スヘキコト、
为スカ

例ヘハ開成学校ノ構内ニ教師館ヲ建築セリ
之ハ固ヨリ疑ヲ入レスレテ行政上ニ屬スヘ
キコト、为ス何トナレハ人民ノ公益ヲ計リ
文部卿ノ特権ニテ建築シタルモノナレハサ
リ
然ルニ其各所ノ管轄地ノ内ヘ之ヲ建築ホレタ

ルモノハ全ク行政上ニ属スヘキコトニアラ
ス何トナレハ御雇ノ外国教師ノ為ノナレ
其教師ノ帰国シタル後ハ其家屋ヲ一般ノ人
民ニ貸渡シ利益ヲ得ヘキモノナリ仍テ之ハ
矢張通常ノ官有物ト見做スヘキモノナレハ
ナリ

又例ハ政府ノ船ヨリ人民ノ船ヲ覆没シタ
リ但レ双方人民ノ船ナレハ他國ニテハ固ヨ
リ高法裁判所ニ訴出ヘキコト、為スナリ然
ルニ一方ハ政府一方ハ人民ナリ故ニ之ハ人
民ヨリ政府ヘ向テ其損害ノ償ヒヲ求メサル
ヲ得サルナリ

其時ハ固ヨリ縣令ニテ裁判スヘキニアラサ

ルハ言フ俟タス仍テ司法裁判所ニ訴出ヘキ
カ又ハ海軍省ニ訴出ヘキカノニツニ限ルヘ
キナリ

故ニ司法裁判所ニ於テ其裁判ヲ為シ撤ケタ
リ然ルニ其時縣令ヨリ中止センコトヲ撤合
ヒタレハ其司法裁判所ニテ其裁判ヲ為シ遂
ケタリ仍テ其権限ノ争ヲ起シコトニテ
止マテ之ヲ裁判シ即チ司法裁判所ニテ為ス
ヘキコト、決定セリ

之ハ畢竟其過誤ヨリ人民ニ損害ヲ被ケタル
モノナレハ固ヨリ行政権ノコトニアラス一
般ノ人民同志ニテ損害ヲ被ケタルト同様ノ
コトニ見做スヘキナリ故ニ「コンバ」テタ

ニ於テ此ノ如ク決定シタルモノナリ
然レ戦争中調練ノ折柄弾丸ニテ人民ノ船ヲ
覆没シ損害ヲ被ケタル時ハ行政権ニ屬スヘ
キニ付即チ海軍省ニテ裁判スヘキコト、為
スナリ
之ニ反シ人民ノ船ヨリ海軍省ノ船ヲ覆没セ
レタリ之モ矢張前説同様司法裁判所ニテ
裁判スヘキコト、為スナリ
前説ハ政府ノ被告人ト为リ後説ハ政府ノ原
告人ト为ルノ事ニヒ、此ニテ其事柄ニ於テハ
固ヨリ同様ノ理ナリ
斯ノ如キ場合ニ於テハ司法権ノ者ハ自令ノ
権内ト为レ行政権ノ者モ同レク自令ノ権内

ト为ス等ニテ且ニ其権限ノ争ヲ生レ易キコ
トナリ
然レ此権限ノ區別ハ固ヨリ豫メ定メ置クコ
トヲ得サルモノナリ
政府ノ船ト人民ノ船トノ衝突一件ニ付特別
ノ裁判ヲ設クルノ可否ヲ説クトモ不都合ア
ラサルヤ
先ツ佛國ノコトニ托シテ之ヲ説カントス
一休憲法上ニ於テハ特別ノ裁判ヲ設クルハ
嚴禁ト为スナリ
況ンヤ其事柄ノ成立ケタル後ニ至リ俄カニ
之ヲ設クルハ殊ニ不條理ナリ
兼テ刑民高ノ裁判所ヲ設ケアルニハ其訴訟

ノ事柄ニ寄リ夫々適宜ノ裁判所ニ出テ其裁
判ヲ受リヘキコトハ一定セル故人民ニ於テ
ハ他ニ疑念ヲ生スヘキコトナキ筈ナリ
裁判所ノ設ケアルハ畢竟刑民高ノ區別ヲ以
テ人民ノ訴訟アルコトヲ豫メ待テ受ケタル
モノナリ

然ルニ其事柄ノ成立ケタル後ニ至リ特別ノ
裁判ヲ設クル特ハ已ニ刑民高ノ裁判所アリ
ト云モ人民ニ於テ訴訟セントスル時ニ至リ
常ニ何レニテ裁判ヲ為スヘキヤトノ疑念ヲ
生スル患ヒナリ

且或ハ人民ニテ其時々裁判官ト为リタル者
ノ私ヲ以テ偏頗ノ裁判ヲ為スヘキヤトノ疑

團ヲ抱リノ恐アルナリ

以上ハ持別裁判ヲ設クルノ可否ヲ説ケリ以
下又本条ニ附テ説カントス

司法權ト行政權ト區別ヲ分ツハ最モ良法ナ
リ

然レ現今仏國ニテ定ムル所ノ區別ハ人民ニ
於テ十分ノ都合ヲ得満足スヘキコト、為サ

ズ
故ニ前ニ説タル如ク司法省又ハ文部省等ニ

於テ人民ニ関レタル行政裁判ヲ為スコトア

リトモ之ハ悉ク正レキ裁判ヲ為レ得ヘレト

必レ難キコトアリ現今ハ仏國ノ政事ハ漸進
ノ共和黨ノ論ニ歸セリ

故ニ此後十年間モ過キタレハ行政裁判ノ方
法モ更ニ適宜ノ規則ヲ定ムヘレハ考ヘリ
然レ司法権ト行政権トノ争ヲ生シ己ニ言渡
レタル裁判ヲ中止シタル時ハ尙國議院等他
ノ所ニ於テ特別ノ裁判ヲ為サ、ルヲ得サル
ナリ
自分ハ文部卿ノ管轄中ノ者ナリ然レ三ヶ年
ノ休暇ヲ得テ日本へ来リタリ
故ニ此日本へ来リタルコトニ付文部省ト争
ヲ起シタル時ハ矢張文部卿ノ裁判ヲ受ケサ
ルヲ得ス
故ニ其時ハ或ヒハ文部省ノ都合ノ能キ様ニ裁
判ヲ為スヤモ計ヒ可カラサルナリ

然レ氏若シ其裁判ニ不服ナレ時ハ國議院へ
控訴ヲ為スヘキニ付其上ノ保証ヲ得ヘキナ
レ氏文部卿ノ初審裁判ノ時ニ於テハ其保証
ヲ得ルコトヲ必レ難シト為ス
例へハ仏國ニテハ仕官ノ者ハ退隱料ヲ出
セリ之ハ三十年間勤メ續タル者ハ其退隱料
ヲ出スリ定メナリ然ルニ自分ノ退隱セント
スル時ニ至リ文部卿ニ於テボアソナリトヘ
ハ其退隱料ヲ出スヘカラス何トナレハ三ヶ
年間日本ニ雇ハレタリト云フヘシ然レ自分
ハ日本ニ雇ハレタリトモ矢張其職務ヲ帯ヒ
来リタルニ付同ヨリ文部省ノ職務ヲ欠キタ
ルニアラサル旨ヲ以テ之ヲ文部卿ニ訴ヘ出

其裁判ヲ受ケサルヲ得サル等ハコトヲ行
改裁判ト去フヘキナリ
若シ日本ニテ行政裁判ヲ設クルナレバ司法
裁判ト混セサルノ區別ヲ以テ設クヘキナ
) 仙国ニ先キ立格別ノ良法ヲ立テ之ヲ設ケラ
レシコトヲ要スルナリ
行政裁判ノ權限ハ先ツ如何ナル種類ヲ以テ
之ニ屬スヘキヤ
己ニ説ク所ノ種類ノ内ニテ其區別ヲ判然ト
定ムヘキナリ
然レ其區別ハ仙国ニテモ未タ確定シタル書
物等ナレ故ニ先ツ其職務上ノ支拂ニ付テ其

區別ヲ分テ權限ヲ定ムルモノト為ス
以上ハ只其原則ヲ説キタル迄ナリ
之ヲ要スルニ國ノ私權ニ管スルコトハ司法
裁判ニ屬シ公權ニ管スルコトハ行政裁判ニ
屬スルコト、為スナリ
共和八年ノ立法ニ於テ縣廳ノ裁判ヲ設ケタ
リ之ハ只七ヶ条ノ規則ヲ定メ全ク特殊ノコ
ト、為シタリ故ニ其七ヶ条ノ外ノ事柄ニハ
何事モ拘ハラス關係スルヲ得サルナリ
行政裁判ト去フハ畢竟其縣廳ノ裁判ヲ一步
進メタル方法ノモノナリトス
之ハ固ヨリ良法ナレ其裁判官ハ不裁ノ權
ヲ有スルモノニアラス故ニ今日裁判權ヲ行

スルトモ翌日ハ免職セララル、ヤ計リ難キモ
ノナリ

仍テ自令ノ考ニハ矢張不拔ノ權ヲ有スル一
種特別ナル裁判官ヲ設ケ置クヘント為スナ
リ

其一種特別ナル裁判官ヲ設ケ之レニ總テ行
政上ノ事務ノ裁判權ヲ委任レテ裁判セシム
ヘキナリ

然レ其裁判官ハ不拔ノ權ヲ有セシムヘキコ
トナリ

固ヨリ其裁判ヲ為ス時ハ一人ニアラス三人
ニテ之ヲ為スコト、定ムヘキナリ

仙國ノ戦争ノ時ハ巴里斯ハ四面トモ敵共ニ

圍マレタリ其時ハ巴里斯ノ近傍ノ人家ヲ取
松ハサルヲ得ス即チ巴里斯ヨリニコトメト
ルノ間ノ人家ハ残ラス取松ハシメタリ之ハ

陸軍省ニテ命令ヲ出シタルモノナリ

其時人民ヨリ此損害ノ償ヲ何人ニ向テ求ム
ヘキヤトナレハ固ヨリ陸軍省ノ公權ヲ以テ

命令シタルコトニ付即チ陸軍省ヘ向テ之ヲ
求ムヘシト為スナリ

故ニ其時ノ裁判ハ陸軍卿一人ニテ之ヲ為シ
タリ尤全ク陸軍卿一人ニアラス外ニ立會ヒ

タルモノモナリシナレ其後之モ矢張縣廳
ノ裁判ニ屬スヘシトノ論アリ但シ三人以上

ノ裁判官ニテ為スヘキコト、定ムナリタリ

リ
コ
ン
セ
ー
テ
タ
ー
シ
ハ
素
ヨ
リ
不
拔
ノ
権
ヲ
有
ス
ル
裁
判
官
ヲ
撰
定
シ
置
ク
ヘ
キ
ヲ
良
法
ト
為
ス
ナ

後第十四号

刑法會議筆記

九年三月廿五日

九年三月二十五日

第二百二十八條

本條ハ縣令ヨリノ裁合ノニテ國議院ヨリ
其裁判ヲ取消スヘキ旨ノ命令アラサル前ノ
コトナリ仍テ其抵抗スルコト少シトス
前條ハ縣令ヨリ裁合ニ其上國議院ヨリノ命
令アリシ後ニ至リ尚之ヲ中止セシテ行ヒ
タルコトナリ仍テ其抵抗ヲ為スコト多シト
ス
前條ハ國議院ノ命令ヲ用ヒシテ裁判ヲ行ヒ
タルコト後條ハ縣令ノ裁合ニ構ハスレテ裁
判ヲ為シタルトシコトナリ

此ニケ條、區別ハ判然セリ故ニ能ク之ヲ弁
知スヘキナリ

尤前條、如ク權限爭ノ以前ニ裁判言渡ヲ為
シタル時ハ縣令ヨリ掛合ヒタルノミニテハ
濟マス國議院ニテ其曲直ヲ裁判スヘキナリ
仍テ其最初ノ裁判ヲ取消スヘシト命令シタ
リ然ルニ尚其裁判ニ抵抗シタルモトナリ故
ニ之ヲ重ク罰スルナリ

後條ハ之ト連ヒ縣令、掛合ニ構ハスレテ裁
判ヲ為シタルノミトナリ故ニ之ヲ輕ク
罰スルナリ

最初ノ裁判ヲ取消スハ國議院ニ限レルコト
ニテ縣令ハ之ヲ取消スコトヲ得サルナリ

又換事ハ縣令ノ掛合ニ依リ其裁判ノ中止ヲ
求ムルヲ以テ當然ノ職務ト為スナリ然ルニ
若シ之ヲ求メス却テ裁判官ト共ニ裁判スヘ
シト云フ時ハ即チ附從ト為シテ同罪ニ罰ス
ヘキナリ

第百二十九條ハ全ク別事ナリトス本條ハ人
民ヨリ公ケノ官吏ヲ相手取訴訟ヲ為スコト
ヲ云フ

或官吏ニ對シテ訴訟ヲ為ス時ハ豫メ國議院
ノ允許ヲ受ケサル可カラサルナリ
若シ之ヲ受ケスレテ訴訟ヲ為シタル時ハ建
國法ヲ妨害シタルノ罪ト為ルナリ
本條ノ法ハ共和八年ヨリ十八百七十年迄引

續キテ用ヒタルモノナリ
然ルニ同年九月十九日ノ命令ニ仍テ此法ヲ
廢セリ

本條ノコトハ一体共和八年ノ建國法ノ第七
十條ニ掲ケタル法ナリ

故ニ其第七十條ヲ廢シタル以來ハ公ケノ
官吏ニ對シタル訴訟ニ付其院省ノ允許ヲ受

タルニテ續テ為スニ及ハサルナリ
故ニ其以來本條ノ法モ併セテ之ヲ廢シタル

モノト為セリ
現今ハ官吏ニ對シタル訴訟ニ就テハ全ク本

條ノ法ヲ用ヒスレテ可ナリト為セルヤ
然リ現今ハ何人ナリモ官吏ヲ相手取直キニ

訴訟ヲ為シ得ヘキナリ
此法ヲ廢セシ時ハ妾リニ官吏ヲ相手取リ粗

忽ノ訴訟ヲ為サ、ル為メ更ニ之ヲ罰スヘキ
別法ヲ設クルノ積リナリ然レ未タ其別法ハ

設ケサルナリ
尤裁判官等ニテ或官吏ニ對シ粗忽ノ告訴ヲ

為シタル時ハ罰セラレ、ナレト人民ニテ官
吏ニ對シテ訴訟ヲ為シタル時ノ法ハ未タ設ケ

サルナリ
復令ニ議院又ハセナレノ官員ニテモ直ケニ

裁判所ニ呼出レ得ヘキヤ
其方法ハ第一條ヲ着テ了知スヘシ

議院ノ官員ハ會議ヲ開キタル時中ハ直ケ

ニ告訴スルヲ得ス必ス議院ノ允許ヲ受クヘ
キナリ然レ現行ノ犯罪ニ付テハ之ヲ受ケス
レテ可ナリト為ス

一 議院ノ官負ハ六ヶ月間ノ會議中ノ其
職務ヲ奉スルモノナリ故ニ其時間ハ允許ヲ
受ケスレテ告訴等ヲ為ス可カラサレモ其他
ノ場合ニ於テハ直ニ之ヲ逮捕スルトモ可
ナリトス

此條中ニ法律上ニ定メタル允許ナリト云々ト
アリ

故ニ直ニ其告訴等ヲ為スヲ得サレモ上院
下院等何レモ其各院限りノ規則アリ仍テ其
規則ニ據ケタル法ニ循テ時ハ固ヨリ此條ノ

法ニ拘ハラサルトモ然ルヘキナリ
故ニ其院省ノ規則ニハ必ス背ク可カラサル
コトハ為スナリ

第百二十九條中ニ關係本人云々トアリ之ハ
被告人ノ關係本人ニ限ルヘキナリ

之ヲ只關係本人トシ記セルニ仍リ原被告
人ノ内何レノ關係本人ナルヤ不分明ナリ然
レ原告人ニテハ其裁判ノ中止ヲ求ムルノ理
ナレ故ニ必ス被告人ノ關係本人即チ子孫又
親族ヨリ被告人ノ身ヲ保護スル為メ其裁判
ヲ中止センコトヲ求メタルモノト為スヘキ
ナリ

又其他行政官吏ニ於テ其被告人ノ身ヲ保護

スル為ノ其掛合ヲ為スヘキヤリ
之モ矢張官吏ニ聞スル事柄ナリ

一方ハ官吏一方ハ通常ノ者ナリトス

關係本人ト云フハ「アジャレン」ニテ之ヲ為スヘ

キヤ

然リ「アレヤレン」ニテ之ヲ為ストモ不可ナレ尤
關係本人トハ即チ被告人又ハ其子孫又ハ親
族等ニテ其求メヲ為シタルコトヲ云フナリ
之ハ決シテ原告人ノ為メニ得ヘキコト
ト見為ス可カラス何レモ被告人ヲ為メニ
為スヘキコトナリト了解セリヤ

例ヘハ火藥製造所ヲ設ケンカ為メ河水ヲ引
テ水車ヲ仕掛ケタリ其河水ヲ引クコトハ縣

令ノ命令書ヲ以テ其許可ヲ受ケサル可カラ
サルモノナリ

然ルニ縣令ニテ一旦之ヲ許可レ其後ニ至リ
又俄ニ禁止スルノ命令書ヲ出レタリ故ニ其
製造所ヲ設ケタル者ニテ縣令ノ自任ノ命令
書ナリ且夫カ為メ損害ノ償ヲ求メサルヲ得
スト云ヒ裁判所ニ訴出テントスル時ハ先ツ
其事ヲ國議院ニ伺出スヘキナリ

通常ハ國議院ニテ容易ニ其允許ヲ為サレ
氏前ノ如キ場合ニ於テハ之ヲ允許セサル可
カラサルナリ

又酒店「ル」(玉突き)又ハ宿屋等ニテ違式ヲ犯
レタル時ハ縣令ノ意見ヲ以テ之ヲ廢止スル

コトアリ

故ニ此等ノ者ニテ縣令ノ自任ニ廢止セラレ
タリト爲レ其縣令ヲ相与取訴訟ヲ爲サント
スル時ハ矢張必ス國議院ノ允許ヲ受クヘキ
コト、爲スナリ

其允許ヲ受ケサレハ訴訟ヲ爲ス可サラスト
虽モ之ハ固ヨリ人民一般ノ民事ノ裁判權ヲ
剥キタル釋ニアラス之レハ行政裁判ニ関ス
ル事ニ限ルヘキナリ

然レ現今ハ其手續ヲ爲スニ及ハス縣令ト虽
モ通常ノ者同様直ニ訴訟ヲ爲レ得ヘキナリ
共和八年ノ建國法第七十五條ノ官吏ヲ相与
取訴訟ヲ爲スニ付院省ノ允許ヲ受クヘキコ

トラ廢シタレトモ之ハ一体存スルトモ別ニ
益ナキニアラス又廢シタリトモ固ヨリ害ア
ルニアラス

何トナレハ此法ヲ存スレハ粗忽ニ訴訟ヲ爲
サハル爲ノ官吏ヲ保護スルノ一端ト爲ルナ
リ又之ヲ廢シタリトモ原告人ニテ其訴訟ニ
勝ケタル時ハ固ヨリ其終ニテ然ルヘク若シ
之ニ負ケタル時ハ即チ誣告ノ罪ニ當リ且其
損害ノ償ヲ出スヘキ当然ノ法律ヲ以テ罰ス
ヘキコトナレハナリ

故ニ之ヲ存シテ用ユルモノト爲セハ只其粗
忽ニ訴訟ヲ爲サル爲ノ官吏ヲ保護スル迄
ノコトナリ又之ヲ廢シテ用ヒサルモノト爲

セハ粗忽ニ訴訟ヲ為シタル者ヲ以テ誣告ノ
罪ト為ス迄ノコトナリ

仏國ノ現今ノ共和政事ハ固ヨリ人民ノ自由
ヲ主ト為シタルモノナレトモ未タ其自由ニ
十分ナラサル所アリ

共和八年建國法ノ第七十五條ヲ廢セレハ現
今ノ民撰議院ヲ立テサル以前ノコトナリ
現今ノ司法卿コレヲセバプロシハ真ノ共和論
ノ者ニアラサレ凡此以前ノ法ヲ再ニ設クヘ
シト為ナス然レ之ヲ設ケント云フ者アレハ
必ス直キニ之ヲ許スナルヘシ

然レ此法ヲ設ケスレテ已ニ四年ヲ過キタレ
氏未タ格別ノ弊ヲ生スルコトナシ

此法ヲ廢シタルハ畢竟議院ニテ設ケ置ク可
カラスト論スル者多人数アリタル故ナク何
トナレハ若レ之ヲ設クル時ハ人民一般ニテ
政府ハ自令ノ都合能キ法ノミヲ立ツルト云ヒ
不平ヲ鳴ラスモノアルヘキナレハナリ

一体此法ヲ設クヘレト定ムルヨリ矢張勝手
ニ訴訟ヲ為シ裁判ヲ受クヘレト定ムル方更
ニ適宜ナリ

故ニ以前ノ法ハ大ヒニ不適宜ナリト考ヘレ
又或ハ公ケノ官吏ニ對シ訴訟ヲ為スニ其允
許ヲ受ケサル可カラスト云フハ全ク人民ノ
訴訟スヘキ權利ノカラ減センカメナリト
ノ説アリ

一体人民ニ於テハ一通リノ権利アルトモ官
吏ニ比スレハ自ラ余程ノカヲ減スルモナ
リ故ニ眞ニ十分ノ権利アル者ニアラサレハ
容易ニ訴訟ヲ為スヘキニアラス若シ之ヲ為
シ其訴訟ニ負ケタル時ハ莫大ノ損害ノ償ヲ
出サ、ルヲ得ス仍テ此法ハ素ヨリ立テ置ク
ニ及ハサルヘシ

第百三十條

本條ハ矢張第百二十七條ノ罪ヲ犯シタルモ
ノヲ去フナリ
曰奈ニ於テハ行政権ノ者ニアラス司法権ノ
者即ケ裁判官檢事等ニテ立法権ニ干涉シタ
ルコトナリ

本條ハ之ニ拘レク行政権ノ者ニテ立法権ニ
干涉シタルモノナリ
即ケ縣令又ハ区戸長等ノ如キ行政権ノ者ニ
テ立法権ニ干涉シタルコトヲ去フ
本條ニ於テハ二ツノ事柄ニ干涉シタルコト
ナリ即ケ縣令区戸長等ニテ立法権ニ干涉シ
又ハ裁判事務ニ干涉シタルコトヲ去フナ
リ
一般ノ決定ト去フハ縣令ヨリ裁判所ヘ對シ
命令又ハ禁止ヲ出ス等ノ決定ヲ為シタルコ
トナリヤ
此一般ノ決定去々トノ文意ハ穩妥ナラス
故ニ州長郡長邑長去々ノコトヲ前文ニ掲ケ

立法権ヲ行フニ干渉シ又ハ裁判所ニ於テ
干渉シタルモノ云々ノコトヲ後文ニ掲ケ置ク
市前後ノ文脈ニ於テ解シ易キナリ
一般ノ決定トハ即チ縣令ニテ裁判所へ命令
或ハ禁止スルコトヲ決定セシコトヲ云フ
之ハ如何ナル事柄ニ付テハ命令又ハ禁止セ
ント決定シタルコトナリヤ
命令ス可カラサルコト又ハ禁止ス可カラサ
ルコトヲ官吏ノ私見ヲ以テ自任ニ決定シタ
ルコトヲ云フ
本条ニハ一般ノ決定ヲ為スニ干渉シタル州
長郡長邑長ト記セリ
一併縣令ト雖モ一般ノ事柄ニ付總テ裁判所

へ命令又ハ禁止セント告知ヲ決定シ得ハ
キニアラス尤権限爭ヲ生シタル場合ニ於テ
ハ其裁判ヲ中止スヘシト決定ヲ為スコト
アレトモ郡長邑長等ニ至テハ固ヨリ何事ニ
付テモ之ヲ決定シ得サルモノナリ
故ニ一般ノ字ハ先ツ縣令ノミニ関スル字ニ
シテ郡長以下ノ者ニ関スル字ニアラス
仍テ本条中ニテ一般ノ字ヲ省キ且ツ文意ヲ
裁判所へ云々ノ決定書ヲ出ス可カラス但シ
縣令ニ許可シタル特別ノコトハ此限ニアラ
ズト改ムハキナリ
第百三十一条
本條ハ前ニ説キタルコトニ殆ント反對シタ

ルコトナリ故ニ未タ其権限争ヲ生セサル場
合ノコトナリ

権限争ト云フハ公権ニ属シタルコトニ付行
政権ノ者ヨリ其権限ヲ争ヒ裁判所ヘ之ヲ提
合ヒタルコトナリ

然ルニ本条ノ事柄ハ私権ニ属シタル事柄ニ
付原告人ヨリ訴訟セントシタル時行政権ノ
者ニテ裁判シタルニ仍リ乃チ原告人ヨリ其
裁判ヲ受ケルヲ肯ンセサル旨ヲ言立テタリ
然レモ行政権ノ者ニテ矢張之ヲ用ヒス其終
为レタルコトヲ云フナリ

之モ矢張官吏ト人民トノコトナリヤ
然リ原被ノ内一方ノ者ハ必ス官吏ニ限ルハ

キナリ

官民共有地ノ山林田畑等ヲ政府ニテ人民ヨ
リ取戻サントスルハ固ヨリ行政権ノ事柄ニ
アラス全ク私権上ノ事柄ナリ然ルニ縣令ニ
テ其裁判ヲ为レタリ

其時一方即チ人民ニテ権限ノ違ヒナリトシ
テ其裁判ヲ受ケサル旨ヲ言立タリトモ縣令
ヨリ之ヲ司法裁判所ヘ送ラサル時ハ本條ノ
刑ト为スナリ

然レ一方ニテ其権限ノ違ヒタルヲ以テ司法
裁判所ヘ送ルヘレト言立テサル時ハ其終縣
令ニテ之ヲ裁判スルトモ別段ニ子細ナレト
ス

然レトモ固ヨリ縣令ノ誤タルニハ相違ナシ
ト雖モ其事柄ニ於テ故障ヲ生セサル時ハ夫
カ为ノ刑ヲ受クルコトナシトス

然且ト云フ字ハ又ト云フ字義ニテ二事ニ分
ツヘキカ或ヒハ而ト云フ字義ニテ一事ニ串
説スヘキヤ

「司法ノ職務ヲ行ハント为レ云々」所ヨリ其
裁判ヲ行ヒシ時ハ云々ノ所ヘ文脈ヲ串説シ
テ一事ト解スヘキナリ

何トナレハ「其職務ヲ行ハント为レタル」ニ
ニテハ未タ其罪ト为ラス其裁判ヲ受ケサル
旨ヲ申立ツルト雖モ云々ノ場合ニ至リ始メ
テ其罪ト为ル誤ナリ

故ニ「且」ト云フ字ハ二事ニ解セム一事ニ串説
スヘキナリ

然ラハ「且」ト云フ字ハ不可ナリ「而」ト云フ字ヲ
用ユヘキナルヘシ

然リ本条ノ文意ハ甚タ曖昧トシタル所アリ
此次條以下ハ貨幣贋造ノ罪ヲ記シタルモノ
ナリ之ハ暫ク講セス後會ヨリハ先ツ本条ニ
引續キ官吏ノ瀆職ノ罪ヲ講セントス

即ケ弟而六十六條ヨリ弟二百八條迄ノ事柄
ナリ

第四款以下ハ官吏ノ権ニ抗レタル罪ヲ記シ
タルモノナリ

後
芽
拾
五
号

刑
法
會
議
筆
記

九
年
四
月
一
日

司
法
省

第百六十六條

本條ニ官吏其職務ヲ行フニ付云々ノ重罪ヲ
名ケテ濫職ノ罪ト云フト記セリ
之ハ官吏ノ職務ニ付テ犯シタル罪ノ総名ヲ
掲ケタルモノナリ

本條ハ一体不用ナリトス然レ之ヲ要用ノモ
ノト為サントスル時ハ次條ノ公権制奪ノ刑
ニ処ス可シトノコトヲ記スルニ及ハサルナ
リ

只其濫職ノ罪ナリトノ罪名ヲ記シタルノミ
ナレハ廣ク他ノ刑ヲモ用ヒ得ヘキナレトモ

刑法
法
省

公権剥奪ノ刑ト記セルニ仍り必ス此刑ヲ用
ヒサルヲ得サルナリ

且官吏ノ罪ニテ公権剥奪ノ刑ニ処スヘキモ
ノハ河レモ其正條ニ於テ曰シク公権剥奪ト
云コトノ明文アリ然ラハ本條ニ於テ濫職ノ
罪ナリトノ罪名ヲ記シタル上又其正條ニ明
文アル所ノ公権剥奪ト云フコトヲ次條ニ記
スルニハ及ハサルコトナリ

仍テ此二條ハ全ク不用ナリト考ヘリ
此二條ノ罪ハ官吏ノ職務ニ付罪ヲ犯シタル
時ニアラサレハ之ヲ用ユルヲ得ス若シ其職
務ノ外ナル時ハ依令ト如何ナル重キ罪ナリ
トモ他罪名ヲ以テ罪ス可キナリ

尤官吏ノ職務ノ罪ヲ以テ公権剥奪ノ刑ト為
スハ至当ナリ何トナレハ官吏ハ其職務ヲ重
ク任シタルモノナリ然ルニ其職務ニ就テ罪
ヲ犯スハ最モ惡ムヘキ心実ナル者ト為スヘキ
ナレハナリ

第百六十八條ニ輕罪ハ濫職ノ罪ト為ス可カ
ラスト記セリ一併公権剥奪ハ固ヨリ輕罪ノ
刑ニアラス然ラハ前條ニ於テ濫職ノ罪ハ公
権剥奪ノ刑ニ処スト記シタル上ハ其輕罪ニ
アラサルコト明カナリ故ニ本條モ矢張不用
ナルハ固ヨリ記スルニ及ハサルコト、為スレ
然シ本條ニ仍テ論スレハ官吏ノ職務ニ付輕
罪ヲ犯シタル時ハ通常ノ者ト曰様ノ刑ニ処

之別ニ瀆職ノ罪ノ部類ハ入レサルナリ。
瀆職ノ罪ヲ以テ通常ノ罪トノ區別ヲ立ツル
時ハ此刑法ヲ用ユル場合ニ於テ甚タ判然セ
ズ難事ナル可シ
尤輕罪ナレハ通常ノ罪同様ナル故別ニ難事
ナシトモモ通常ノ罪ニテ重罪ニ當ルヘキモ
ノハ河レハ其正條ニ記スル所ノ刑ヲ用ユヘ
キナリ然ラハ本條ニ於テ瀆職ノ罪ト云フ所
ノ重罪ハ如何ナル事柄ヲ以テ之ニ當ルヘキ
ヤ甚タ判然セサルナリ
已ニ説ク如ク一体本條ハ全ク不用ニ屬スル
モノナリ
例ハハ廢造ノ罪ナレハ何レモ其正條ニ於テ

刑名ヲ記セリナリ仍テ此重罪ト為スモノハ
全ク刑法中ノ正條外ノ罪ヲ云フナリ
第百六十七條ニ「法律上ニテ別段重キ刑ヲ定
メサル」云々ト記セリ故ニ刑法ノ正條ニナキ
外ノ事柄ニテ重罪ニ當ルヘキ罪ヲ犯シタル
コトヲ云フナリ
其罪ノ種類ハ先ツ如何ナルモノヲ以テ瀆職
ノ罪ト云フ可キヤ
第百十四條ヲ見ル可シ
同條中ニ官吏ニテ人民ノ自由ニ對シ云々ト
記セリ之ハ瀆職ノ罪ト為スヘキヤ如何
此罪ヲ以テ重罪ト為ス時ハ即チ瀆職ノ罪ト
為カ、ルヲ得ス

刑法
法、省

尤同條中ニモ公植剥奪ノ刑云々ト記セリ故
ニ此一ヶ條ヲ見レハ即チ其罪ニ依テ用ユヘ
キ刑名ヲモ知り得ヘキナリ然ラハ殊更ニ第
百六十六條ヲ見合スニ及ハス仍テ愈々不用
ナルコト明カナリ

第百十五條モ同シク官吏ノ濫職ノ罪ナリ尤
之ハ各省ノ御ニテ其罪ヲ犯シタルコトナリ
故ニ濫職ノ罪ノ内ニテ最モ重キ刑ニ処スル
ナリ之ハ其職務ヲ重ク任シタルモノニ付其
罪モ重キニ從テ論モタルモノナリ
然ラハ同シ濫職ノ罪ト虽モ第百六十六條ニ
依テ処ス可キモノニアラス全ク特別ナル刑
ヲ用ヒタルモノナリトス

第百二十一條モ同シク司法警察官吏又ハ檢
事等ニテ其濫職ノ罪ヲ犯シタル時ハ矢張公
植剥奪ノ刑ニ処スルナリ
若シ之ヲ公植剥奪ノ刑ニ処セス輕罪ナル時
ハ濫職ノ罪ト云フヲ得ス然レモ此條ニ於テハ
矢張重罪ト爲シ公植剥奪ノ刑ニ処スルニ付
固ヨリ濫職ノ罪ナルコトハ言テ後々ナルナ
リ
第百二十三條ニ公植ヲ任セラレタル云々ト
アリ即レ此條ハ官吏ニテ打寄犯情ノ相談ヲ為
シタル罪ニテ即チ刑法第百四十二條ノ如ク公
植及ヒ族植ノ全部又ハ一部ヲ行フコトヲ禁
ス可キモノナリ之ハ官吏ナレバ輕罪ニ當ル

刑法
法
省

故ニ濫職ノ罪ト云フヲ得ス

仍ラ其罪ノ種類ヲ分テ濫職ノ罪ト為ス可キ

ヤ否ルヤハ其罪名ニ依テ之ヲ辨知スルヨリ

外他ニ判然タル區別ナシ

濫職ノ罪ト云フノミニテ其種類ヲ記セス而

シテ又公權利奪ト云フ罪名而已ヲ記セリ然

レ其罪名ハ何レモ罪ノ種類ニ依テ一ニ其公

条ニ記セルモノナリ然ラハ其不用ノ条ナルト

ト愈明ラカナリ依テ之ハ削ラサル可カラサ

ルナリ

然レモ又或レ之ヲ存シ置テ要用ト為ス可キ

場合ナキニアラス

河トナレハ此刑法ノ外ニ他ノ罰則等ヲ立

テ官吏ノ職務上ノ罪ヲ以テ只濫職ノ罪トノ

ミ記シタル時ニ於テハ別ニ公權利奪トノ刑

名ヲ記セサルトモ自ラ其刑ニ処スルヲ知り

得ヘキ訳ナリ故ニ其場合ニ於テハ全ク便利

トモ為ル可キナリ

然レハ他國ニテハ亦々他ノ罰則ニ如キコ

トヲ記シタルモノナリ又其便利ト为リタル

コトヲ見サルナリ

通常ノ者ト違ヒ官吏ハ一種異ナリタル者故

ニ殊更本条ヲ以テ掲ケタルモノニテ此刑法

中ニ記セサル所ノ重罪ヲ犯シタル時ヲ云フ

ナルハシ

然リ固ヨリ其主意ヲ以テ殊更ニ掲ケタルハ

勿論ナリ然レ池ノ罰則中ニ於テ其罪ノ次第
ニ仍リ官吏ノ濫職ノ罪トノミト記スルノ便
利トモ為ルヘキナリ尤全ク夫カ为メナレハ
煩ハシク公権剥奪トノ刑名ハ此所ニ記スル
ニ及ハサルナリ

固ヨリ此刑法ノ正条中ニモ濫職ニ当ル罪モ
アルヘキナレハ一体ノ本旨ハ刑法ノ外ニテ
之ニ当ルヘキ罪ヲ概シラ云フナルヘシ

刑法中ニ正条ヲ以テ掲ケタル罪ニハ必ス其
刑名ヲ記セリ故ニ若シ後来此刑法ノ改正ヲ
為ス時ハ必ス其正条中へ濫職ノ罪ト掲ケタ
ル上ハ別ニ其刑名ヲ記セシテ此第百六十
七条ノ公権剥奪ト掲ケタル所ニ基キテ之ヲ

処スル様ニ為ス可キナリ

然レ其正条ニ於テ一ハ刑名ヲ掲ケサル為メ
此條ヲ存スヘシトシテ見ル時ハ此文意ノ依
ニテハ未ダ不十分ナリト考ヘリ

濫職ノ罪ハ施体加辱ノ刑ニ當ル可キモノニ
アラズ故ニ第百六十六條ニ於テ「官吏云々ノ
重罪ヲ云ハト記セス」官吏云々ノ殺傷ノ罪ノ外
ノ重罪ヲ云ハト記スヘキナリ

尤官吏ニテモ過誤ナキニアラズ其時ハ濫職
ノ罪ト為ス可カラサルレハ其刑名ヲ同案ニ為
サ、ル可カラサル時ハ矢張濫職ノ罪ト為ス
ヘキナリ

故ニ又第百六十七條ニ於テモ法律上云々濫

職ノ罪ハト云フニ及ハス「前条ノ罪アル時ハ
公権剝奪ノ刑ニ処スル」ト記ス可キナリ
前條ニ於テ云レノ重罪ヲ濫職ノ罪ト云ヒタ
ル上ト次條ニ於テ又更ニ濫職ノ罪ト云フニ
ハ及ハサルコトナリ
爰ニ二例ヲ挙ケニ

先ツ第百四十六條ノ例ヲ以テ説カントス
此條ハ公ケノ官吏ニテ公ケノ文書ヲ偽造シ
タル罪即チ官吏ノ濫職ノ罪ナリ何トナレハ
之ニ施休加辱以上ノ刑ニ処スル故ナリ
然ラハ公権剝奪ノ刑ニ処スルカトナレハ否
ラズ無期ノ徒刑ト為スナリ
故ニ此條ノ場合ニ於テハ何レニモ第百六十

七條ニハ於ルコトヲ得サルナリ
官吏ニテ私ノ文書又ハ証書類ヲ偽造スルカ
又ハ其証書中金高ノ部分ヲ變造スルカ或ハ
公証人ノ証書中自分ニ不都合ナル部分ノ文
字ヲ替ヘル等ノ時ハ即チ濫職ノ罪ト為
スカトナレハ否ラス之ハ自分ノ私益ノ為メ
ナル故ナリ

其私ノ文書ヲ偽造シタル時ハ有期ノ徒刑ト
為スナリ又令ニ公証人ノ証書ナリトモ公ケノ
文書ニアラサル以上ハ官吏モ通常ノ者モ同
様ノ刑ニ処スルナリ
第百五十六條ニ公ケノ官吏ニテ何某ナルコ
トヲ知りツ、其偽名ヲ存シテ路券ヲ渡シタ

刑法
第百五十六條

ル罪ヲ記セリ

之ハ官吏ノ濫職ノ罪ニ当ルヘキヤ重罪ナレ
ハ濫職ノ罪ト為シ輕罪ナレハ否ラスト為ス
然ラハ此條ニテハ禁錮ノ刑ニ処スルトアル
故ニ輕罪ナリ仍ラ濫職ノ罪トハ為サ、ルナ
リ濫職ノ罪ト否ラサルトハ必ス刑名ニ依テ
知ルヨリ科判然タル區別ナシトス
官吏ノ罪ノ内ニテモ禁錮ナレハ輕罪ニ付濫
職ノ罪ニアラス公権剥夺ナレハ重罪ニ付濫
職ノ罪ト為ス然シモ重罪ニテモ公権剥夺ト為
スヘキモノハ各第百六十六條ヲ見合セルニ
及ハス他ノ正條ニ於テ其刑ヲ記セリ又其公
権剥夺ノ刑ヨリ重キ刑ニ當ルヘキモノハ素

ヨリ同條ニ仍ラサルトモ他ノ重キ刑ヲ以テ
罰ス可キナリ

故ニ其不用ナルコト愈明ラカナリ
日本ニテ刑法ヲ改正スルニ付テハ矢張此條
ヲ設ク置クヘキヤ否ヤトナレハ他ノ罰則等
ノ便利ノ為メノミナレハ強テ設クルニ及ハ
サルナリ

若シ罰則等ニ於テ更ニ特殊ナル罪アル時ハ
其罪ノ為メ又別ニ其刑名ヲ記スレハ可ナリ
故ニ之ハ用ヒサル方然ルヘシト考ヘリ日本
ノ刑法改正ノ際ニ付尚一言説クヘキコトア
リ
仏國ニテハ「フランス」ヨ子ールピブリックト

云フハ公ケノ官吏ノコトナリ然シ仏國ニテ
ハ如何ナル者ヲ以テ一般公ケノ官吏ト云フ
ヘキトノ定限ナシ然ラハ然ラノ官吏ヲ公ケ
ノ官吏ト云フ可キヤトナレハ否ラス尤「アラ
シクシヨ子ールピブリツク」ハ然ラ何レヘ対シ
ラモ公ケノ官吏ト云ヒ得ヘキナレバ其他ノ
官吏ニラ公ケノ官吏ト云フヲ得サルモノナ
リ
故ニ日本ニテ刑法中へ公ケノ官吏ト記スル
ニハ必ラス其區別ヲ立ラサル可カラサルナ
リ
例ヘハ此席上ニテモ大輔公ハ公ケノ官吏ト
云フ可キナリ然シ鶴田ハ公ケノ官吏ニアラ

サルナリ

仏國ニハ官吏ノ内「フランシヨ子ールピブリツク」
「アジヤンアンブローエー」ト云フ名目アリ其内判
然タル區別ハナシト雖モ「アンフロポーセ」ト
云フ名目ハ自ラ差違アリ右法律中ニテ「アラ
シクシヨ子ールピブリツク」アシヤンアンブローエー
トヲ併セテ記セル時ハ然ラノ官吏ヲ云ヒタ
ルコトナリ
然シ「ホンクシヨ子ールピブリツク」ト而已記シ
タル時ハ「アンフロワイエー」ハ公ケノ官吏ノ
内ニ入ラサルナリ
アシヤン「ホンクシヨ子ールピブリツク」ノ内
ニ入ラサルヤ

法
省

先ツ「ホレクシヨ子ールピブリツク」ト「アミヤ」ト
ヲ一様ノモノト爲シ「ア」フロロイ「エー」ト差
違アル所ノ區別ヲ説クヘシ
ホレクシヨ子ールピブリツクハ國ノ公権ノ一部
ヲ奉スルモノナリ
故ニ各者ノ御輔ハ日本政府ノ公権ノ一部ヲ
奉スルモノナリ之ハ自今ノ名ヲ以テ「公権」
ヲ行ヒ得ヘキ故ナリ
又縣令「長」モ亦同シク公々ノ官吏ナリト
ス
此公々ノ官吏ノ區別ヲ爲スハ最モ肝要ナル
ヘシ
公権ハ事柄ニ仍リ大々ノ別アリト雖モ諸リ

其官吏ノ命令ヲ以テ並キニ人民ノ公益ヲ
保護シ又悪害ヲ防衛スルノ事務ヲ施シ得ヘ
キモノナリ 故ニ「メー」ルハ其管轄中ノ事務ヲ
自今ノ権内トシテ之ヲ施シ得ヘキナリ
又及令ヒ並キニ人民ニ接セサルトモ一ノ昏
付ヲ以テ其事務ヲ施シ得ヘキモノハ矢張公
々ノ官吏ナリトス
例ヘハ大巫ノ青山ニテ御輔ノ命令ニ仍リ其
昏キ物ヲ作り之ヲ人民へ布告シタル時ハ其
青山ノ昏物ハ屢造ナリトノ訥アルニアラサ
レト並ニ接シタル官吏モ同様公々ノ官吏ノ
権アル者ト爲スナリ
岸良ハ換事ナリ然ラハ之モ公々ノ官吏ト爲

ス之ハ素ヨリ自今ニテ其事務ヲ取扱ヒ司法
卿ノ命令ニ仍テ其代理ヲ為スモノナレハナ
リ
名村ハ公ノ官吏ト云フヲ得ス何トナレハ自
分ノ名ヲ以テ一ノ番物ナリトモ作ルコトヲ
得サル者ナレハナリ
鶴田モ人民へ通テニ接スルモノニアラス故
ニ公ケノ官吏ト為サス
公国ニテハ公ケノ官吏ヲ區別スルハ甚ク面
倒ナルコト、為セリ
先ツ「ホアソナート」ノ職務ニ付テ之ヲ廢ヘン
トス

「ホアソナート」政府ノ命令ニ仍テ学校ノ教

官ト为リ職務上ニ於テ嚴然ト講義ヲ為スノ
権アリト虽モ一生徒タリトモ之カ進退スル
時ニ當テハ公ケノ権ヲ行フヲ得ス故ニ公ケ
ノ官吏ト云フコトヲ得サルナリ
又学校ノ教官ニテ生徒ノ試験ヲ為ス時ハ其
学カニ仍テ評點ヲ付ケ其甲乙ヲ決定シ得ヘ
キナレバ其賞賜ノ昏付ヲ自ラ与ヘルコトヲ
得ス之レハ公ケノ官吏ニアラサル故ナリ
又学校ノ試験ニ付文部卿ヨリ賞牌ヲ与ヘル
ハ何ニ拠ルトナレハ其試験上ノ請合昏ニ拠
ル可キナリ其受合昏ハ各教官ニテ調ヘテ為
スモノナリ然レ之ニ調印スルハ下ハイヤシ
即チ教官長ナリ仍テ其教官長又ケハ公ケノ

司法省

官吏ト為スナリ

ドハイヤシモ教官中ノモノナレハ世調印シ得
ヘキ丈ケノ権アルニ付公ケノ官吏ト為スナ
リ

トハイヤシニテ世試験ノ受合唇ヲ出スニハ
自分ニテ陪席スレハ固ヨリ直ニ試験シタル
証ナレハ陪席セサル時ハ各教官ニテ黒白ノ
評點ヲ付ケ明細ニ記シタル簿冊ニ仍テ世學
カノ甲乙ヲ知ルヘキナリ世時ハ教官ニテモ
世簿冊ニ調印スヘキニ付之レニ調印シタル
丈ケノモノハ公ノ官吏ト為ス可キナリ
此場合ニ於テ若シ「ホアソナード」ニテ世試験
ヲ為サ、ル者ニ白點ヲ付テ簿冊ニ記シタル

時ハ公ケノ文唇ヲ屢造シタル罪ニテ無期ノ
後刑ニ処セラレ可キナリ
又ハ教官ニテ世試験ヲ為サ、ル場合ニ於テ
妄ニ世簿冊ニ黒點ヲ付ケタル時ハ官吏ノ氣
汚ナル所行ト為ス若シ之ヲ公ケノ官吏ノ職
務ヲ行フノ罪ニ引当テタル時ハ公権剝奪ノ
刑ト為サ、ルヲ得サレトモ此事柄ニ於テハ
世教官ヲ以テ公ケノ官吏ノ職務ヲ行フニ付
テ為シタル罪ト一樣ニ見為サ、ルナリ
然レ或ル場合ニ於テハ公ケノ官吏ト見為ス
コトアリ即チ生徒ノ試験ノ簿冊ニ調印シタ
ル時ノミハ公ケノ官吏ト為スナレハ世他決
シテ公ケノ官吏ト為スコトナシ

同法省

仏国ニハ僧官ノ内ニ政府ヨリ月給ヲ与ヘル
モノアレハ之ヲ以テ公ケノ官吏トハ為サハ
ルナリ何トナレハ公権ニ関セサル故ナリ
正ウエキレト云フ者アリ之ハウシク公権ヲ行
フニ付即チ公ケノ官吏ト為スナリ
共和八年ノ建国法ノ第七十五条ニ公ケノ官
吏ニ向テ訴訟ヲ為ス時ハ云々トノ法アリタ
リ現今ハ之ヲ廢セリ
然レバ公ケノ官吏ト云フハ何ヲ以テ區別ス
ルヤ判然セス或ヒハ月給ヲ受クル者ハ総テ
公ケノ官吏ト為スヘシト云ヒ又ハ月給ヲ受
クル者ノ内ニテモ其區別ヲ立ツヘシト云フ
ノ説アリ

日本ニテ法律ノ編製ヲ為スニハ總テノ官吏
ヲ以テ公ケノ官吏ト為セハ面倒ヲ生セサル
可キナレハ若シ其官吏中ニテ區別ヲ為サン
トナレハ判然ト之ヲ分ツヘキナリ然ラサレ
ハ後未大ヒナル不都合ヲ生スヘキナリ
尤總テノ官吏ヲ以テ公ケノ官吏ト為シ其刑
ヲ同様ニ処スル時ハ輕キ官吏ニ附テハ甚ク
峻酷ニ當ルコトアル可キナリ
例ヘハ名村ニテ罪ヲ犯シタリトモ公権ヲ行
フモノニアラス其上ノ官吏ニテ監視スヘキ
ニ付其害ヲ為スコトウシ故ニ其罪ヲ輕シト
為ス然ルニ其上ノ官吏ト同様ノ刑ニ為スハ
峻酷ナリ仍テ自ら公権ヲ行フ者トハ其區別

ヲ為サ、ル可カラス其區別ヲ為スニハ必ラ
ズ判然ト之ヲ分クサル可カラサルナリ
然レ名村ノ通辨ヲ為ス時殊吏ニ特任ヲ受ケ
其上ノ官負等他ニ之ヲ監督スル者ナキ時ハ公
ケノ官吏ト為シテ論セサルヲ得ス
然レ及令ヒ其職務上ノ罪ニ當リタリトモ過
誤ナル時ハ素ヨリ其罪ヲ以テ論セサルナリ
仏國ニテモ裁判官等ニテ故意ニアラスシテ
其罪ニ當ルコトヲ為スモノアリ之ハ何レモ
無罪ト為スナリ
然レ故意ニテ為シタル時ハ決シテ其罪ヲ宥
ルサ、ルナリ
仏國ニテモ公ケノ官吏ノ區別ニ付テハ常ニ

其議論ノ絶ヘルコトナク遂ニ未ダ其決定ヲ
為サ、ルナリ
故ニ日本ニテモ其區別ハ判然ト分ク後未不
都合ヲ生セサル様ニ為スヘキナリ
然レ日本ニテ官吏ノ等級ヲ以テ其區別ヲ令
ツハ宜シカラス
十二等位ノ官吏ノ内田野ノ監守人森林ノ監
守人ハ輕キ者ナレハ矢張公推ヲ行ヒ得ヘキ
モノナリ
日本ノ巡查モ自ラ犯罪人ノ調停ヲ作り得ヘ
キモノト為ス時ハ等級ハ輕キ者ナレハ公ケ
ノ官吏ト為スヘシ又ハ四等五等ノ官吏ニテ
モ公ノ官吏ト為ス可カラサルモノアル可キ

ナリ

裁判官ハ大審院以下極下等ノ裁判官ニ至ル迄総ラシケノ官吏ト為ス之ハ人民相互ノ裁判又ハ政府ト人民トノ裁判ヲ為シ直キニ公権ヲ行フモノナレハナリ

判事補ハシケノ官吏ノ内へ入レサルヤ

判事補ニラモ其内へ入ルヘキナリ何トナレハ法廷ニテハ判事ノ欠負アル時ハ判事補ヲ以テ陪席人ト為ス故ナリ

裁判官ハ只其官名ヲ有スルノミニテモ容易ニ其官ヲ剥クコトヲ得ス之ハ判事補ニラモ同様ナリトス

然レ檢事ハ政府ノ見込次第ニテ何時モ之ヲ

剥カレ可キヤモ知ル可カラサルモノナリ

職制上ノ罪即チ規律罪ニ付ラハ例ヘハ檢事

ヨリ直キニ禁錮状収監状ヲ出スカ又ハ内務

省ノ官負ヨリ直キニ之ヲ出シタル時ハ及令

ヒ見込違ヨリ生シタル過誤ナリトモ法律上

ニ官吏ノ職務上ノ罪トノ明文アル上ハ矢張

当然ノ刑ニ処セサルヲ得サルヤ其過誤ト故

意トノ區別ヲ聽カニコトヲ要ス

之ハ別ニ異ナルコトナシ此刑法ニ掲ケタル

罪ナレハ刑法ニ據ラ処セサルヲ得ス又之ニ

掲ケサル罪ナレハ其官吏ヲ免職スルカ或ハ

譴責スルカ三ヶ月位ノ禁錮ニ処スルノミニ

テ其他別ニ異ナルコトナシ

然レ月給ヲ受ケタル者ニテ盗罪ヲ犯シタル
時ハ重ク罰ス可キナリ
尤モ官吏ニテ粗忽ニ出テ行ヒタル罪ハ人ヲ
殺傷セサル以上ハ刑法ニ仍ラス各者限ニ
テ譴責ヲ為スノミナリ若シ故意ナル時ハ刑
法ニ仍テ処セサルヲ得ナルナリ
公ノ官吏即チホシクシヨ子ルブビツクト云
フヘキモノニテモ例ヘハ其者中ノ者ノ私ノ
派入ヲ盗ミタルノミニテ其者ノ官金ヲ盗マ
サル時ハ矢限通常ノ刑ト為シ其重キニ從テ
罰スルコトナレトス然レ若シ其者ノ官金ヲ
盗ミタル時ハ主人ノ物ヲ盗ミタル罪ト同シ
ク重ク罰スヘキナリ

他人ノ物ト見做シテ官物ヲ盗ミタル時ハ後令
ニ官物タリトモ均シク竊盜ノ罪ニ論シテ其
刑ヲ重ク為スコトナレトス之レ所謂犯ス時知ラ
ズメ原則ヨリ生スルモノナリ
若シ税関ノ官吏ニテ税金ヲ受取りタル時其
内一回ニテモ盗ミタル時ハ通常ノ罪ヨリ重
ク為シ以前ハ後刑場内駈役ノ刑ニ処セリ
疑問スル所ト官吏ノ過誤ニテ為レタル罪ハ
故意ニテ犯シタル罪モ同様ニ処スルヤ否ヤ
トノ區別ヲ聽シト欲スルナリ
税関ノ官吏ニテモ例ヘハ大蔵省内務省等ノ
布告ヲ知ラス誤テ五分ノ税ヲ取ルヘキモノ
ニ就テ一割ノ税ヲ取りタル時ハ其罪アルニ

アラヌモ一應ノ譴責ハ免カレサルナリ然
シ再三同シ罪ヲ犯シタル時ハ其官ヲ免職セ
ラルヘキナリ

語リムケノ官吏ニテ刑法中ニ掲ケタル罪ヲ
犯シタル時ハ過誤ニテモ矢張刑法ニ仍テ論
スヘキナレ氏之ニ掲ケサル罪ノ過誤ナル時
ハ何レモ其各者限りニテ譴責ヲ為スノミナ
リ

例ハ「**検事ニテ禁錮状収監状ヲ出シタルヲ**
以テ司法卿ニテ他ノ職務ヲ犯シタリト為ス
時ハ及令ヒ全クノ過誤ナリトモ規律罪ニ入
レテ論スヘキヤ又ハ刑法ニ掲ケタル罪ニ當
タルヘキモノハ其刑ヲ以テ罰セサル可カラ

サルヤ

全クノ過誤ナル時ハ譴責ノミニ止ルヘキナ
リ

然ラハ職務上ノ過誤失錯ハ刑法ニ入レテ論
セサルトノ原則アリヤ

其原則ノ有無ニ拘ラス職務上ニ付テノ過
誤ナル時ハ別ニ罪ト為スヘキ謂レナシ然レ
夫カ为ノ人民へ損害ヲ楳ケサル時ニ限り其
罪ト為サルコトナリ

禁錮状収監状ヲ以テ人民ヲ呼出シタル時ハ
固ヨリ^或部々カノ損害ヲ其人民ニ楳ケタル
者ナリ然ラハ其^或損害ノ償ヒハ出サハルヲ得
サルヘシ尤モ官吏ナルカ为ノ別ニ其償ヲ出

スニ及ハストヲスヘキヤ

其損害ノ償ハ人民ヨリ求メ得ヘキナリ若シ
之ヲ出サ、ル時ハ其檢事ヲ免職スヘキナリ
然シ裁判官ニテハ及令ヒ効ノ如キコトアル
トモ免職スルヲ得ス故ニ只之ヲ譴責スルノ
ミノコトナリ

不拔ノ権ナキ者ニテ職務上ノ過誤ノ罪アル
時ハ大抵免職ト為スナリ不拔ノ権アル官吏
ハ故意ノ犯罪ニアラサレハ免職ト為スコト
ナシ

裁判官ニテ濫職ノ罪ニアラス又刑法ニ掲ケ
サル罪ニテモ免職ト為スコトアリ例ハ裁
判官ノ職務外ニテ為スカラサル事柄ニ付

テ賄賂ヲ取りタル等其品行上ニ拘ハリタル
罪ヲ為シタル時ハ免職セサル可カラズ尤モ
其時ハ司法卿ヨリ大審院ノ檢事へ告許シ大
審院ノ裁判ニテ其免職スヘキ決報ヲ送りタ
ル上司法卿ヨリ政府へ上申シ政府ヨリ之ヲ
言渡スヘキナリ

之ハ刑法ニ掲ケサル規律罪ヲ犯シタル時ナ
ルヘシ然ラハ品行ノ不正ナル所行即チ博奕
等ヲ為シタル場合ナルヘキヤ

裁判官ニテ為スカラサル品行上ノ不正ナ
ルコトヲ云フモ博奕ノ内ニハ之ニ入レテ
論セサルモノナリ

然シ博奕ヲ為シ其賭金ヲ私ハサルカ又ハ其

通シテ夫ヨリ訴ヲ為サ、ル場合ニ於テハ
司法卿ヨリ免職セサルヲ得サル等ノコトヲ
云フナリ

刑法ニ掲ケサル罪トハ如何ナル事柄ナリヤ
又軽罪ニテ免職スヘキモノハ大抵如何ナル
罪ノ種類ヲ云フヘキヤ

軽罪ノ内ニテモ其罪ノ種類ニ仍ルヘキナリ
例ハ遊獵ノ規則ヲ犯シタル時ハ固ヨリ軽
罪ナレ其免職スヘキニアラス

重罪ニ付テ免職スヘキ罪ハ治罪法第四百七
十九條ヨリ五百三條迄ノ間ニ記セリ

軽罪ニ付テノ罪ハ千八百十年ノ布告ノ第五
十九條ニ記セリ

即チ裁判官ニテ軽罪違式罪ノ裁判ヲ受ケタ
ル者ハ其終引続テ其職務ヲ勤ムルヲ得ス尤
モ其免職スル時ハ何レモ覆審院ノ裁判ヲ受
クヘシトアリ

然ラハ司法卿ノ手限ニテハ之ヲ免職スル能
ハサル原則ナリヤ

然リ

重罪ニテ即チ濫職ノ罪ニ當ル時ハ公権剥奪
ノ刑ニ処スルナリ

刑法ニ掲ケタル罪ニテモ第四十二條ノ罪ノ
外ハ何レモ大審院ノ監督ヲ受ケサル可カラ
サルナリ畢竟之ハ不抜ノ権アル故ナリ
之ニ及ビ檢事ハ否ラサルナリ

規律罪ニ当ルヘキモノハ司法卿ノ権ニテ之ヲ罰スルトモ不可ナキヤ

裁判官ト検事トノ區別ハ為サ、ル可カラサルナリ

尤モ只一應ノ譴責スルノミナレハ其裁判所限リニテ之ヲ為ストモ不可ナシ例ハ上等

裁判所ノ裁判官ハ其上等裁判所ニテ譴責スヘキ等ナリ

故ニ裁判官ノ輕キ罪ハ其裁判所限リニテ之ヲ為シ重キ罪ハ大審院ニテ裁判スヘキモノナリトス

又上等裁判所ニテ其裁判所ノ検事ヲ免職スヘキ時モ大審院ノ裁判ヲ受クルノ手續

ヲ為サ、ル可カラサルナリ

後第十六号

刑法會議筆記

九年四月八日

刑法省

刑法省

刑法會議筆記

九年四月八日

第百六十九條

本條ハ公ケノ官吏ニテ金銀ヲ竊取シタルコト即チ監守自盜ノ罪ヲ云フナリ
ホシクシヨ子ールブヒブリツクニテ官金ヲ預カル任ヲ受ケ其官金ノ全部又ハ一部ヲ竊取シタル時ハ通常ノ盜罪ヨリ重ク罰ス公ケノ官吏ノ罪ト通常ノ者ノ罪トハ其罪ノ性質ヲ變スヘキモノト為ス例ヘハ通常ノ者ノ竊盜ナリト告訴狀ニ記セリ然ルニ公判ノ時ニ至リ公ケノ官吏ナルコトノ現ハレタリ仍テ其罪ノ性質ヲ變スヘキモノニ付重罪裁判所

ニテ其儘之ヲ裁判スルヲ得ス再ヒ下調ヨリ
仕直サ、ル可カラサルナリ

昨日ノ講義中ニテ贋造証書ノ罪ニテ告訴狀
ニ通常ノ者ト記セリ然ルニ公判ニテ公ケノ
官吏ナルコト、顯レタル時ハ性質ヲ變セス
同シモノニ見做スヘシト云ヘリ然ラハ本條
ノ罪モ矢張公ノ官吏ト通常ノ者トニ拘ハラ
ス性質ヲ變セサルモノト見做スヘキニアラ
スヤ

此第一節ハ官吏ノ其任ヲ受ケタル者ノ罪ニ
テ全ク特別ナルコトナリ故ニ通常ノ者ノ盜
罪トハ其條款ヲ分ツテ之ヲ設ケタルモノナ
リ

之ハ監守自盜ノ罪ニテ固ヨリ贋造ノ罪トハ
全ク異リタル特別ノ罪ト為スヘキナリ

故ニ官吏ト通常ノ者トニ仍テ其罪ノ性質ヲ
變スルモノト為ス

且本條ニハ「盜罪」ト記セス「竊取」ト云フ原語ナ
リ故ニ全クノ盜罪トハ異ナルコト判然ナリ

ホシクシヨ子ールブヒブリツクニテ一般ノ
私金ヲ竊ミタル時ハ通常ノ者ト同様ナルヘ

シ本條ニ於テハ官金ナル故ニ異リタル罪ト
為スヘキナラン

本條ニ公私ノ金銀ト記セリ此私ノ字ニ注意セ
サル可カラサルナリ

此私ノ金銀ト云フハ會計ノ任ヲ受ケタル者

ニテ他ノ官吏ノ私金ヲ預リタル時ヲ云フ
例ハ本省ノ會計官吏ニテ名村ノ月給ヲ取
扱ヒ名村へ渡シタルニ付己ニ名村ノ私金ト
為リタレトモ俄ニ横濱へ出張セントシテ
名村ヨリ又之ヲ其會計官吏へ預ケタル等ニ
テ其職務上ニ於テ他ノ官吏ノ私金ヲ預リタ
ル時ヲ云フ

然ラハ一般ノ私金ニハアラスヤ

然リ其職務上ニテ私金ヲ預リタルコトヲ云
フナリ

本條ノ罪ニ限リ他ノ犯罪ト全ク異ル所ノ次
第アリ

若シ其竊取ノ贓物ノ高三千フランク以上ナ

レハ有期ノ徒刑ニテ重罪ト為シ三千フラン
ク以下ナル時ハ他ノ刑ニテ輕罪ト為シ其金
高ニ仍テ區別アリ

之即チ他ノ犯罪ト全ク異ナル所ノ次第ナリ
トス

其三千フランク以下ノコトハ第百七十一條
ニ記セリ

教師ノ考ニハ金高ニ仍リ其刑ヲ區別スルハ
不適当ナリトス

仮令ヒ五六圓ノ少數ニテモ其情状ニ仍テ差
違アルヘキ筈ナリ然ルニ一概ニ金高ヲ以刑

ヲ區別スルノ理ナシト為ス
其他尚不適当ナルコトアリ何トナレハ三千

フラシク以下ナル時ハ其以上ノ時ノ刑ヨリ
 減等スルノ順次ヲ超過シ直キニ之ヲ輕罪ト
 為セリ若シ三千フランク以上以下ノ區別ヲ
 為サレ可カラサルモノトシテ之ヲ區別ス
 ル時ハ一体其以上ヨリノ順次ヲ逐テ徒刑場
 内驅役ノ刑ニ處スヘキナリ然レニ之ヲ直キ
 ニ禁錮ノ刑ト為スハ不適當ナリトス
 故ニ若シ巧黠ナル會計官ハ至ク三千フラン
 クヲ竊取セスレテ二千九百九十九フランク
 ヲ竊取スヘキナリ
 然ラハ只其一「フランク」ノ違ヒノミニテ大ニ
 ニ其刑ノ違ヒアルカ為メニ其輕罪ト為ルコ
 トヲ計リ殊更ニ其三千フランク「中」ノ一「フラ

シクヲ減シテ竊取スル等ノ弊ヲ生スヘキナ
 リ仍テ之ハ不適當ナリト考ヘリ
 日本ノ刑法ニ於テハ斯ノ如キ不適當ナルコ
 トナキ極ニ改ムヘキナリ
 然レ立法官ニテハ其三千フランク以下ノ者
 ヲ直キニ重罪ト為スハ余リ峻酷ニ過クルト
 為レ斯ノ如ク定メタルモノナルヘシ
 之ハ能ク熟考セサレ可カラス何トナレハ直
 キニ重罪ト為スヲ以テ峻酷ニ過クルトナレ
 ハ「シ」クレシヨシト為シテ適當ナリ然ルニ之ヲ
 輕罪ノ禁錮ト為スハ至ク其權衡ヲ失フナリ
 故ニ必ラス其徒刑禁錮トノ間ニ於テ他ノ
 刑ヲ設ケテ之ヲ處セサレ可カラサルナリ

第百六十九條ニテ三千ヲランク以下ト云フ
ハ即チ一ヲランクナリトモ其以上ニアラサ
レハ本條ノ刑ニ處スルヲ得サルナリ
又第百七十一條ニテ三千ヲランク以下ト云
フハ同シク一ヲランクナリトモ其以下ニア
ラサレハ本條ノ刑ニ處スルヲ得サルナリ
然ラハ其間一ヲランクノ違ニテ全クノ三千
ヲランクナリ時ハ刑法ニ明文ナキカ为メ皆
無其刑ヲ加フルヲ得サルノ理ニ當ルヘシ
然レ其刑ヲ加ヘサレニアラス若シ全クノ三
千ヲランクニ當ル時ハ矢張禁錮ノ刑ニ處ス
ルニキナリ之ハ其輕キニ從テ處スル誤ナリ
故ニ若シ三千ヲランク以上一ヲランクニテ

モ余分ニ竊取シタル時ニテモ有期ノ徒刑ト
为サ、ルヲ得ス
之ヲ全ノ三千ヲランクニテ禁錮ノ刑ト为ス
ニ此スレハ大ニナル違ナラスヤ
又全ノ三千ヲランクト思ヒタルニ誤リテ二
ヲランクニテ余分ニ竊取シタル時モ矢張有期
ノ徒刑ト为サ、ルヲ得サルナリ
此次条即チ第百七十一條モ不適當ナリ故ニ之
ハ同シク用ヒサレ方ト考ヘリ
第百七十條
先ツ本條ニ仍ル時ハ三千ヲランク以上以下
ノ金高ニ拘ハラス受取タル金高ノ平均ニ仍
ルモノナリ

例ハハ一度受取タル金高ノ内ニテ其三分一ヲ窃取シタル時ハ有期ノ徒刑ト為ス故ニ仮令其金高ハ三千ヲラン以上ニテモ有期ノ徒刑ト為ス又ハ許多ノ金高例ハハ三万ヲラン以上ニテモ其三分一ヲ窃取シタル時ハ有期ノ徒刑ト為スヤリ
仍テ其受取高ノ多少ニ仍リ窃取シタル者ニハ大ニ損徳アリトス
其受取高ノ三分一ト為ス時ハ三千ヲラン以上以下ト云フヘキ程ニモ当ラス極少金即チ三兩位ノ三分一ヲ窃取シタル時ニテモ矢張本條ニ引当ワヘキヤ然ル時ハ大ニ不權衡ノ罪ニアラスヤ

本條ハ固ヨリ一俸ノ權衡ニ適セザルナリ例ハハ一萬五千同ノ金高ヲ受取共内四千同ヲ窃取シタル時ハ有期ノ徒刑ト為ス又四千同ヲ受取共三分一ヲ窃取シタル時ハ一俸三年ヲラシ以下ニ付禁錮ノ刑ニ處スヘキナレ氏本條ニ仍ル時ハ矢張有期ノ徒刑ト為サレルヲ得ス
官吏ニテ公ケノ文書ヲ贋造シタル時ハ固ヨリ文書ノ贋造ニ付共害タル公私ニ於テ異ナルヲトナシ故ニ其刑ニモ區別ナシトス官吏ハ固ヨリ政府ノ代理ニテ上下ノ人民一般ヨリ信用ヲ受リヘキモノナリ故ニ文書ノ贋造ニ於テ公私ノ害ノ多少トニ拘ハラズ均ト

シテ無期、徒刑ト為スナリ
然ラハ官吏ノ預リタル官金ヲ竊取シタル時
モ同様其金高ノ多少即チ其害ノ多少ハ論ス
可カラサル歟ナラスヤ
且存條ノ罪ヲ有朝ノ徒刑ト為スハ少シク
ニ失セリト考ヘリ

監守自盜ニテハ反令ヒ五百圓ヲ竊取シタリ
トモ政府ニ共テハ格別害ト為スヘキニアラ
ス又人民ニテ直チニ其害ヲ受リヘキニアラ
ズ自然ト其害ヲ受リヘキナレトモ其害タル
固ヨリ少シトス

然レ政府ニテ命シタル官吏ハ國民一般ニ共
テ最信用ヲ為スヘキモノナルニ却テ斯ノ如

キユトヲ為ス時ハ即政府ノ信用ヲ失フノ害
ト為ル故ニ之ヲ罰スルナリ

然ラハ其金高ノ多少ニ仍テ處スヘキモノニ
アラス故ニ只罰金ヲ以テ之ヲ罰スルテ相当ナ
リト考ヘリ

第百七十二條ヲ見ルヘシ之ハ適當ナリ何ト
ナレハ其金高ノ多キ時ハ其罰金ヲ多ク為ス
ナリ然ルニ實決ノ刑ヲ金高ニ仍テ處スルハ
不適當ナリト為ス

第百七十條中ニ保証金云々トアリ
故ニ其受取金ノ三分一ニアラス四分一ヲ竊
取シタリ然シ其金高ノ會計官吏ヨリ兼テ出
シタル保証金ニ當ルカ又ハ過クハ時ハ失張

有期ノ徒刑ト為シ又三千ヲランク以下ニテ
七其受取高ノ三分一ナルカ或ハ其保証金ニ
当ルカ又ハ過クル時ハ何レモ有期ノ徒刑ト
為ス

故ニ本条中ノ刑ニハ其金高ノ多少等大ニナ
ル連ヒアルトモ總テ同シ刑ニ処セサルヲ得
ス

**保証金ニ当トアリ故ニ其金高以下ナル時ハ
如何**

其保証金ヲ過キサレハ本条ニ仍テ論セサル
ナリ

然ラハ保証金ヲ過キサルトモ受取高ノ三分
一二至リタル時ハ如何

仮令モ保証金ノ以下ニテモ其受取高ノ三分
一ナレハ同シク本条ニ仍ルヘキナリ

又仮令モ其三分一以下ニテモ保証金ヲ過ク
ル時ハ又同シク本条ニ仍ルヘキナリ

又受取金ノ三分一ナル時ハ仮令保証金ヲ過
キサルトモ固ヨリ本条ノ刑ニ入レテ論スヘ
キナリ

又レハ了**解**セリ本条中ニテ**当**ルト過ルトハ
如何ナル速セアリヤ

前条ノ三千ヲランク以上云々ト云フ訳ケト
ハ異ナリ故ニ本条ニ指テハ其金高ニ拘リタ
ルコトニアラス

即チ三分一云々トハ其竊取シタル金高ノ受

取高三分一ニ当ルカ過キタル時ヲ云ヒ又保
證金云々トハ其保証金ノ高ニ当ルカ又ハ過
キタル時ヲ云フ之ハ総テ同シ刑ト為スナリ
其竊取シタル金高ヲ償ハシムル時ハ其保証
金ヨリ差引スヘキハ勿論ナルヘキナレトモ
其罰金ヲ保証金ヨリ差引ク譯ニハ為ラサル
ヤ
其罰金ハ保証金ヨリ差引可カラサルナリ
本条ハ三ツノ事柄ニ分ツヘキナリ
第一其竊取シタル金高ノ保証金ニ当ルカ又
ハ過キタル時
第二同シク其受取高ノ三分一ニ當ルカ又ハ
過キタル時

第三一ヶ月間裁度ニモ受取タル金高ノ三分
一ニ當ルカ又ハ過キタル時
之ヲ三ツノ事柄ニ分ツ時ハ教師ノ考ニハ一
度ニ受取タル金高ノ三分一ニ當ル等ノ時ハ
無期ノ徒刑ト為シ
一ヶ月間裁度ニモ受取リタル金高ノ三分一
ニ當ル等ノ時ハ有期ノ徒刑ト為シ
保証金ニ當ル等ノ時ハ其受取高ノ三分一以
上以下ニ拘ハラヌ有期ノ徒刑ト為スヘキナ
リ
保証金ニ當ル時ハ固ヨリ其保証金ニテ償ヒ
得ヘキニ付其刑ヲ輕ク為シ只其保証金ヲ過
キタル時ノニ本条ノ刑ト為シテ然ルヘキニ
同法省

アラスヤ

何故ニ其保証金ニ当ルト過クルト同一ニ為セルヤ

之ハ何故ナレハ其保証金ト同額又ハ其以上以下トノ區別シ立ツル時ハ其以上ニ過キテ重キ刑ニ処セラレサルコトヲ計リ故意ヲ以テ其區別ニ基キ金高ヲ減シ程能ク竊取スルノ弊ヲ生スヘキ故ナリ
一体保証金ヲ出サシムルハ其竊取シタル金ヲ償フヘキ為メアラス全ク官吏ノ失錯ニテ政府ノ損害ト为ルヘキ時之ヲ其償ハシムル為メナリ
其保証金ニテ償フヘキコトヲ目的ニ官金ヲ

竊取スルカ如キ不正ノ者ハ官吏ト为サ、ル訳ナリ然シ到底本条ハ不都合ノ条ナリト考ヘリ

故ニ教師ノ考ニハ其金高ニ拘ハラス「レクレシヨシ」ニテ罰スヘキナリ若シ又「レクレシヨシ」ニテモ重シト为ス時ハ輕罪ニ为ストモ可ナリ

故ニ金高ニ仍テ其區別ヲ为スハ未タ十分ニ盡シタル法律ト云フヘキモノニアラス
例ハ今日會計官ニテ金入レヲ所持セス聊カノ金高ニ差支ヒ翌日ニモ償フヘキ積リニテ官金ヲ竊取シタル時ハ固ヨリ一時私借ニタル迄ノコトニテ真ノ竊取ニアラス

然レ仮令ヒ一時ノ私借ニテモ五十圓以上ニ
モ及フ時ハ全クノ竊取ト見為サ、ルヲ得ス
一体官金ヲ私借スルハ固ヨリ不條理ナルコ
トナリ
一時ノ差支ナレハ同役ニ借リタリトモ濟ム
ヘキ筈ナリ故ニ之ハ決シテ為ス可カラサル
コトナリトス
假令ヒ一時タリトモ固ヨリ為ス可カラサル
コトナリ然レ或ヒハ同役ヘ相談シテ之ヲ為
ス等ノコトナキニアラス仍ラ日本ニテモ其
刑法ヲ設ケタリ仙國ニテモ此罪ヲ犯シタル
者ハ矢張本条ノ刑ニ仍テ処スヘキヤ
之ハ決シテ為ス可カラサルコトナリ

又同役モ之ヲ承知スヘキコトニアラス
然レ保証金アル者ニテ其情状ノ已ムヲ得サ
ル次才アル時ハ成ル丈ケ寛ニ処スヘク又僅
少ノ金高ナレハ譴責ヲ為スカ或ハ免職ヲ為
スヨリ外更ニ罰スヘキナラス
故ニ本条ニ仍テ処セサルナリ
之ハ畢竟最初ヨリ竊取スヘキ本意ニアラス
必ラス償フヘキニ相違ナシト見為ス故ナリ
私借ノ儘ニテ官金ヲ償フコトヲ得サル時ハ
本條ノ刑ニ處スヘキナリ
若シ之ヲ償ヒ得タル時ハ本条ニ入レテ論セ
ス行政上ノ処分ト為スヘキナリ
然レ斯ノ如キコトハ元來決シテナキ筈ナリ

斯ノ如キ罪ニ付テハ此刑法ノ外別ニ設ケタル法律ナキヤ

官金ノ私借ニ付テハ別ニ其法律ナシ之ハ會計ノ規則中ニ仍テ処スヘキコトナリ然レ受取ル可カラサル金ヲ受取りタル罪ハ後条ニ記セリ

金高ニ仍テ罪ノ輕重ヲ分ツハ本条ノ罪ニ限レリト云フ然ラハ此法律中ニ本条ノ外金高ヲ以テ其罪ノ區別ヲ為シタルコトナキヤ實決ノ刑ニ於テハ金高ニ依リ其區別ヲ分ツコトナシ只官吏ノ賄賂ヲ取リタル罰金ノ高ハ其金高ノ多少ニ依ルヘキナリ其外竊盜詐偽取財又ハ詐偽分散等ハ金高ニ

依テ其罪ノ輕重ヲ分タサルナリ

一体金高ニ依テハ其罪ノ輕重ヲ分ツ能ハサルモノナリ

何トナレハ其害ノ多少ハ竊取シタル金高ノ多少ニ依ルヘキニアラス其竊取セラレタル者ノ財産ノ多少ニ依ルヘキナリ

例ヘハ三井ニテ百円ヲ竊取セラレタルトモ他ノ通常ノ者ニテ百円ヲ竊取セラレタルニ比スレハ其害ヲ受クルノ多少ニ於テ大ニ違ヒアルヘキナリ

故ニ其害ヲ為スノ多少ヲ分ツハ竊取セラレタル者ノ財産ノ多少ニ依ラサル可カラス然レ此財産ノ多少ニ依テ害ヲ為スノ多少ヲ

分ツノ法ヲ日本ニテ設クヘシト勸ムルニア
ラス

之ハ固ヨリ容易ナラサルコトナリ

何トナレハ人民ノ財産ノ多少ヲ査定スルコ

トハ到底為シ能ハサルコトナレハナリ

畢竟一体ノ旨意ニ於テハ斯ノ如クナルニ過

キスト云フコトナリ然レ己ムヲ得サレハ一

ツアリ即チ酌量軽減ナリトス

金高ノ多少ニ於テハ害ナレト云フハ畢竟道

徳上ノ論ナルヘシ然レ再々之ヲ論スレハ其

金高ノ多少ニ依リ情状ニ於テ軽重アラサル

ヲ得サル譯ナラスヤ
其情状ヲ以テ軽重ヲ分ツニハ例ヘハ一ツノ

刑、内ニテモ何年ヨリ何年迄トノ年限中ニ

テ其刑ヲ融通シ得ヘキナリ故ニ之ハ全ク裁

判官ノ鑑定ニ依テ其輕重ヲ審判セシムヘキ

款ナリ

其罪ノ景况ニ依リ其害少キカ否トニ一年ノ

刑期ニテモ尚重シト為レ之ヲ輕ク為サレト

スル時ハシルソムスリンスアツテモヤレヲ

用ユヘキナリ

例ハ人カ挽ニテ市中店先キノ草鞋ヲ竊取シ

タル等ノ罪ハ一年ノ刑期ニテモ又ハ一ヶ月

ノ刑期ニテモ重シト為スヘキナリ

其時ハシルカムスタニスアツラニヤレヲ用

ユヘシト為ス

其罪ノ情状ニ依テ輕減ヲ為ス時ハ固ヨリ其
一刑中ノ極短期ニ迄輕減シ得ヘキハ勿論
ニ輕罪迄ニモ輕減シ得ヘキナリ
然レ日本ニテハ陪審ノ法ナキ故ニ裁判官ニ
テ常ニ輕減ヲ用ヒ難キノ患アルヘシ
陪審ノ法ヲ設ケ之ヲ用エル時ハ裁判官ニテ
輕減ヲ為シ易キナレトモ其法ナキカ爲メニ
容易ニ用エルヲ得サルヘシ
之ハ大ヒニ不適當ノ裁判ヲ為スニ至ルヘシ
其刑ヲ重キニ失スルノコトナラズ輕キニ失ス
ルノ患アルヘキナリ
何トナレハ殊ニ寄一年ノ刑期ト爲メハ重キ
然レトモ其以下ニ輕減スル能ハズ之ヲ重キ

ニ失セシヨリハ寧ロ輕キニ失シテ無罪ト爲
スニ如カスト見込ヲ立裁判スルノ弊ヲ生ス
ヘキナリ故ニ輕減ハ成ルヘキ丈ヲ用ヒ易キ
様ニ定メ置クヘキナリ
曾テ説キタル如ク仏國ニテハ千八百三十二
年ニ於テ始メテ酌量輕減ノ法ヲ用ヒタルモ
ノナリ
故ニ同年ノ以前ハ陪審ニテ其犯人ノ爲メ答
辯ヲ爲スニ多言ヲ用ユルヲ得ス只其罪ノ有
無ヲ云フノミニテ其他自分ノ意見ヲ述ヘサ
ルナリ
一体陪審ヨリ酌量輕減ヲ求ムルハ其罪ヲ宥
ムル爲メニアラス其罪ノ有無ヲ述ヘ且ツ之

ニ如何ナル刑ヲ用ユヘシト云フコトヲモ述
フヘキニ付自ラ刑ノ適當ヲ得ヘキナリ
故ニ陪審ヲ置クハ全ク其刑ノ適當ヲ得ル為
メナリトス固ヨリ其罪ヲ宥ムル為メニハア
ラサルナリ

酌量輕減ヲ多ク用ユヘシト雖モ之ヲ法律中
ニ記スル訣ニモ為ラサルヘシ

然レ成ル丈ケ之ヲ用ヒ易キ様ニ定ムヘキナ
リ
重罪ハ暫ク置キ例ヘハ輕罪ナレハ禁錮ノ刑
ノ内何年ヨリ何年迄トノ刑期ニテ二年ヨリ
短期ヲ起スヘキモノヲ一年ヨリ短期ヲ起ス
カ又ハ一年ヨリ之ヲ起スヘキモノヲ六ヶ月

ヨリ之ヲ起ス等其短期ハ成ル丈ケ短期ヨリ
起スヘキ様ニ定ムル方ト考ヘリ之ハ如何
之ハ成ル丈ケ短期ヨリ起スヘシ
然レ其刑ノ内ニテ平均ヲ失ハサル様ニ為ス
ヘキナリ

余リ短期ヨリ起ス時ハ裁判官ニテ長期迄ノ
間ノ融通ヲ為スコト多ク却テ其權ヲ恣ニ為
スノ弊ヲ生スヘシ
例ヘハ長期ヲ五年ト為ス時ハ短期ヲ一年ト
為シ長期ヲ二年ト為ス時ハ其短期ヲ先ツ六
年ト為ス等ナリ

然ラハ輕罪ニテ五年ノ刑期ヲ重シト為ス時
ハ其短期ノ一年ヨリ五年迄ノ間ニテ十分ニ

其期限ノ融通ヲ為シ得ヘキナリ
其長期ヲ多ク為ス時ハ隨テ短期モ多ク為ス
ヘシ余リ短期ヨリ起ス時^算平均ヲ失フノ害
アリ故ニ之ヲ短期ニ失スルハ不冝

同法

後第十七号 中止

佛國刑法會議筆記 九年五月六日

司
法
省

司
法
省

九年五月六日

第百七十六條

本條ハ置所宜シカラス

官吏ノ職務中自己ノ商賣ヲ為スコトナリ

元來縣令又ハ陸軍ノ指揮官等ハ自己ノ管轄内

ニ於テハ商賣ヲ為スコカラサル成規ナリ

何故ナレハ縣令等ハ其管轄内ノ物品ノ相場ヲ

時々狂ルハス等ノ事ヲ為ル得ヘキ者ナリ仍ラ

之ヲ禁スルナリ

管轄外ナレハ不可ナシト為ス

然リ之ハ本條ニテ禁セサル故可ナリト為スヘ

キナリ

刑法

商賣ト云フコトハ審判セサル可カラサルコト
ナリ
何トナレハニツノ手續ヨリ成リ立ツモノナレ
ハナリ
即チ之ヲ買フトシテ賣トノニツナリ
例ハハ東京府ノ知事ニテ物品ヲ管轄内ニテ買
テ管轄外ニ賣ルコトアリ又ハ之ヲ管轄外ヨリ
買テ管轄内ニ賣ルコトアリ何レノ手續ニテモ
均シク商賣ヲ為ス譯ナレハ本条ニ拠セサルヲ
得ス
仮令管轄外ニテ買ヒタリトモ自分ノ日用ノ外
品チ之ヲ賣テ高利ヲ得ルノ為メナル時ハ之ヲ
其管轄ノ内外ニ拘ハラス全ク商賣ト為ン本条

ニ入レテ論スハキナリ
然シ管轄外ニテ買ヒタル時ハ其買ヒタル而已
ヲ以テ直ニ此禁ヲ犯シタリト云フコトヲ得ス
之ヲ管轄内ニ賣タル後ニアラサレハ強テ商賣
ヲ為ストハ見為シ難シトス
然シ管轄内ニテ買ヒタル時ハ其買ヒタル而已
ニテモ此禁ヲ犯シタリト云フコトヲ得ル故ニ
其内外ニ於テハ已ニ賣リタル後ト未タ賣ラサ
ル前トヲ以テ之ニ差違アリ
固ヨリ其賣買ニツノ手續ヨリ成リ立ツヘキモ
ノナレハ管轄外ニテ買ヒタル時ハ或ハ又其後
管轄外ニテ賣ルヘキヤモ知ル可カラス故ニ必
ラズ之ヲ管轄内ニ賣リタルヲ見テ然ル後罰ス

ハレト為ス

又管轄外ニテ之ヲ賣ヒ只其賣ラントノ引合ヲ
管轄内ニ為シタル而已ニテ相場違等ニテ未夕
賣リ切ラザル時ハ「タルダチ」ト為スヘキヤ
之ハ「テリ」即チ輕罪ニテ刑法中ニ場ケサルモ
ノナレバ「ダレダチ」トハ為サベルナリ

元來官吏ハ自己ノ管轄内ニテ高賣スル能ハサ
ルトノ原則ナリヤ

或ル官吏ニテハ然ラ高賣ヲ為スタ得ス即チ裁
判官檢事等ナリ之ハ自己ノ管轄内ニ限ラス全
國中ニテ為スタ得サルモノトス尤刑法ニ仍テ
罰スルニアラス別ニ其譴責ヲ受テハキナリ然
レ若シ其譴責ノ後尚ホ之ヲ止メサレハ不抜ハ

權アル者ト虽モ免職セラレサルヲ得ス。
縣令等ハ物品ノ相場ヲ狂ハシ得ヘキ權アル者
ニテ人民ノ害ヲ為スコト多シ故ニ刑法ニ仍テ
罰スルナレ氏裁判官等ハ其相場ヲ狂ハシ得ヘ
キモノニアラス畢竟夫カ為メ自ラ其事務上ニ
不注意ヲ生シ懈怠ノ患アラシクコトヲ戒シタル
詎ナリ
故ニ之ヲ刑法ニ仍テ罰セス譴責等ニ止マルモ
ノト為ス

縣令又陸軍ノ指揮官等ハ他ノ地方ヨリ管轄内
ヘノ運送品ヲ支阻シ得ヘキ權カアル者ナリ故
ニ其自己ノ高賣ヲ擅ニシ他ノ運送品ヲ阻防ス
ル等ノ害ヲ生セサルカ為メ之ヲ禁スルナリ

裁判官等ハ依令極上等ノ位置ニアル者ト虽モ
他ノ運送品等ヲ支阻スルノ権力ナシ故ニ其害
タル事務上ノ不注意ヲ生スルコト即チ間接ノ
害而已ニテ其運送品ヲ支阻スル如キ直接ノ害
ヲ為スモノニアラス

只其官吏タル自己ノ品行上ヲ損スルト事務上
ニ不注意ヲ生スルコト、ヲ戒シムル為メニ之
ヲ禁スルナリ

本條ニ掲ケタル官吏ノ内ニテモ自己ノ管轄外
ニテ商賣ヲ為レタル時ハ別ニ罪ト為スニアラ
ス然レモ官吏ニテ之ヲ為セハ自ラ其事務上ニ
不注意ヲ生シ粗漏ニ失スルノ弊アルニ仍テ之
ヲ禁セリ故ニ之ヲ免職セラレサルヲ得ナリ

コト、為ス

裁判官ニテハ刑法ニ明文ナキ故ニ依令自己ノ
管轄内ニテ之ヲ為ストモ罪ト為サレタルハ
シ

然リ

本條中ニハ穀物等ノ飲食ニ限レリ故ニ總テノ
商賣ヲ為スヲ得スト云フコトニ非サルニ似タ
リ

本條ニ記セサル外ノ物品ハ商賣ヲ為ストモ真
ノ罪トハ為サス

穀物等ハ畢竟人生日用欠ク可カラザルモノニ
テ其害ヲ為スコト多ケレハナリ

穀物等而已ニ限ラス官吏ハ總テノ商賣ヲ為ス

可カテスト為シテハ如何

假令之ヲ一般ニ禁スルトモ刑法ヲ以テ罪ト為サ、ル様ニ其法律ヲ立ツヘシト考ヘリ

例ヘハ真木ヲ賣リタリトモ別ニ害ヲ為スヘキニアラス然レ夫カ為メ其事務上ノ不注意ヲ生スルノ患アル而已ナリ故ニ之ハ譴責ト為ス位ニテ刑法ヲ以テ罰スヘキノ罪ニハ至ラサルナリ

尤絹類又楨等ヲ賣リタルトモ聊カ其害ナキニ非ラサルハ穀物等ト違ヒ人生ノ饑渴ニ迫ルカ如キ害ヲ生スルニアラス

本條ニハ食物ノ内肉類ヲ云ハス只人生ノ日用中最欠ク可カラザルモノ而已ヲ記シタルモノ

ナリ

佛国ニテハ牛馬ヲ畜養スヘキ鳥麦モ粉ト為スヘキ性質ノ者ニ付此内ニ入レヘキナリ

又大麦モ麦酒ニ醸スヘキモノニ付同レク此内ニ入レヘキナリ

品行上ト事務上トニ関スルコトヨリ論スル時ハ刑法ニ何ラス譴責ヲ為ス而已ト云テ然レシレニモ一体ハ五百「フラン」位ノ罰金ヲ科スルトモ可ナリト考ヘリ

官吏ノ商賣ハ本人ニテ自ラ為シタル而已ニアラス或ハ代理人ヲシテ為サシメタリトモ罰セサルヲ得サルナリ

即チ他人ノ介入ヲ以テ云ヒトアル等之レナリ

故ニ仮令親子兄弟又ハ朋友ヲシテ之ヲ為サシ
ムルトモ同シク罰スヘキコト、為スナリ
然レ縣令等ニテ之ヲ托シテ為サシメタルカ又
ハ全ク其朋友等ノ自分ノ高賣ナルカハ裁判官
ニテ監定セサル可カラサルナリ
民法ニテハ總テ法律上ノ思料ニテ裁判ヲ為ス
コト多クレハ刑法ニテハ法律上ノ思料ニテ之
ヲ為スコト至テ少シ然ルニ此高賣ノ自他如何
ナルトノ場合ニ於テハ裁判官ニテ實地ノ事柄
ニ付法律上ノ思料ヲ用ヒ監定シタル上罰スヘ
キコト、為スナリ
例ハ、兇徒ニ家ヲ竄シタルヲ附從トシテ罰ス
ルハ畢竟思料而已ヲ以テ判断スルモノナリ

何トナレハ只其家ヲ竄シタル而已ニテハ真ニ
其悪事ニ附從モタリヤ否ヤ弁知ス可カラサル
ナリ然ルニ其竄シタル而已ノ証アル時ハ必ス
之ヲ罰スルト云フハ即チ仮令其附從ヲ為サ、
ルトモ己ニシテ為シタルモノト思料スヘキモ
ノナレハナリ
本條中ノ罰金ノコトニ付尚ホ説クヘキコトア
リ
前條ニハ己レノ取りタル贓物ニ付テハ之ニ罰金
ヲ科スルノ定限アリ
然ルニ本條ニテハ其高賣ノ金高ニ仍リ罰金ヲ
科スルノ定限ナシ故ニ其金高ノ多少ニ拘ハラ
ス五百「フラン」クヨリ一萬「フラン」迄ノ罰金ヲ

言渡スナリ

且其高賣ヲ為シタル品物即チ穀物等ヲ没収スルナリ之ハ酷ナラスヤ

然レ買主ニハ罪ナシト為ス

縣令等而已ニ罪アリト為ス

故ニ之ヲ已ニ買ヒタル上ハ其買主ヨリハ其物

品ヲ取り上ケサルナリ

縣令等ニテ高賣スル為メニ買ヒタル時ハ之ヲ

賣^ラサルトモ直チニ其品物ヲ取上ケヘキナリ

本条ニハ「品物」ト記セリ故ニ若シ其品物ヲ賣リ

テ已テニ金ト替リタル時ハ取り上ケサルナリ

然レ之ヲ綿密ニ論スル時ハ少シク面倒ヲ生ス

ルコトアルヘシ

例ハ穀物何斗ト云フ如キ不確定ノ品物ニテ

手附金ヲ取りタル而已ニテ未タ其品物ヲ渡サ

ル時ハ其金ヲ買主ヘ返サ、ルヲ得ス若シ賣

主ニテ之ヲ返ス能ハサル時ハ買主ヨリ其許ヲ

為スヘキナリ

先ツ之ヲ確定ノモノト為シ仮令買主ニテ引取

ラサルトモ土蔵へ入レタル俟ニテ封印ヲ附ケ

タル時ハ如何

其時ハ已ニ買主ヘ引取りタルト同様ニ是為ス

ナリ故ニ取上ルコトヲ得ス

一体品物ハ其没収セシメテ高賣ノ金高ニ仍

リ之ニ罰金ヲ科スル方宜シト考ヘリ

爰ニ一疑問アリ

買主ヲ「コンプリスト」ト是做ス一キヤ如何
但官吏ノ商賣ナルコトヲ知リテ買ヒタル者ヲ
云フ

其時ハ固ヨリ買主ヲ「コンプリスト」ト為ス然レシ
ハ附從條第六十條ノ第三項ニ入レルヘキモノ
ナリ

又官吏ノ助ケヲ為シ高賣シタル者ハ全ク「コ
ンプリスト」ト為スナリ

然レ其買主ノ内不能力ノ者ニテ然テ之ヲ買フ
コトヲ得サルモノナル時ハ「コンプリスト」ト為ス
之ハ通常ノ法ヲ返体ニ為シタルモノナリ

第百六十七條

本條ハ賄賂ヲ取ルノ約束ヲ為シ又ハ之ヲ取リ

タルコトナリ

之ハ其官吏ノ職務ニ付テ枉法ヲ為サレハん為
メ他ノ者ヨリ贈遺シタル時ヲ云フ

賄賂ノ罪ハ過日モ説キタル如ク本條ニ於テハ
重罪ト為シ第百七十五條ニ於テハ輕罪ト為ス

ナリ殆ンド同様ノ罪ニテ斯ノ如ク區別ヲ為ス
ハ宜シカラス一体ハ第百七十五條ヲ重ク為ス

カ又ハ本條ヲ輕ク為スカニテ平等ニ為シ置ク
ヘキナリ

尤此ニケ条ハ其損害ヲ受クル多少ニ於テ聊カ
差違アリ

第百七十五條ハ政府ノ損害ヲ受クルモノナリ
本條ハ人民ノ損害ヲ受クルモノナリ

何テ政府ノ損害ハ其害タル少ク人民ノ損害ハ其害タル多シト為ス故ニ自ラ夫レ丈ケノ差違アラサルヲ得ス然ラハ其刑ヲ區別スルトモ強チ不推衡ト云フニモアラサレヒ又十分ニ其推衡ヲ得タルモノトハ為シ難シ
其性質ハ同シコトナレヒ其事態ニ於テハ自ラ差違アルノ主意ヲ以テ區別ヲ為シタルモノナ
ルヘシ

第百七十五條ノ第二項ニ會計ノ差違等ヲ為スヘキ時其不精善ヲ知テ之ヲ督サス拂フヘシト云ヒタル者ハ却テ人民ヲ利セシニテ損害ヲ掛ケタルニアラサレヒ之ヲ其俟拂ヒタルハ即チ政府ノ損害ヲ為シタリ然レ法律ノ主意ハ政府

ハ富ミタル者ナリ仍テ其害少シ人民ハ貧ナル者ナリ仍テ其害多シト為ス故ニ之ヲ區別シタルモノナリ

人民ヨリ賄賂ヲ取タルニテモ之ヲ出ス丈ケハ畢竟人民ハ自ラ利ヲ計ル為メナレハ一概ニ其害ヲ為ストモ見為レ難シ然ラハ此ニケテ均レキモノナルニ違ヒナカルヘシ

例ハハ裁判官ニテハ反令賄賂ヲ取りタリトモ裁判ヲ正レク為シタル時ハ政府ハ勿論人民モ其害ヲ受クルコトナレ然レ政府ヨリ給金ヲ受ケタル者ニシテ人民ヨリ賄賂ヲ取ルハ更ニ不正ノ所為ト為ス故ナリ

其月給ヲ受クル上ヨリ論スレハ猶更同様ノ理

ナラスヤ

其月給ヲ受クルハ同様ナレバ政府ノ金ヲ取ル
ト人民ノ金ヲ取ルトノ違ヒアリ

例ハハ裁判ノ決判ヲ遅延スル時ハ許多ノ害ヲ
生センコトヲ恐レ之ヲ速ニ為サレメンカ為メ

裁判官ハ賄賂ヲ贈リ仍テ速ニ決判シタル等ハ
政府モ害ヲ受ケス又人民モ害ヲ受ケサレバ全

ク人民ヨリ賄賂ヲ取リタル犬ケノ不正ナルコ
トヲ以テ罰スル譯ナリ

然レバ本條ノ第二項ハ全ク賄賂ノ為メ其職務
ヲ停止枉法ヲ為レタルコトナリ之ヲ矢張第一

項ト同シク為スハ如何
一体第一項ヨリ第二項ノ罪ヲ重シト為人

日本ニテハ之ヲ分テ二様ニ為セリ

ホアソナートレハ二様ニ分ツヲ以テ可ナリト考ヘ
リ

第一項ハ其職務上ニ於テ法ヲ枉ケス正シク
為レタルヤモ知ル可カラス故ニ人民ニ對シ

テ害ヲ為スコトナク只其賄賂ヲ取リタル
コト而已ナリ

第二項ハ裁判官ノ之ヲ取リタルヨリ人民
ノ之ヲ贈リタル方ノ罪ヲ重シト為ス何ト

ナレハ之ヲ贈リテ其職務ヲ停止スヘキ様
ニ為サレヌタルモノナレハナリ

故ニ第一項ニ於テハ人民ヲ「コンプリスト」ト
ハ為サ、レバ第二項ニ於テハ之ヲ「コンブ

リスト為スナリ

第二項ハ官吏ヲ以テ人民ヨリ輕レト云フ
ニハアラサレ凡其人民ヲ以テコンプリス
ト為スヲ以テ第一項ニ比スレハ人民ノ罪ヲ
重レト為スノ理ナラン

然リ

又第百七十五條ノ罪ハ之ヲ見出スコト易
レ

仮令第百七十五條ト第百七十七條トヲ一様
ノ罪ト為スヘレト云フトモ一体ハ第百七十
五條ハ其罪ヲ見出スコト易キ故之ヲ輕ク
為スモノナリ

例ハ其金ヲ渡レタル簿冊等ニ仍テ取調

フルカ又ハ監察ヲ以テ取糾ス時ハ直チニ見
出スコトヲ得ハキナリ

第百七十七條ハ其職務ヲ行フノ正不正ニ拘
ハラス如何シテ賄賂ヲ受ケタリヤ之ヲ見
出スコト甚難シ

故ニ若シ之ヲ見出レタル時ハ此ノ如ク重ク
為スト云フコトヲ示レタルモノナリ

一休第百七十七條ノ第二項ト第三項トヲ一
ツ纏メ第一項ヨリ少レ重ク為レテ可ナラ
スヤ

第三項ハ別ニ置クヘレ尤必ラス前二項中へ纏
メントナレハ先ツ第一項ニ入レ置クハキナ
リ

然レ茅三項ノ偏頗云々ト云フハ茅一項ノ賄
賂ヲ取リタル而已ニテ不正ヲ為サ、ルト違
レ全ク不正ノ斷判ヲ為レタルコトナラン
然ラハ茅二項ニ入レル方ト考ヘリ
ホアソナードトハ茅一項ト茅二項トヲ一ツニ為
スヘシト考ヘリ

何トナレハ茅三項モ必ラス常ニ不正ノ所
為ヲ為ストモ定メ難シ正シキヨトアルヤ
モ知ル可カラサレハナリ
且譯文偏頗ノ字ハ「ハヴ」ト「ブル」トノ原語
ニテ双方ノ内一方ノ都合能ク為スト云フ
意味ナリ

即チ其都合能ク^{テ決定}テ^レレ^レヨ^ンヲ^レ為^レシ又ハ^テ見^ルハ^テ立^ツル^ニコ

ラント云フコトニテ必シモ偏頗ニ不正ノコト
ヲ為スニモ限ラサルナリ

然ラハ偏頗ノ字ハ少シ其意ヲ書キ過コシタル
モノナレ

然シ贈遺ヲ為シタル者ノ為メニ都合能キコト
ヲ為シタル罪ハ自ラ第一項ヨリハ少シ重シト
為シテ可ナラン

「ボアソナード」ノ説ハ一方ノ者ノ都合能ク為シ
タルコトハ急度不正トモ見做シ難シ仮令其贈
遺ヲ受ケサルトモ正シク裁判シテ其都合能キ
コト、為ルヘキヤモ知ル可ナラス

然レ之ヲ罰スルハ其贈遺ヲ受ケタル慮ヲ、

第一項ニ従令正當ノ事ナリトモレトアリ故ニ其
不正當ナル時ハ固ヨリ言ヲ俟タス仮令正當ナ
リトモ本條ノ刑ニ處セサル可カラサルコトヲ
示スモノナリ

其正當不正當ヲ論セス斯ノ如ク示シタルハ何
トナレハ例ハ其報金ヲ受ケタリトモ裁判官
ニテ自分ハ一體ノ法ヲ枉ケサルニ付其罪ナシ
ト辯駁スルヤモ計ルハカラサル故ナリ

仍テ第三項モ同シキ事柄ト見做サレ可カラ
ス

然レ其正當不正當ニ拘ラス贈遺ヲ受ケタルヲ
以テ罰スヘキモノト為スナリ

第二項ハ之ト違ヒ裁判官ト人民ト共ニ罪アリ

其事柄ノ正不正ニ拘ハラズ職務ヲ停止シタル
廉ノミヲ以テ正當ノコト、為ス何トナレハ
仮令如何ナル場合ナリトモ自分ノ職務ヲ停止
スルノ道理ナキ故ナリ

故ニ第二項ハ其刑ヲ重ク為シ公權剝奪ノ外ニ
五年ノ禁錮ヲ添テ適宜ナリト考ヘリ

然レ之ヲアレクレシヨシト為スハ余リ酷ニ失ス
ヘシ何トナレハ「ナール」杯ニテモ葡萄ノ收納ニ
付布告スルコトアリ其時ハ葡萄ノ相場ニ關係
スル故ニ或ヒハ其布告ヲ猶豫セント頼ムモノ
アリ斯ノ如キ小事ニ付テモ之ヲ罰スル時ハ必
ラズ本條ニ入レテ論スヘキナリ故ニ此第二項
ノ罪ヲ以テ一概ニ重ク為シ「アレクレシヨシトス

ル時ハ其事柄ノ大小ニ仍リ酷ニ失スヘキナリ
軽罪ト為シテ当然ナラスヤ

又邑長ハ穀物油等ノ相場書ヲ作りテ出スヘキ
モノナリ故ニ若シ他ノ者其相場書ヲ出スコト
ヲ暫ク猶豫スヘシト頼ムコトアリ之等モ固ヨ
リ大害ヲ生スヘキニアラス故ニ「レクレシヨシ」
ハ為スコカラサハナリ

譯文中ニ判断人トアハルハ中裁人ノコトナリ之
レハ裁判官杯ト同様ニ見為スヘキモノナリ
固ヨリ裁判官ニハアテサレ凡人民中ニテ訴訟
ヲ為サントスル場合ニ於テ之ヲ中裁スルモノ
ナリ

即チ裁判所ノ撰ミニ仍リ「去」トアリ故ニ之ハ

裁判所ヨリ命シテ其中裁ヲ為サシムルモノナリ

然レ現今ハ此中裁ノ法ナシ尤チ八百六十七年
迄ハ商法ニテ會社ノ分派金ノ訴訟ヲ生シタ
時ニ裁判所ヨリ命シテ中裁セシメタルコトア
リ之ハ強テ中裁ヲ以テ處セサル可カラサハル時
ニ於テ多ク押レ付テ為サシムルモノナリ

**現今ハ裁判所ヨリ命シテ中裁セシムルコトハ
全ク法律上ニ成規アリサルヤ**

然リ之ヲ廢セリ
爰ニ評價人トアハルハ監定人ノコトナリ之ハ現
今ニテモ用ユルモノナリ
已前ハ多ク中裁人ニテ訴訟ヲ決断ヲ為シタル

モノナリ今日ハ會社ノコトニ付テ或ヒハ之ヲ
用ユルコトアリト虽モ其意見ヲ述フル而已ニ
テ其決断ヲ為スハ大張裁判官ニ限ルヘキコト
、為ス

第百七十五條ト第百七十七條ノ罪ニ輕重アル
ハ何トナレハ一方ハ其惡事ヲ具出シ難ク一方
ハ見出し易キヤ為シニ一度犯シタリトモ又之
ヲ補ヒ得ヘキモノト否ラサルモノトヲ以テ其
輕重ヲ立テタム譯ナリ

其外別ニ主意アルニアラス全ク之ヲ以テ其輕
重ヲ立テタム大主意ト為ス之ハ刑法ヲ編制ス
ルモノ、知ラサル可カラサルコトナリ

例ハ毒殺ト通常ノ人殺トヲ以テ論スルハ通

常ノ方ハ謀殺故殺等ノ區別アリ然ルニ毒殺ニ
ハ其區別ナレ

故ニ毒殺ノ方ニハ殊ニ毒藥ト心付カス共ヘ
テ死シタル時ト又ハ其毒藥ヲ与ヘテ効驗ヲ為
サ、ル時ト其毒ト否トノ判断ヲ為スハ難シ故
ニ其區別ヲ立テス之ヲ重ク為レタルモノナリ
又初生兒ハエタレウヒルヲ以テ八日迄ニ届
出スヘキニ付其届出テ為サ、ル内ニ殺モタル
時ハ之ヲ見出スコトヲ得ス故ニ其見出し難キ
コトヲ保護スル為メ大張謀殺故殺ノ區別ナク
重ク為スナリ

官ノ文書ヲ贋造シ金ヲ取リタルニ官吏ナレハ
無期ノ徒刑ナリ平民ナレハ有期ノ徒刑ナリ

通常ノ盗罪ナレハ「レクレシヨシ」ナレ「凡文書」ノ
贋造ハ「総テ」徒刑ト為シテ之ヲ重ク論ス之ハ畢
竟見出レ難キ故ナリトス
又通常ノ竊盗ナレハ「禁錮」ナリ
見出レ難キヲ以テ重ク為スノ原因ハ「モラール」
ニ害アル故ト為スカ又ハ之ヲ重ク為セハ見出
レ易キトノ「便利法」ナリヤ
見出レ難キコトニハ多ク人民ノ害ヲ為スコト
アル故ナリ例ヘハ「エレキトル」ノ「器械」ニテ人ヲ
殺スハ其害ヲ防キ難キ等ナリ
又例ヘハ「強盜等」ハ「番人」ヲ付ケ置クトモ防キ得
ヘキナリ然ルニ「毒殺」ハ之ヲ防クヘキ方法ヲ為
スコト甚々難シ

仍見出レ
難キコトハ之
ヲ重ク為ス
ナリ

一人ヲ罰スルハ「モラール」ヲ損スルト公益ヲ
害スルト「ニツ」ニ「仍ル」ヘキモノナリ
大抵ハ公益ノ害多ケレハ「モラール」ヲ損スルコ
トモ之レニ「準」レテ多シト為ス
盗罪ト「贋造」ト「子殺」ト「人殺」ト「毒殺」ト「謀殺」ト之レ
等ハ何レヲ以テ害ノ多キモノト為スカトナレ
ハ「總テ」其見出レ難キ罪ハ必ラス其害多シト為
ス
故ニ「第百七十五條」ノコトハ例ヘハ之ヲ為シタ
ル後ニ至リ他ノ者ニテ「検査」スル時ハ之ヲ見出
レ得レコトナリ
「第百七十七條」ノコトハ之ヲ見出レ得ルコトナリ

第百七十七條ノコトハ之ヲ見出し難レ殊ニ其
中途ニテハ到底見出ス能ハサルモノト為ス
故ニ其輕重ヲ分チタルモノナリ

司
去
省



